建築と社會

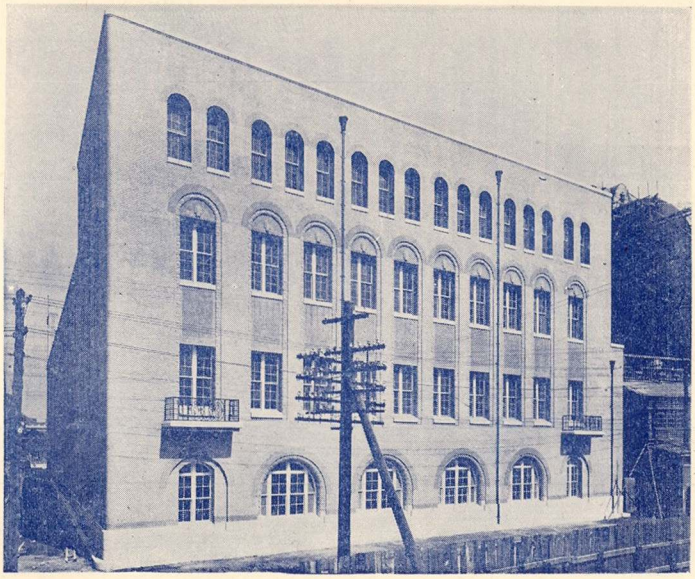
昭和三年十月一日・第十輯第十號



日本建築協會

寫眞は下記製品御使用の光榮に浴したる大阪中央電話局

三機工業!!販賣



東京建鐵!!製造

御使用

田島式上下ゲサツシ

東京建鐵株式會社

東京鋼板工業株式會社

總代理店

三機工業株式會社

本　店　東京市麹町區內幸町一ノ三(大阪ビル內)

電話銀座(57)5330—5335(6)2831—2833(3)

支　店　大阪市東區備後町二ノ二一(野村ビル內)

電話本町1166・1525

取扱店　各地三井物産株式會社支店機械部

商標 OHNO SHUTTER PATENTED 登錄

特許第七九三五號（延長許可）外十數件併用

大野式防火捲上ヶ戸

特許大野式シヤッター

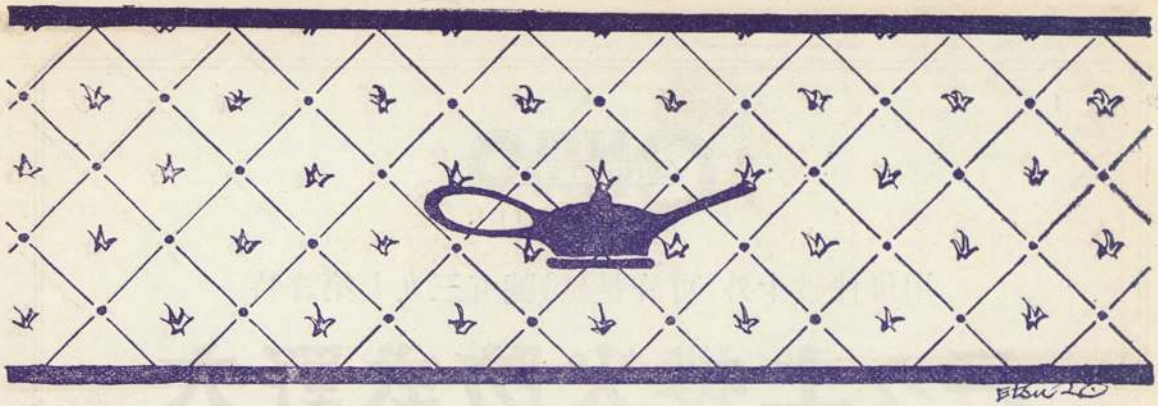
主要製品

大野式シヤッター
大野式自働防火鎧戸
大野式工場用軸承
大野式轉子入軸筐
大野式轉子入戸車
大野式回轉軸抵抗測定機
各種防火扉
應用特殊機械類

合資會社 大野製作所

東京市芝區三田四國町二番地（電話高輪（三三）二七七五五番）

取付出張員詰所・大阪市此花區上福島中二（電話土佐堀二七二五）



建築と社會 第拾壹輯第拾壹號 目次

寫眞

西宮市圖書館(正面・內部)……一
西宮市圖書館(天井と窓)……二
西宮市圖書館の設計圖……三
商店建築(大元商會)……四
OTTO KOHTZのスケッチ……五
近代佛蘭西裝飾金物數種……六

口繪

西宮市圖書館建築概要……七

本文

新版大阪圖繪(堂島濱風景)……一
卷頭……一
地震と建築……會員 日高胖……二……四
木造耐震構造法……災害委員 池田宮彥……五……一四
警視廳令市街地建築物法施行細則改正案を通覽して……會員 池田實……一五……二六
道路の耐久力に就て……大阪市立工業試驗所技師 小山九市……二七……三〇
結核治療上より見たる建築觀……醫學博士 遠藤繁清……三一……四〇



エベネザー・ハワアド翁の計……愛知縣廳都市計畫課 永田生…四一…四三

內務省案改良便所と大正便所との優劣に就て……特別賛助員 城口龜吉…四四…四五

飛行機上より見たる建築と社會……會員 下村光衛…四七…五七

(1) 施主・設計監督の巻

追分の家……會員 津田鑿…五八…六〇

カミロ・ジッテ(下)……特別賛助員 藤田進一郎…六一…六四

—都市計畫家銘々傳の四—

誌上講座

建築工事の勘定と事務(1)……由良基夫 中島智喜…六五…七二

建設へ建設へ……寫眞……四一…四六

建築紹介

大阪・浪速高等學校(高等科、女關ホール)……一

大阪・浪速高等學校(尋常科)……二

大阪・大丸男寄宿舍(正面・講堂)……三

大阪・枚方菊人形館……四

◇

大丸男寄宿舍建築工事概要……五

日本建築協會會報

小野田ポルトランドセメント

製品均斉・品質高級

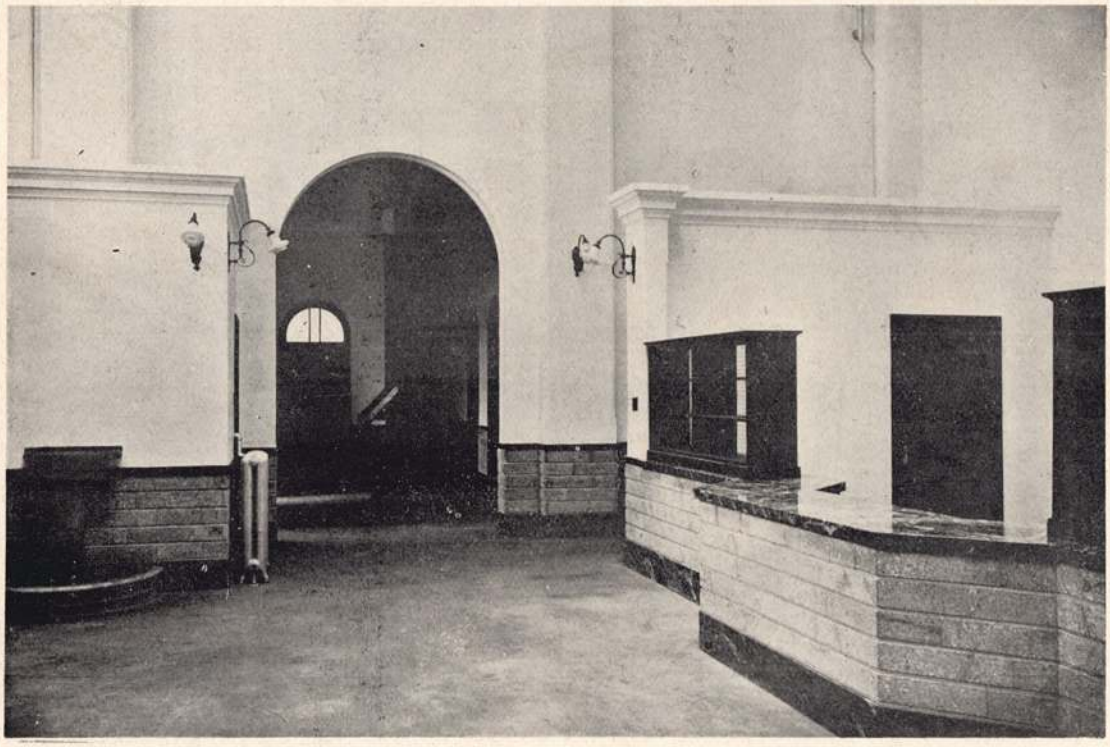
小野田白色ポルトランドセメント

東洋唯一・純白優良

製造元 小野田セメント製造株式會社

一手販売 三井物産株式會社



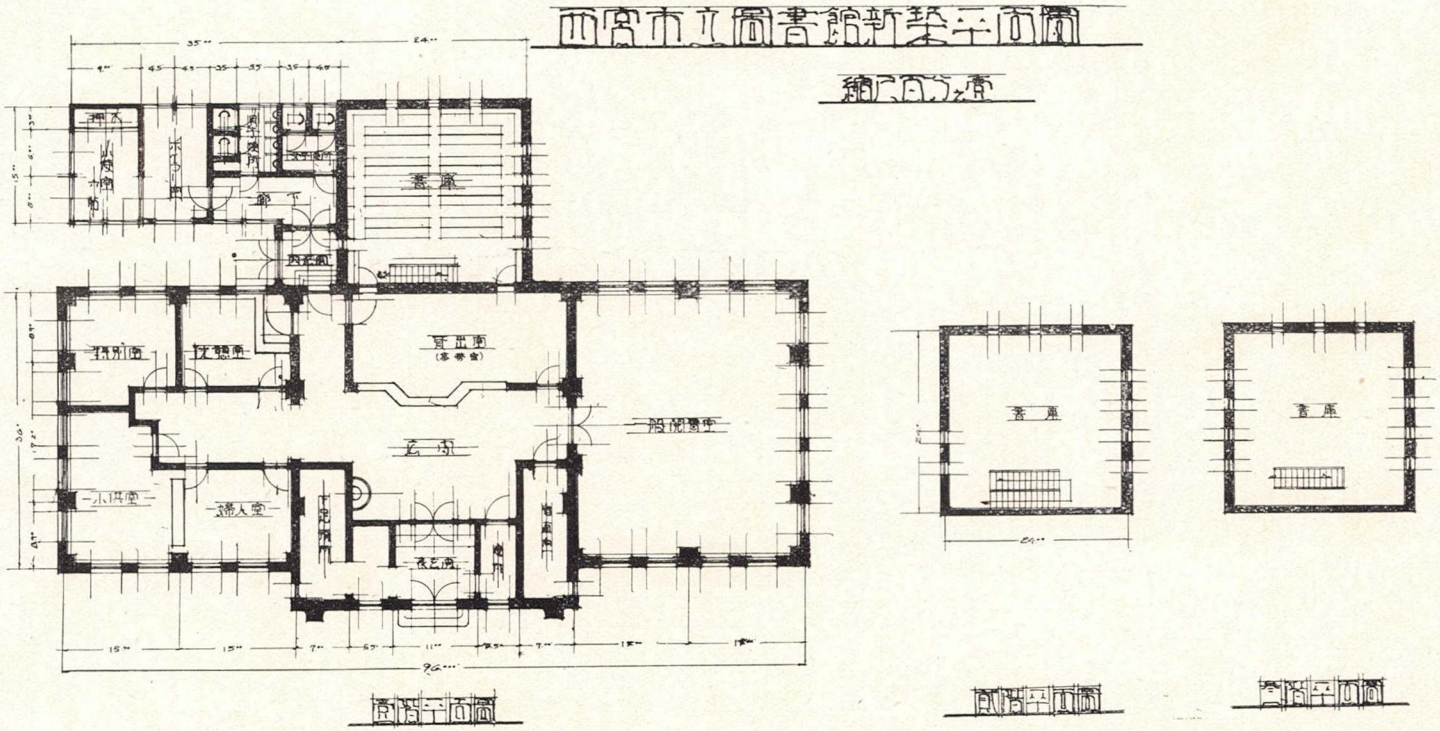


西宮市圖書館

上　正面部
下　内



西宮市圖書館・天井と窓

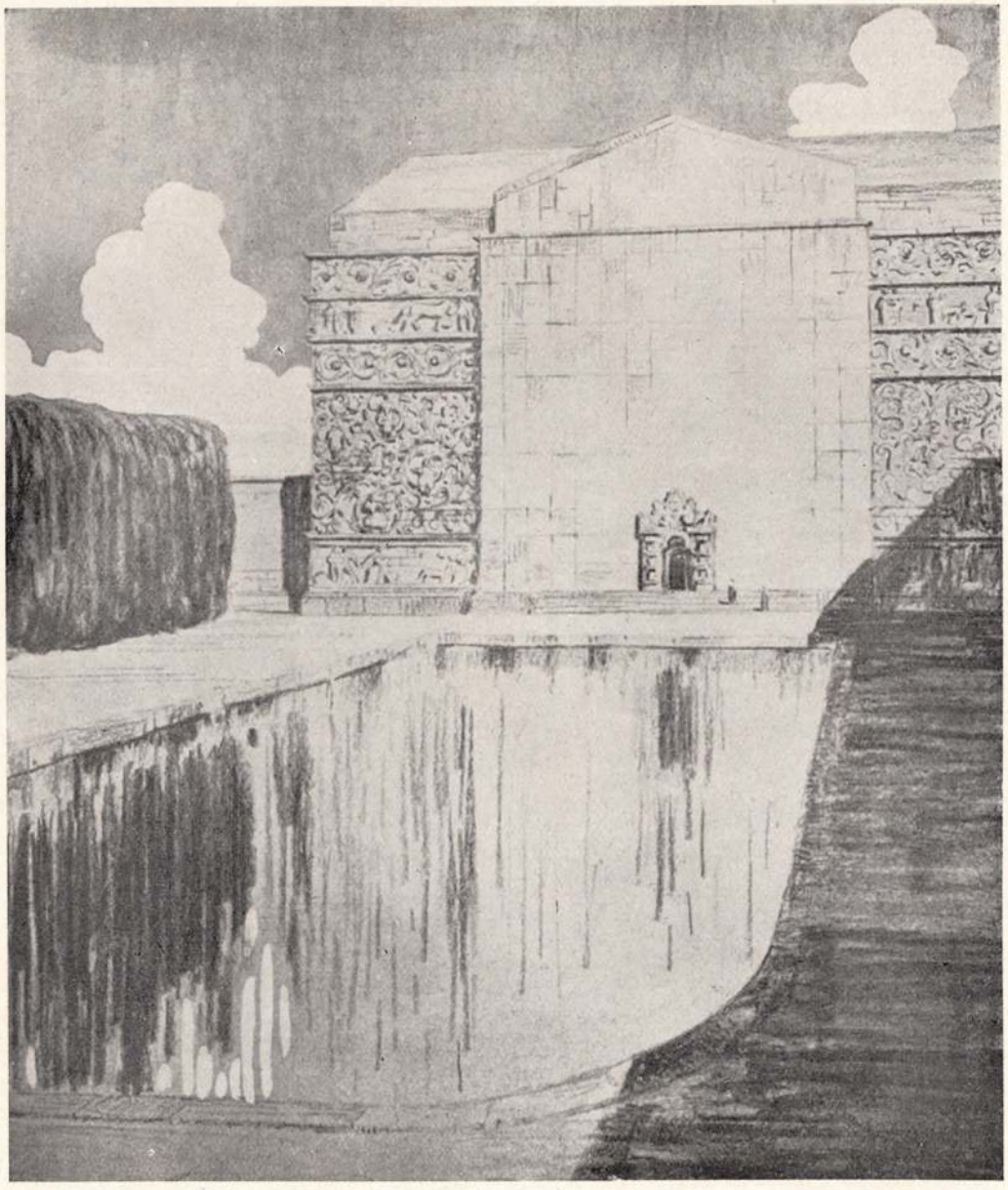

書庫
婦人室
玄関
書庫
書庫



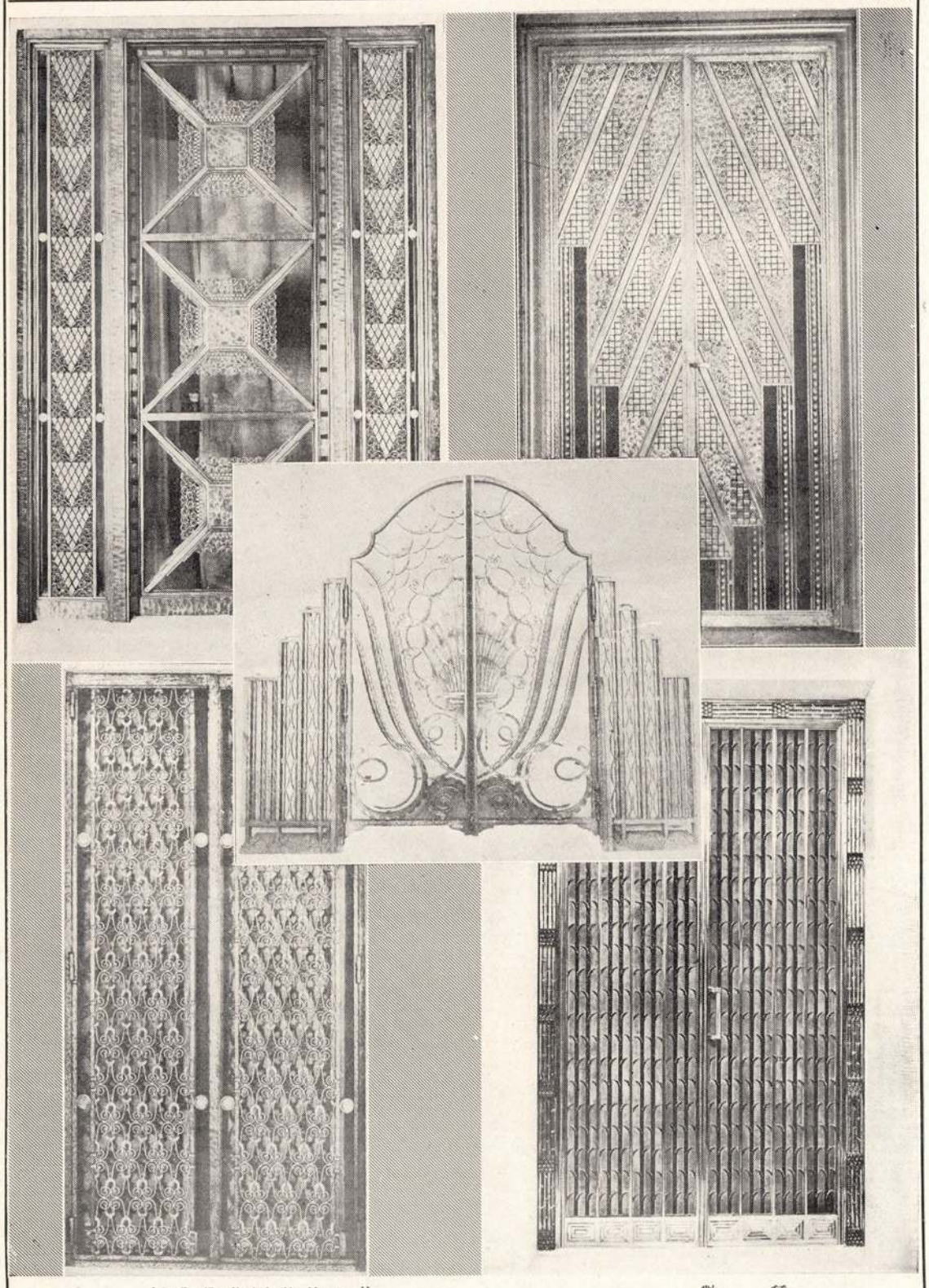
商店建築

大元商會　　所在　西區薩摩堀東ノ町

本間乙彦氏設計



OTTO KOHTZ



近代佛蘭西裝飾金物數種

市立西宮市圖書館建築概要

一、位　置　西宮市字六湛寺一〇五八ノ一番地
二、敷　地　面積四百十七坪三合九勺
三、延　坪　壹百六十五坪貳合九勺
　本　館　壹百貳坪七合八勺
　書　庫　四拾八坪（三階建）
　附屬家　拾四坪五合壹勺
四、樣　式　スパニツシユ、コロニヤル式
五、起　工　昭和三年二月十五日
六、竣　工　同　年六月五日
七、工　費　約八萬圓（附帶諸設備を含む）
八、構造意匠概要。

本館及書庫は鐵筋混凝土造とし、附屬家は木造としてゐる。本館外側窓は瀨川式バランスサッシュ使用、書庫外側窓は建鐵外開き窓の裝置とし、書庫は準防火の意味から網入硝子を嵌め込み、本館と附屬家界入口には鐵扉と、シヤッターとを設けてゐる。

この圖書館は平屋建ての至極ちつぽけなものです。これは西宮市が大阪市と神戸市の兩大都市間に存在してゐる關係上、圖書館としての使命が簡易なもので足りる譯で、若し將來必要なら、この程度の圖書館を今一つなり二つなりを增設して、市內各所の市民が容易に圖書館を利用し得ると云ふことが一層に望ましい……と云ふ市當局の考へからである。恁う云ふ考へ方から出發したので建物の外觀と內容との上に考慮すると云ふことが設計上、にも多分に加味してようと窃かに想つてゐる。極く小ざつぱりとした趣きを出そうと云ふ考へ方と、到つて簡易に氣持好く本が讀み得度いと云ふ云ふ考慮から云つてもスパニツシユ、コロニヤル式等は最も相應しい樣式ではないだろうか。室內の氣分も出來得る丈け優美しい氣分に浸りたいと考へて總ての入口や窓にアーチ形をとり入れたと云ふ譯である。がしかし、お互に困るのは最期は經費の問題です、何しろ安價でいろ〳〵な氣分や要求の出來る限りを滿足しようと云ふのだから、よろしく御賢察を願ふことゝいたします。

左に主なる室の仕上げを表示いたします。

室名	床仕上げ	巾木	腰羽目	壁	天井
玄關	タイルモザイツクコンベス塗	本邦產大理石	本邦產大理石	プラスター	プラスターセロテツキス
廣間	右同上	右同上	圓護寺石	右同上	
事務所	右同上	人造石ラウン、アンチツク仕上	シ	右同上	右同上
一般閱覽室	右同上	龍山石		右同上	ブラスター
特別同	榻床板	ラウンアンチツク仕上		右同上	右同上
婦人同	米松床板	右同上	右同上	右同上	右同上
小供同	右同上	右同上	右同上	右同上	右同上
閱覽者休憩室	右同上	右同上	右同上	右同上	右同上

外部は天黃石A號貼り、屋根は石州產スパニツシユ瓦葺きである。

左　工事關係者は左の通り

設計及監督　古塚正治事務所
工事請負者　長田組（西宮市）
主なる下請負者　同早駒組

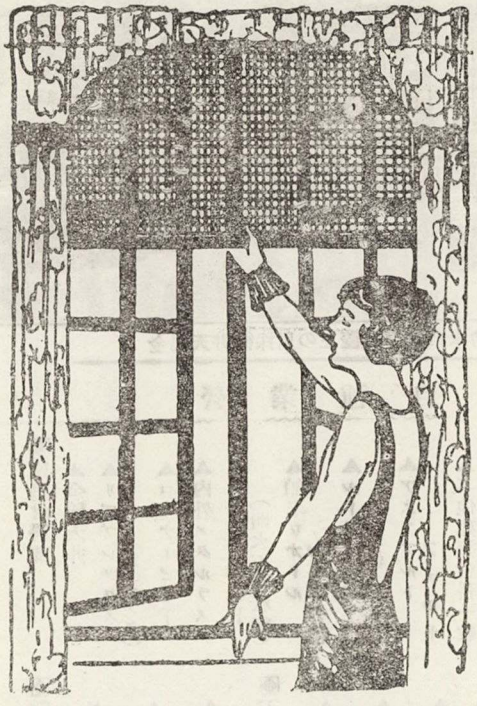
○暖房工事　須賀商會　○衛生工事　城口研究所
○サツシ工事　東京建鐵　○書　架　東京建鐵
○大工工事　早駒組　○左官工事　早駒組
○土工工事　早駒組　○石工事　西畑組

夏ハ蚊蟲ハ ロールスクリーン

Rolscreens
The Ideal Screen For Casements

特許第74197號

近來模造品多數あり本品御指定ありたし



（型錄贈呈）

日本總代理店

島貿易株式會社建材部

本店　大阪市東區高麗橋四丁目
電話本局自五〇四〇—至五〇四七番

支店　東京市日本橋區平松町
電話日本橋　二二四番　三一六九番
　　三一六八番

晝は蠅、夜は蚊と

夏は閑靜な郊外の住宅に在つても中々に快よき休息は出來かねます。これ我が優美輕便な**ロールスクリーン**の御使用を切に御薦めする所以であります。

從來病院や郊外住宅や又は料理場などで、窓の設備中最も苦心して來たものは實に**スクリーン**の問題であります。凡そ傳染病の豫防とか、夏期蠅や蚊や、其他色々の虫類が飛込んで來るのを防いだり、又工場地帶で煤煙防止の必要な場所などには、是非共此の**スクリーン**の用意をして置かねばなりません。

然るに此迄のものは、何れも取扱上の不便や、不體裁の點や或は又、不經濟などの點で、其必要を生ずる都度、頭痛の種となつて居たものであります。

此の久しい間の、難問解決の使命を果たすものこそ、實に我が**ロースクリーン**の出現及び提供であります

◆耐震耐火＝品質優良＝優美高尚＝價格至廉◆

金屬天井



金屬天井御採用の三菱銀行東京本店

營業種目

◆建築材料部
- ▲金屬天井
- ▲リブプレツクス（リブラス）
- ▲コーナービード
- ▲内外メタルラス
- ▲タイガーボード（耐火石膏板紙）
- ▲舶來ウオールボード各種
- ▲ルーフキング（便利瓦）
- ▲アスファルトフェルト
- ▲其他建築材料一般

◆木材部
- ▲米材各種
- ▲チーク材
- ▲ラワン材
- ▲床板各種

◆穀類部
- ▲内外小麥粉
- ▲内外麩
- ▲内外米

◆工業部
- ▲製粉工場
- ▲製米工場
- ▲金屬鈑工場

型錄進呈

◆田村商會創始
◆參拾五年經驗
◆施工全部請負
◆特殊圖案製作

田村商會

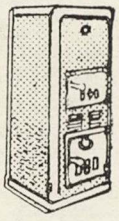
本店
神戸市榮町六丁目
電話元町（五〇一、五〇二、五〇三、五〇四、五〇五）

支店
大阪市西區靱上通り一丁目
電話土佐堀（六八八一〇）
東京市日本橋區元四日市町
電話大手（三七〇五、六三六〇、四六七一、二五二六）
横濱市港町一丁目
電話長者町 二五四〇
北米晩香坡市ダンレピー街
電話 八八一

工場
神戸市兵庫新川
電話兵庫（九一、一四〇三、一四四、六四〇）

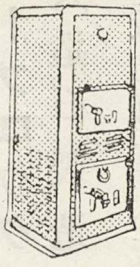
AMERICAN RADIATOR COMPANY

New IDEAL Vecto



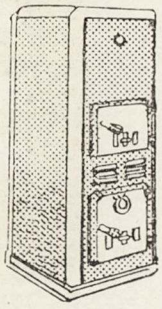
No3C

Heats 2 to 3 Rooms



No5C

Heats 3 to 5 Rooms



No8C

Heats 5 to 8 Rooms

重ナル寸法

形	高サ	間口	奥行
No3C	33″	15″	14″
No5C	43″	18″	17″
No8C	48″	21″	21″

日本總代理店

大倉商事株式會社

東京銀座　大阪東區釣鐘町

小野田セメント専用
セメントタイル
セメントモザ井ツクタイル
コンクリートタイル
ストンブロック
模造ゼンターム
塀用ホーローブロック
其他各種人造石製造

大阪市港區大正通一丁目六三

創業明治三十六年　合名會社　田中タイリング商會

電話櫻川二〇四七番

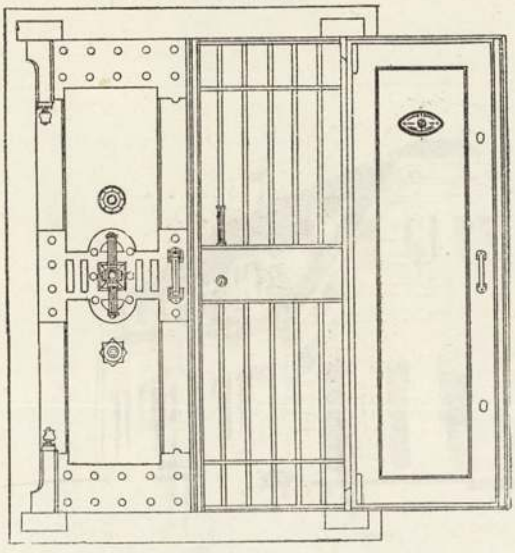
分工場　大阪市東成區鳴野町五一一
電話鯰江二六八番

東京工場　東京市深川區東平井町一ノ一
電話本所四六六二番

大塚製金庫扉の特色は

防火的理想の完成したる
昭和參年新案特許第壹壹貳五七〇號
瀧村式防火裝置（自働アスベストパッキング）

創業明治二十年



金庫室防火扉

金庫室は完全なる扉と
内部什器（書棚及書函）の
鋼鐵化に因り始めて絶對的
災害防止の効果を實現す

御一報次第型錄差出申候
應貴意設計圖面調製提出可仕候

營業科目

金庫室入口防火扉
マンホール幷ニ窓扉
倉庫出入口防火扉
鋼鐵製書函並ニ書棚
美術建築用金物一式

御用命を蒙り納入せる尊名

三十四銀行　吉備貯蓄銀行　奈良信託株式會社　武田長兵衛商店
三井銀行　蘇原銀行　三井信託大阪支店　八馬邸
名古屋銀行　灘商業銀行　三井物産名古屋支店　竹内邸
名古屋貯蓄銀行　西海商業銀行　岡谷本邸　池田商店
加島銀行　大阪貯蓄銀行　岡谷合資東京金物部　安藤商店
明治銀行　内國貯金銀行　三菱電氣製作所神戸　平瀬邸
野村證券株式會社　久美濱銀行　松坂屋呉服店　三宅邸
野村銀行　山口銀行　萩町信用組合　西郷邸
濱松銀行　大垣貯蓄銀行　東邦瓦斯株式會社　大垣共立銀行
中埜銀行　武庫銀行　大日本人造肥料株式會社　日本銀行名古屋支店
濃飛農工銀行　大野銀行愛知縣　塘野義商店　岩津邸



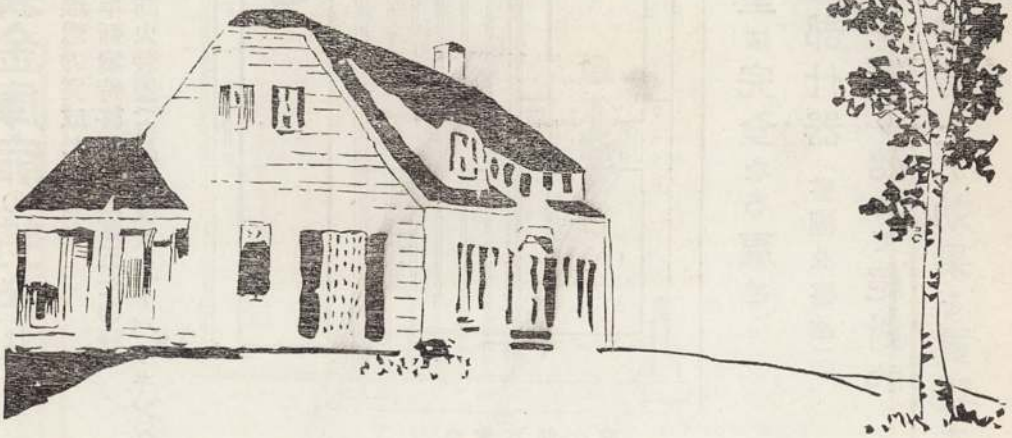
大阪市港區九條南通一丁目一三〇番地

大塚鐵工所金庫部

所主　瀧村松之助

電話西五〇一七番

工場　九條南通一丁目　三軒家上之町　北境川町



コンクリート建造物の防水と美装

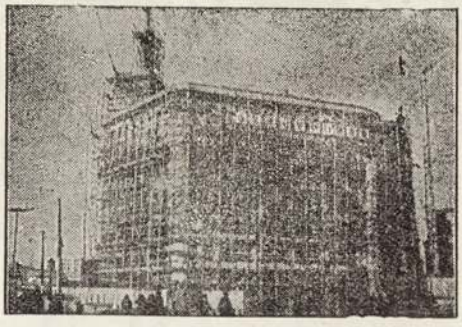
◉槌印コンクリートペイントの推奨

事務所、住宅等總べてのコンクリート建造物の內外壁は本塗料の塗裝により完全に防水と美裝の效果を揚げ得る事が出來ます。
新らしい設計にて是非御採用を願ひます。

見本說明書
塗見本帳　贈呈

製造元　日本ペイント製造株式會社
發賣元　大元商會

大阪市西區薩摩堀東町
電話新町長二六五二二一六



東都數寄屋橋々畔の偉觀

東京京橋區數寄屋橋々畔ニ新築サレタ東京朝日ノ新館ハ其ノ建材外觀總テ新ラシキモノデアルガ

下部外側の水色は

東亞コンクリート塗料

ストンコート

ヲ以テ美裝シ

上部外側の人造石面は

東亞の防水液

ダムタイト

ヲ以テ防水ニ備ヘ

更に外部各所の蛇腹は

東亞の

トア・スパーワニス

ヲ以テ美麗堅固ノ塗裝ヲ施シ識者ヲシテアット云ハセツツアリ

古河經營

東亞ペイント株式會社

淺野波形板

母屋が木質でも鐵骨でも
野地板がなくも勾配が緩
くも取付られる
天下無敵の屋根材

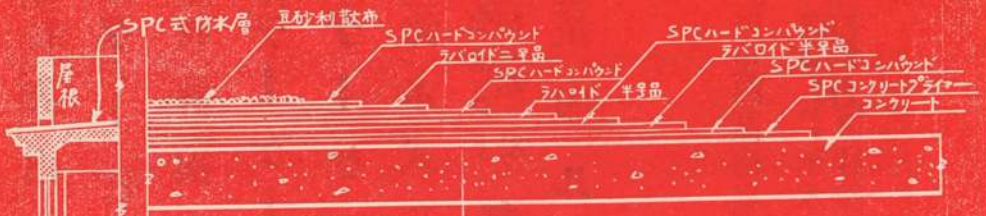


淺野スレート株式會社

東京	大阪	門司	名古屋	札幌
電話 銀座 一八六〇 一八六二 一八六三	電話 北五〇八二	電話 長一九三一 八三八	電話中 一〇九七	電話 長五九八

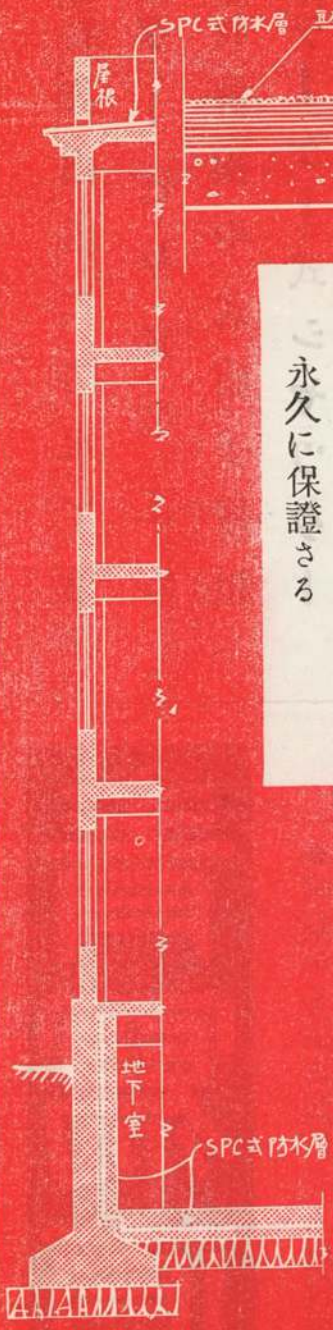
強靱の石綿セメント製ゆゑ下見・内壁・天井・間仕切壁等に用ひて比類なき最適品

淺野壁板



SPC式 ラバロイド防水層

防水は
建築の生命である
防水の生命は
ラバロイドに依て
永久に保證さる



大阪市西區江戸堀北通一丁目二〇番地
株式會社 **ラバロイド商會**
電話土佐堀（長八五二番 三三三〇番）

門司市東本町二丁目
合資會社 **明正社**
電話門司（長 三七八番 六九〇〇番 一五六〇番）

◆特許山添式防水工事
◆タービヤ鋪裝工事
◆特許田中式硝子屋根
◆デーケー式シヤツター
◆デーケー式サツシユ
◆鈴木式及デーケーラス
◆セメント防水料セレシット
◆星印ルーフヒング

大阪市西區南堀江下通二丁目
内外土木建築材料合資會社
電話長櫻川一六一〇番

青寫眞

▲晴雨を不論夜間にても燒付得る
▲燒付に乾燥凡てを電氣應用
▲集配は最も敏速を期す

青寫眞
トレース
書類複寫
感光紙販賣

大阪市此花區今開町一丁目四九
河村青寫眞調製所
電話長土三七四二

萬歲

最高級の

ペイントは
ボイル油は
光明丹は

萬歲號

萬歲號は創立三十年紀念發賣の最優良品でありまして此登錄商標により従來Aとか一號さかの上級記號の濫用された本邦の業界を廓清し萬歲號即一等品として僞瞞の余地なからしめんとするものであります。

本品に關る人は漏れなく利益を分配さる

日本ペイント

東京　大阪

家具ト室内裝飾

設計施工

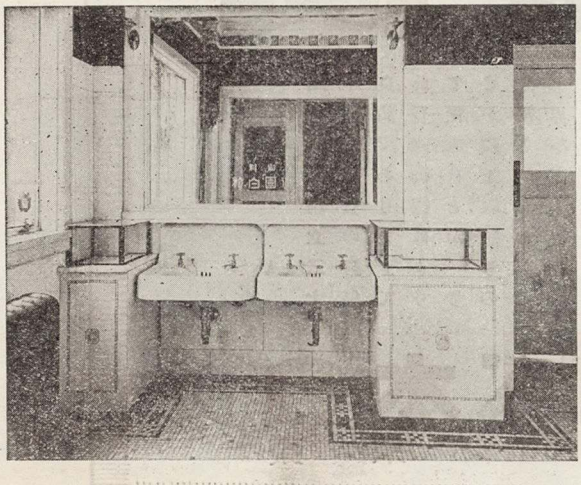
創業明治三十五年

松安洋家具商會

會主 安川熊吉
安川梅太郎

大阪市西區南堀江上通ヶ三丁目
市電立花通ヶ停留所東入ル南側
電話櫻川二四七〇番

●各建築設計施工者ニ御依頼
●備品家具ノ下請負仕ル可ク候



便所…化粧室…湯殿

ビトロライトは永久に、汚染、腐蝕變質、クラック等の憂は絶對にないと云ふ理想的の貼瓦材であります。これを便所に使用してはじめて衛生的と云ひ得るものではないでせうか

ビトロライトの大きさ
3尺×6尺
色合…白、黒、アイボリー、ジエイト

大阪市浪速區櫻川町一丁目一〇五四番地

大阪ビトロライト工事合資會社

電話櫻川二二一四番

出張所　東京市京橋區本材木町一丁目二三　**電話日本橋(24)〇九六九番**

創業　明治二十六年
製造最大能力　二千五百萬斤

營業品目

印銅、眞鍮、輕銀、輕合金アルモデユール板類、
輕銀各種器物、ストツプバルブ並ニ特許分銅屋根板

壁張
分銅屋根板
應用

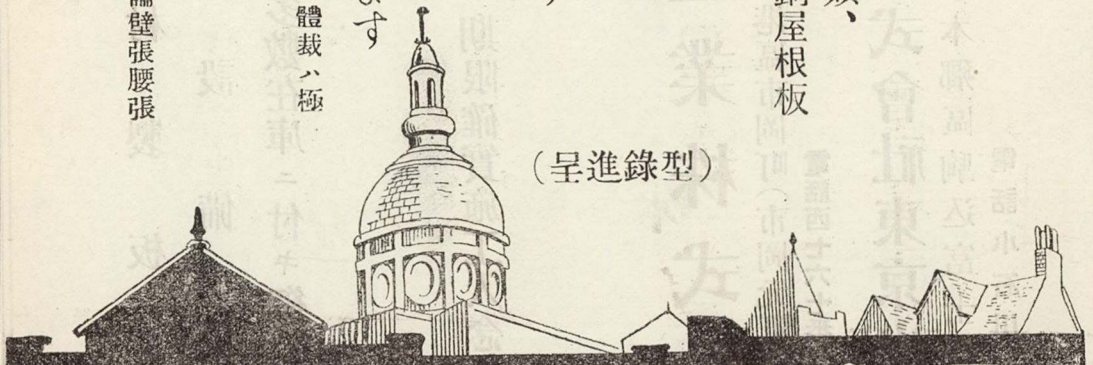
特許
分銅屋根板

（型錄進呈）

分銅屋根板は經濟的であります
現今一等瓦參拾圓モスルニ比スレバ約六割ノ貳拾圓内外デ立派ナモノガ葺上リマス尙坪當リ葺上拾四圓位ヨリ出來マス

分銅屋根板は體裁優美であります
普通銅板ニ特殊加工ヲ施シテアリマスカラ體裁ハ極メテ優美デアリマス

分銅屋根板は應用範圍が廣い
本葺瓦棟葺棧葺平葺四半張綾目張等ハ勿論壁張腰張等ニモ至極適當ナモノデアリマス



日本伸銅株式會社
大阪市北區天神橋筋四丁目

堀川（35）
自至 四〇 四〇
番號 一六 三三
（夜間及休日專用）

大理石

貯藏石材製板豊富
諸機械設備完全
尙伊太利産石材モ多數在庫ニ付キ御下命ヲ乞

期限確實施工入念

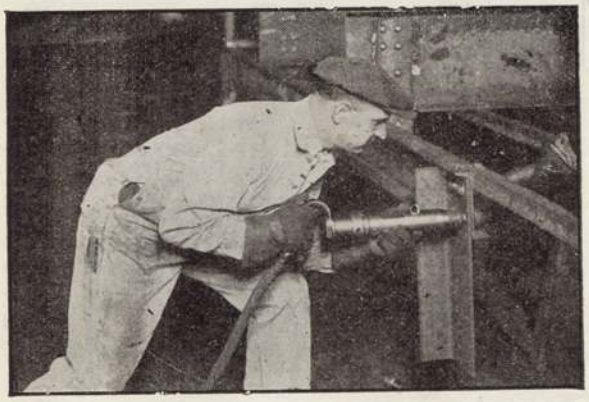
大理石工業株式會社

大阪市港區市岡町（市岡元町停留場南）
電話西七六七番　西八〇三番

大理石工業株式會社東京出張所

東京市本鄉區駒込富士前町八〇
電話小石川七三七八番

Cleveland
Pneumatic Tools



No. 60 Riveter on Structural Work

エアー・ツール
各　種

リベツテング、ハンマー、
チツピング、ハンマー、
ボールベヤリング付ドリル、
ボールベヤリング付グライン
グー、各種ランマー、
クレコ、ヴルブ及ホース、
カツブリング、其他各種エア
ーツール

優秀なる作業と
能率増進を計る
クレコ・エアー・ツール

クリブランド、ニユーマチツク、ツール會社製各種エアーツールは特種裝置を有して優秀なる作業をなす即ち高價なる壓縮空氣を極めて經濟的に使用する事、力ミスピードの强大なる事、振動少なく最も使ひ易すき點である、上圖に建築用リベツター、下圖に同用ドリルの作業を示したり、各種ツールに大少各通あり各作業を異にす詳細御照會を乞ふ



No. 2W in Operation.

The Cleveland Pneumatic Tool Co.

東洋總代理店

株式會社 **アンドリユウス商會**

本　社　東京市芝區芝公園五號地二ノ五
支　社　大阪市西區江戸堀南通三ノ一八
名古屋・小　倉・札　幌・京　城・大　連・紐　育

鐵化粧

チヨコレート色

【用途】

舗床、壁塗用
スレート用
セメント瓦斯タイル用
其他セメント加工品用
建築材料用
各種塗料用

柄辨・黒
緑・黄

並に

㊥Y㊥ 合資會社 **東洋鑛粉所**

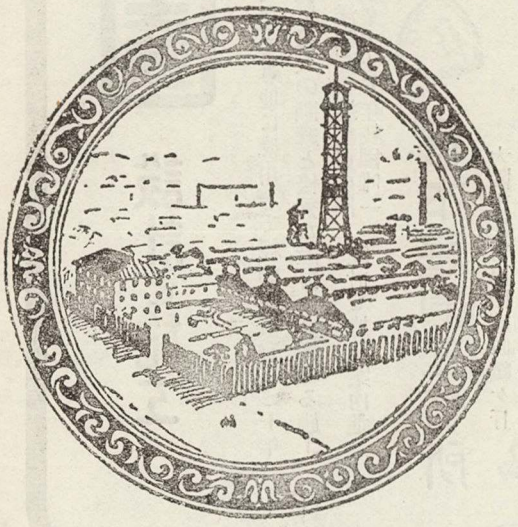
大阪市西成區津守町六壹壹
（高野線木津川驛際）
電話櫻川四二四六番

東京營業所
東京府下淀橋町角筈六六八
電話四谷七八六番



大阪市港區市岡町五三二
關西ステンドグラス製作所
電話西二二三四番

NIPPON ELEVATOR CO.



營業科目

一般輸送機械
ホイスト
ロープホーレージ
エスカレーター
ケーブルカー
各種コンベヤー
各種エレベーター
設計製作

大阪市東區中道川西町

日本エレベーター製造株式會社

電話東 2367 . 3805 . 5642 番

取締役社長 工學博士 片岡 安

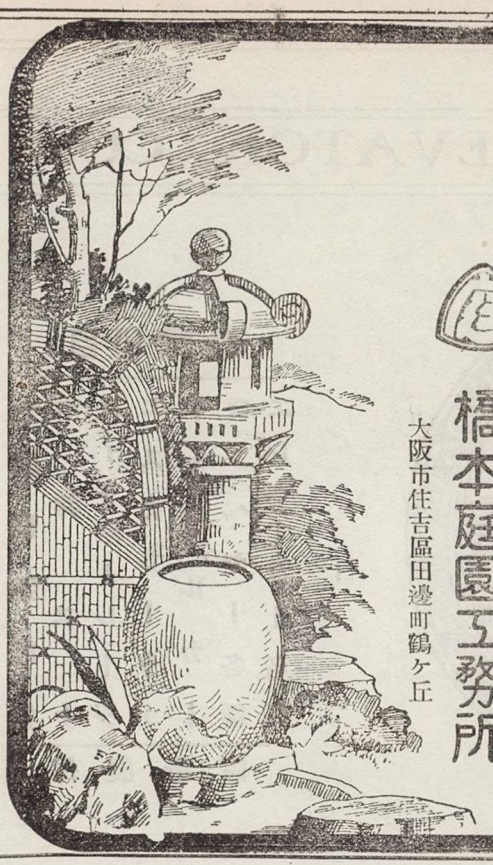
專務取締役 工學博士 堀 覺太郎

東京支店

東京驛前丸ノ内ビルディング四階

電話丸ノ内 (23) 3073 . 3074 番

專賣特許 東松式外二拾四件



庭園

設計と施工

造庭學上の新智識を實地に應用して經驗を積むこと十年
獨特の技術と從業職人の訓練と優秀な設計と完備せる施工

和洋庭園築造請負專門
創業大正五年我國唯一　設計と施工案内進呈

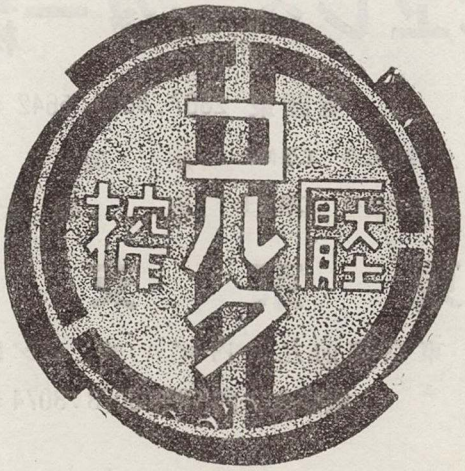
橋本庭園工務所
大阪市住吉區田邊町鶴ケ丘

冷藏防熱用

製産高（工場設備）東洋第一位!!

住宅敷物用、リノリユーム下敷用

炭化コルク



東洋工業株式會社
コルク部

本社及工場　廣島市吉島町
電特長一七九二

大阪出張所　大阪市北區堂島濱通一丁目百十番地
電話北一三八九

東京出張所　東京市神田區豐島町七番地
電浪花八五三番

◀工施内舎廳察警府都京



アホイ式フローリングブロック
丸上式リソード床張の圖

理想的根太無床板

專賣特許第一七一號　新案特許第三三二二號公告特許專賣

特許專賣 練革床

特許ピトリウム床
特許ピトチック內外壁

實剝 楢床板

特許葵式淨化裝置
水道、衛生工事
タイル、衛生陶器

衛生工事

葵商會

大阪市港區境川町四丁目四十番地　電西〔長〕四一九六
東京營業所　東京市京橋區木挽町一ノ一三　電話京橋三九五・二三九

ZEISS

ツァイス反射照明燈

本燈の出現と共に照明問題に決定的解決が與えられました。

本燈の特徴　は用もない所を照す無駄な光を集めて叢のない強烈な光を配給し最も經濟的に光を使用して行けることで優に 50% 以上の電力を節約し得ることであります。

本燈の主體　は硝子拋物鏡であります。此は裏面に銀鍍した硝子鏡で鏡面の各部分は強烈な反射力をもつて居ります。

ツァイス反射照明燈　にはいろいろの型があつて使用範圍も甚だ廣汎で總てを列擧出來ませぬが例へば

事務室、住宅、商品賣場、陳列室、**シヨウィンドー**、大**ホール**、講義室、仕事場、
工場、**プラットフォーム**、街路、廣場、旅館、劇場

等の照明によく新時代の趣味に適ふ優雅な形のものであります。其上強い耐久性をもつて居ります。

ツァイス照明燈各型寫眞入り**カタログ**がありますす御報次第進呈、其際 Bel 12 と御附記乞ふ。

カールツァイス株式會社

東京丸ノ内郵船ビル　CARL ZEISS TOKYO KABUSHIKI KAISHA　電話丸の内 3065　3066

優良廉價

アサヲ白色ポートランドセメント

Net.170 KG

專賣特許

アサヲプラスター

セメント防水劑

リクタイト

・型錄贈呈・

姫路化學工業株式會社

兵庫縣・姫路町

業務擴張ニ付謹告

各位御清祥奉賀候偖テ弊社營業特許**コンベス**床ハ平素一方ナラヌ御引立相蒙リ逐次應用ノ範圍ヲ廣メ隆盛ニ向ヒ候段各位ノ御高庇ニ因ル次第ト奉謝候近時一層改良相加ヘ特種ノ加工法ヲモ發明致候間舊倍御愛顧ノ程願上候

然ルニ今回更ニ科目ヲ擴張シ『**セメント**』防水硬化ニ非凡ノ効アル下記櫻富士印固素液ノ大阪特約販賣ヲ開始シ汎ク御用命ニ應ジ可申候本品ハ純國産ニシテ絶對保證超等級ノ品ニ有之『**セメント**』工業界ニ對シ權威貢献ヲ與ヘ事實上革進ヲ促スベキ優秀品ニ有之候間百聞一見至急其効果ヲ試見被成下陸續御用仰付被下度伏テ奉願上候

拜白

セメント工業界ノ大革命
防水防火硬化耐震萬能

登録商標

純國産

桐生高等工業學校長　工學博士　西田博太郎先生指導證明

櫻富士印固素液（セメント防水硬化劑）

◎國立東京工業試驗所試驗成績

一、浸水試驗（水煉コンクリート……九一、〇六%ノ浸水
（六十時間浸水ニ於テ）（固素液練成コンクリート……〇、〇二%ノ浸水

一、硬　度（水煉コンクリート……二度十六分ノ三
（固素液煉成コンクリート……三度五分ノ二

一、水壓量（水煉コンクリート……六十封度ニテ廿五分
（固素液練成コンクリート……九十封度ニテ十一時間十分

◉主なる用途

一鐵筋「コンクリート」並に隧道防水及龜裂を恐るゝ場所。一地下室防水、プール並に水道貯水池、壁、塀等
一屋上「ベランダ」の防水、道路「コンクリート」の補裝及防水壁其他ブロック用等
一養蠶室、藏倉の防水。一鹹水池、鹽倉の防水。一家庭浴槽、金庫室其他濕氣防水を要する場所
但し既成物體には本液の十倍溶液を塗布すれば防水を完たからしむ

◉本液の性能

從來「セメント」に配合して防水硬化を目的とする藥劑あるは周知の今日なるも不幸にして其効果薄弱なるもの多し然るに本液は總て「セメント」の種類を選ばず。本液主成分と「セメント」自體の主性分との特種化合に因り硬化と共に礦物性毛細皮膜を構成して磁器體狀の硬度を現出す故に其効果永久なるは勿論防水を完全にして龜裂なく摩擦に耐え防火耐震風土氣候等の變徹なし殊に本液練成に當りては「セメント」の量を減じ砂、砂利を增し自から建造費を節約することをも得べし加工品等には色素配合を自由ならしめ仕上りの色澤を優雅ならしむ以上の特性を有するが故所謂萬能を誇るに足るべく建造後に於て故障手直しの憂なく極めて安全なり御使用の上新舊効果の懸隔を御認め願ひたし價格低廉輸入品の半額に足らず。

◉本液の有効に就て

鐵道省にて已に御採用あり、東京市に於ても昭和二年五月「アスファルト」を捨て本液練成「コンクリート」御採用の發表あり南備州鐵道にても御採用あり近くは神戸市に於て本液の効果を認められ御採用あり其他公私各方面に於ける御賞用頗る多し。

◉用法其他

「セメント」を練るべき水に本液を溶解せしめ其水にて「セメント」を練るべし至つて簡單なり强度の防水には本液を十倍位に普通は廿倍又は廿五倍位に溶解せしむべし本液の容器は石油罐一斗入、一升瓶、四合瓶、二合瓶あり。

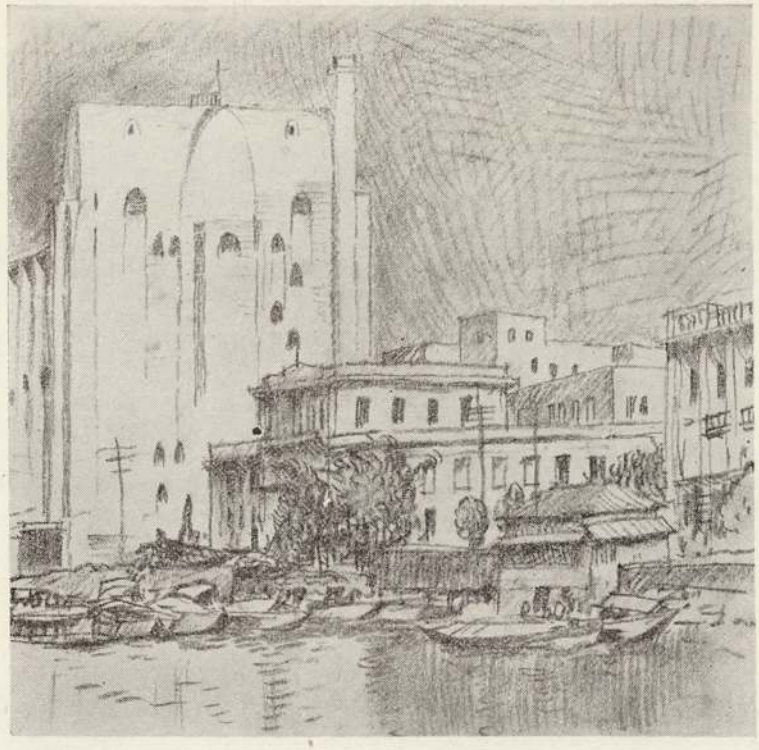
◉型錄進呈御急ぎの場合は御報次第參上說明可仕候

大阪特約販賣元

特許コンベス床
各種改良床敷　製造販賣

東洋コンベス商社

大阪東區淡路町三丁目船場ビル
電話本局自二七五〇至二七五五



新版大阪圖繪

景風濱島堂

希望に輝く思、これは此頃の吾人の心境ではなからうか、曠古の大典を目前にひかへ、過去數年の如何とも救ふ術なき不況時代を顧り見れば新鮮の氣に滿ち滿ちた明日を希望する決して故なきに非らず、森羅萬象皆、週期の律を有す、この希望も又實現されんか。

◇

篤學の士が、孜々として倦まざる研究は、時に甚だ地味、時には無味乾燥に見へて俗耳に嬉ろこばれざるも、文化の發達、人生の福利は實にこの成果に由來するものである。今村博士の近畿に於ける地殼變動の調査の如き、吾人の福利に密接の關係を有する大問題である、されど其の結果を赤裸に發表せんか、或は世に誤まるゝこともあらん。

苦るしきは學徒の立場である。

◇

人、時に我が國に權威ある發明なきを云爲す。されど思へ、我國人が貴き發明家を過するの樣を。如何に天才的發明家も一生體なれば良き生活を欲すべし、良き生活はその發明を遂に完成の域に導くことゝなるべし。然に發明家を繞りて跳躍する醜惡なる巧利者の群は、未だ熟せざる發明の實を彼の手より奪ひて、己の私利私腹を肥す事にのみ急にして、遂にその發明家を好遇してその實を成熟せしめ然る後採取することを知らず。いつくんぞ大發明を求むることを得んや。

◇

手近く建築材料、特殊裝置、特殊工事法等の現狀がこの間の消息を如實、雄辯に物語る居るべし。

（凸　凹　子）

地震と建築

會員　日高胖

此稿は去る九月一日關東震災記念日に放送したる講演の摘錄なり。

御承知の通り我國は、世界に於る地震の多い國の一つでありまして昔日から度々、大地震に見舞れて居ます。記錄にあるもので慶長元年から今日迄、僅々三百三十三年の間に、大地震と稱すべきもの實に二十一を數へ、其小なるものに至つては、殆ど枚擧に遑ない程であります。

地震の起る原因は種々ありますが、主なるものは、地殼の一部の換沒によるもの、地滑りによるもの及火山の活動によるものでありまして、其振動は波の形に於て地盤を傳ひ、附近の地盤上にある總ての物體に衝撃を與ふるのであります。其波動には色々ありまして、振幅の大小周期の大小あるは勿論、振幅及周期の異たものが交互に、又は或間隔を置て連續するものもありまして、其方向も大體には一定して居ても部分的には地殼の彈性の變化等に依て、變化し又反射、曲折等を起す爲に種々雜多となります。

是等の內で、地上の物體に最も多く影響を及すものは何であるかと申ますと、水平動であります。而て其振幅が大きく周期の小なるもの即大きく早く動くもの、言葉を變へて言へば、加速度の大きなものが該して影響が大きいのであります。尤も是は振動を受る物體の形狀、彈性度等により變化して來ますが、詳細な事は他の機會に御話することに致ます。

扨地震の被害から建物を免れしむる爲には、どうしたらよいか、是には此所に三つの方法があります。第一は建物を地盤に固定せしめ、同時に其建物を丈夫な物にする、即振動を受ても倒れるとか、折るとか、曲るとか、或は部分的に離れるとか云ふ樣な事のない樣に構造する事。第二は前者と反對に、地盤と出來る丈緣を切て、振動が建物に傳はる量を可成少くすること。第三は第一と同樣建物を地盤に固定するが、其構造を柔軟なものとし、其振動の周期を可成大にする事であります。第二及第三の方法は、局限された極めて小範圍のものには應用出來ますが、今日迄充分に、研究せられたる建築構造學の範圍では普通の場合總て第一の方法に依て居るのであります。從て構造に使用する材料にも大なる關係が起ります。

◇

御承知の通り、易く得らるゝ建築材料の內、鐵材は木材等より強くして且折れ難い、又木材は煉瓦積又は『コンクリート』よりは折れ難い故に地震其物に對しては、鐵材のみを以て適當に構造する事が最も安全と云ふ結果になりますが、他方火災を考へに入れる必要が起ります殊に都市に於ては、最も考慮を必要とする問題であります。鐵材は、

熱に會へば直に強度を減殺され、少しく高熱では彎曲變形もします。即熱に對する防禦が必要となります。然るに煉瓦積及『コンクリート』は、振動に對しては破損し易いが、熱に對しては抵抗力が大であるのみならず應壓力は強大である。又鐵材は抗張力が強いので、是等の材料の長所のみを取て應用した構造法が、即鐵筋『コンクリート』、鐵骨鐵筋『コンクリート』又は鐵骨煉瓦造と稱するもので、所謂耐震耐火の構造法であります。尤も煉瓦造又は木造でも、經濟とか、火災に對する防禦を無視すれば、耐震的に出來ます。殊に、住宅の樣な小なるものは、木造が最も簡單に耐震的に出來ることは御承知の通りであります。

次に建物の形の上から考へて、ごう云ふ物が強いかと申ますと、形には平面と立面とありますが、平面から申ますと圓形のもの、正多角形のもの、正方形のもの等最も強く、次は矩形、其次はT字形、凵形、凹形等で、つまり凸凹の多い程悪いのです。同樣に立面も凹凸の少い方が宜しいのです。勿論是等に對して、豫め對策が講じられてある場合は、別であります。是は物量の異たものが集た場合には、自然部分的に振動率が異るからであります。

又建物の高さの方から考へると、底部の割合に非常に、丈いの高いもの即煙突及塔の如きものは、其底部より全高の三分の二の部最も弱く、又普通の七八階程度の建物は、其底部より三分の一、即二三階の近傍が最も弱いのであります。

勿論、是等は、其構造體が、大凡『ホモゼニアス』のものとして考へた場合です。又非常に大きな關係のあるのは、建物の重量でありまして同一の強さのものなれば、輕い程丈夫であります。又『マージナルバイブレーション』と稱するものがありまして、物の端は特に震動が大きいので、長屋の兩端の家、山の端、又は川の緣等は影響が甚大です。地盤は勿論堅い所程宜しいのであります。

◇

次に、今日我々が、耐震構造の計算の基礎をごう取て居るかと申ますと、地震の振動の內で建物に最も影響を及すものは、水平動でありますから、水平に動くものと假定し、其波は、時計の振子と同樣に『シンプルハーモニツクモーション』をするものとして取扱ふのですが前述の通り地震の波は、種々、雜多でありますから、或場合には、建物が丁度海上の波の內に浮て居る船の樣な有樣になるので、簡單には片附ない事になりますが、實地に應用する場合は、餘り複雜になるので今日では考に入れて居ませぬ。又、振動の程度はごう取るかと云ふと、建築規則では、加速度一千『ミリ』に安全に、耐へる樣計算する事になつて居ます。我々の方では、總し材料の耐力に對する安全率は、普通四、即最大限の四分の一とします。是は、各材料は使用前に相當の試驗を行ひますが、一つ一つやる譯ではないので、中には欠點のあるものもありましよう、又施工も理想的に行ひ得ない場合が多いので如斯するのです。故に試驗、施工共嚴格にやれば、二倍半以上三倍位迄は、堪へ得ること、考へます。關東の震災當時の箱根附近では、四千『ミリ』東京の下町近傍は三千ミリ程度でありますから、一千『ミリ』で計算して置けば、此程度の地震の場合でも、人體に危害を及す程度の被害はなからうと思ひます。序に我々の方で、震度を示すに〇・一又は〇・二等と申しますが、是は重力の加速度は、約九千八百『ミリ』『パーセンド』『パーセコンド』ですから、之を簡約して一萬としまして〇

一・とは一千『ミリ』〇・二とは二千『ミリ』を意味するのであります。

◇

最後に、私が關係した建築の一が、東京の震火災當時どんな風であつたかを御談するのも一興かと考へます。其は日本橋區平松町で、白木屋の筋向ひにある住友銀行支店であります。構造は、本館は鐵骨煉瓦造五階建てすが、煉瓦壁には、四段毎に鐵網を積込み、床と屋根は鐵筋『コンクリート』造です。附屬家は、荷重を少くする爲、鐵骨の兩面に鈴木式鐵小舞を張り『モルタル』塗としたもので、本館、附屬家共窓入口の建具全部及其他の雜作も鐵材を用ひ、外部に面する開口には鐵製巻上防火戸を附したもので、大正六年八月に落成しました。耐震の計算は、今日程進歩しては居りませんが、凡一千『ミリ』には安全に堪へ得る豫定でありました。地震のあつた直後東京の出張所詰のものが、建築の内外を詳細に調べました所、本館は全然異狀はなかつたのですが、附屬家は、抗打をせなかつた爲、東南の隅が二寸程沈下して壁に龜裂が出來たそうです。此建物が落成當時、火災保險を附するや否やの論が起りまして自分に相談がありましたので、保險の必要なき所以を述べました。但、火災の場合には、外部に面する開口の防火戸は、全部完全に閉る事を條件としました。それで銀行も同意して保險を附けなかつたのですが、建築施工中から銀行の庶務課長を務めて居て、建築の事も相當分て居た人で平賀昌一と云ふ人（眞面目な親切の人です）が、火事が始まると同時に、部下五人の者と共に各所の防火戸を締めに行て、本館のものは全部完全に閉す事が出來たが、附屬屋の沈下した部分に近い窓が、變形した爲、外開きの窓扉が締らなくなりました。而して、壁厚が薄い爲と其すぐ外に防火戸があるので、窓扉を完全に締めなければ、外部の防火戸を締め得られない狀態にあるのです。それで素人細工に、鑢等を以て當る部分を摺て扉を閉さんとしましたが、中々短時間では、出來なかつたが、漸く不完全ながら締め得られた時は、建物全體が火で包まれ逃れ出る道がないので、止むを得ず籠城の意を決したのであります。尤も部下五人の内二人は、先に歸り殘つたのは、合計四人であつたそうです。

最初は建物の内で最も安全と考へらるゝ書庫の中に居つたそうですが、部屋が小なる爲、窒息の恐あるを慮り、後に營業室に移つたそうです。そして、窓の所を見て居ると、時々大風が吹て來て其度毎に、小さな火の粉が防火戸の間隙から窓扉の外側に入るが、窓扉から内には決して入らない、其内に防火扉が熱せられ幾分、赤味を帶びて來ると、其内側に塗てある『ペンキ』に火が附て炎上るが、窓扉の内部には何等異狀なく、又室内も存外溫度は昇らなかつたそうです。暫して、氣が落附て來たので、附屬家の防火戸の不完全なる部分が、氣になるので、行て見ると、豫期の通り其窓際に山積せる荷物が、少し燒けて居るのを發見し、水を以て消留め、尚、充分に濕して置た爲事無きを得、翌朝火事の靜るのを待て歸つたのです。

◇

以上述べた平賀君の取た行動は、如何に人力が如斯場合に、與て効果が大なるかを證明するもので、大に稱讃に値するものと考へます。折角技術者が、意を用ゐて有事の際必要なる種々の設備をして置ても使用者が不斷の注意の足らなかつた爲、又は、其場合に當て之を等閑に附した爲、其効力を發揮し得ずして、損害を受た實例は世間に相當數多い樣でありますから一般に、御注意を願ひたいのであります。之を以て終りと致ます。

木造耐震構造法

災害委員　池田宮彦

今更木造でもない

とお笑ひになる方が多いでせう、それ程現代は鐵筋コンクリート萬能の世になりました。そう云ふ言葉を口にせぬとモダンでない様な、落伍した様に感ぜらるゝ程に人の頭だけ進んでしまつたのです。過日も大丸の建築知識普及展覽會を見に行きましたら、うちの子供が第一室の入口にあつた模型を見て、いきなり鐵筋コンクリートがあると申しました、まだ小學校へも行かぬ子供の頭に迄それがそんなに強く印象せられて居る時代に、今更木造の耐震構造云々と書くと大方の諸賢がお笑ひになる事を恐れます。然し乍ら人の頭だけは進んでも實際はどうでせう。今大阪の町を見て鐵筋コンクリートの家と木造の家とどちらが多いでせう、棟數に於て、或は又建坪に於て、それは恐らく到底及びもつかぬ位大きい差があるでせう、それ程木造が多い、蓋し全市の殆んど大部分は木造と云つても過言ではありますまい。それ程多くの人の生命と財産とを保護して居る木造建築があるに拘らず、此の地震國の人々が何故木造の耐震構造を普及宣傳せしむる事少く耐震構造と云へば唯無暗に鐵筋コンクリート構造とのみ云ふのでせうか。そして若し今全市の建物を耐震の爲めに鐵筋コンクリート造に改めたなればそれは耐震だけの理想都市になるでせうが何億萬圓の金は何處から誰れが出しませうか、今の大阪市にも、今の我國にもそんな餘裕は全くありますまい、それ位よく判つた事だのに何故に鐵筋コンクリート造の耐震建築ばかりを人々は研究し、宣傳して居るのでせう、勿論それは理想論として聞くべきであります、そしてその理想論を實行し得るホンの一部分の人々は誠に結構でありますがそれ以外の大衆は地震に潰れて了ふのが當り前でせうか。何だかこゝにも現代社會の破綻が伺はれます。洋裝をした奥さんが下駄をはいて雨傘をさして青物賣の車を覗き込んで居るのを見て笑つてはいけません、現代世相の總てがこれであります。

右の様な次第でありますから私は耐震構造法は先ず須らく木造から研究し宣傳して置いて、そろ〳〵鐵筋コンクリートに移らねばならないと思ふのであります。再び私は申します、現に建てられつゝある建物の大部分は木造であります。それ故に先ずその耐震構造法を普及宣傳し全市の木造建物を充分堅固にして置いて次に徐ろに之れを鐵筋コンクリート造に置き代へて行くべきが最も健全な發展の經路であると信ずるのであります。

木造は果して耐震構造

と爲し得るや否やと云ふ問題に直面せなければならないのでありま

す、而してこれには地震の破壞力と地震振動の周期と今一つは木造建築物の自己周期と云ふ事について少しく知つて置く必要があるのであります。

今多くの學者の説によれば何れの地震に於ても其の破壞力の最も大きい時は其の地動の最大震動周期と建物の自己振動の周期とが一致した場合であるとの事であります。これは種々の理論、實驗等から説かれてあつて、最早や疑ふべき餘地は無い迄に確かな事であります、斯ふすれば、地震振動の周期は何程であるか、次に近來の大地震について例を擧げて見よう。

年月日	震源地	最大水平全振幅	全周期
大正十年十二月八日	霞浦	三六・七粍	一・七秒
同十二年一月十四日	同上	三・七粍	一・二〃
同十二年九月一日	相模灣	八六・六〃	一・三五〃
同	上同上	二〇〇・〇〃	二・五〃（最大）
同	上同上	一〇三・〇〃	一・五〃
昭和二年三月七日	大阪	一六・〇〃	一・三〃

即ち最大振幅に於ける周期は一秒乃至二秒である、振幅の大小にはあまり大きい關係なく周期は殆んど同じ範圍にある事が知れる、それ故に若しも構造物がこれと同じ樣な周期を有する場合には、それは地震に對して誠に危險なものであると云ふ事が出來る」而して構造物の自個振動周期と云ふのは構造物が何かのショックを受けた時にユラ〳〵と搖れる即ち構造物に一回だけトンと力を加へたのみで暫くの間はユラ〳〵と搖れて自然に靜まるものである、この時の振動の周期がそれであつて實驗の結果多くの學者によつて發表せられて居るものは大體次の樣である。

鐵筋コンクリート造	〇・二秒
木造平家建	〇・五秒
同 二階建	〇・八秒
鐵 骨 造	一・〇秒

それ故に鐵筋コンクリートが最も少く木造之れに亞ぎ鐵骨最も大である。即ち地震の周期に最も近いものは鐵骨造であるから木造よりも危險と云ふ事が出來る、換言せば木造は決して悲觀すべき程地震に對して弱い、危險な構造物ではない、木造それ自身の有する性質が斯くの如くであるから、之れを今一層注意し、施工すれば寧ろ地震には強い家屋となるのである、それにも拘らず彼の北但馬、及奥丹後の地震に於て何故にかくも悲慘な狀態を出現し、各町村が殆んど殘る隈なく倒潰したか、それはあまりにも哀れであつた、然しそれには又斯くなるべき原因が明らかにあつたのであります。それは今更此處に述ぶべき必要もない位いの事とは思ひますが順序として再び述べて置きませう。即ち

一、土臺及柱の根元が殆んど皆腐つて居つた事及土臺を用ひない家の多い事。

二、筋違、方杖、燧材殆んど無し。

三、柱と土臺との取付に鎹其他の補強金物或はアンカーボールト等の用ひられてなかつた事。

四、屋根及天井裏に荷重が多過ぎた事（屋根上に雪の多かつた事、不用家財を屋根裏に積み込んであつた家の多い事等）

右の如き次第であるから斯くの如き欠點を除き且つ耐震的構造法による設計を爲せば必らず地震に破れぬ家が出來上るのである。

何れの大地震に於ても最も恐るべきは地震よりも、之れに引續き起る火災であつて、此の震火災の起る原因は云ふ迄もなく家屋の倒壞によるものであるから、若し地震があつても家屋さへ倒壞せぬものである事に確信があれば安んじて家屋内に居り家を守る事が出來

るのであります、彼の關東の大地震でも木造住宅に於ては地震に倒れたものよりも震火災による被害の方が多かつたのを見ても木造家屋が比較的強いものである事を知らるゝ事と存じます、而もそれ等の木造建築の多くは特に耐震的構造法を施したものでは無く從來の構造法の建築であるに拘らずよく倒壊を免れたのであります。それ故に今少しく耐震構造法を研究し實施すれば如何ばかりか強くなり一朝大地震に襲はるゝ事あるとも何等の心配なく安心して日を送る事が出來るのであります、それ故今日迄に本委員會に於て研究せられたる耐震木造法について發表し委員會の報告の一部分に代へたいと存じます、幸ひ何かの參考になれば誠に本懷の至りであります、若し又これに就いてこれ以上の研究して居らるゝ方があれば本委員會迄御敎示あらん事を希ふ次第であります。

構造一般

これ迄の木造建築の一般的構造法は筋違とか方杖とか云ふ斜の構材を用ふる事が殆んど無く、住宅にも、事務舘建築にても室の内に方杖、壁に筋違等の露出する事を大變嫌ひ、唯習慣的に之れを避けて居つた、構造上在つた方が良い事は知りつゝも殊更に之れを見せぬ樣に考へて、大きく付け得る方杖を小さくして天井内に隱し或は省略する習慣のあるのは誠に詰らぬ事と思はれる、建築法規に於ても木造建築は永久的建築でないと云ふ考へからあまり此の點に觸れて居らない。即ち方杖、筋違、燧梁等の配置、大さ等に關しては制限が無い、柱の太さは之を指定しても是等の斜材に對しては指定が無い。之れは柱の太さと關係の有るものであるから其の大さ、取付等に付いては將來取締を法規に示され度いものと思ひます。

木造住宅建築の耐震構造法に就いては前號の災害と其の豫防漫談中に詳細に述べてあるから其の部分を見られ度く本文にはこれを省略します。

事務舘建築等の住宅以外の建物に於ては壁體に筋違、方杖等の室内に露出する事は何等遠慮する事はない、むしろ、かくの如きものを附した方が反つて事務舘、或は工場らしく見え、使用する者に安心を與へ反つて好結果を來すものと信ずる、尙要所〳〵の仕口は出來得るだけ金物を補強に用ひて構材が仕口によつて欠損せらるゝ面積を節約する樣に考案する事が必要である、古くからの我國の構造法は仕口を非常に八釜しく云ひ極めて巧妙なるものが考へられ又實施せられて居るが之れ等は一般は鐵物の無い時代の構造法であつて現代の如く鐵が豊富な時代に斯くの如き舊時代の傳統を其のまゝ踏襲する事は時代錯誤と云ふべきである。殊に良い大工さんは金物を使ふ事を恥の樣に心得て居るのは今後大いに改めねばならない點と思ひます。仕口のすべて木と鐵とを用ひ兩者相助けて完全な仕口になる樣に考究すべきであります、此の場合木には耐壓力を負擔せしめ鐵材には應張力を負擔せしむる樣に考ふるを良しとす。

震災豫防調査會に於て大正十四年八月、發行せられた『木造小學校建築耐震上の注意』と題した小册子は余が述べんとする所を述べてあるから其のうち、小學校に限らず一般的に採用し得る所のものを次に抄錄掲出す。

一、基礎は可及的に其の沈下を小ならしむる事を期すべし。地盤優良ならざる場合には地下を成るべく深く堀下げ、割栗石、砂利等を打込み搗固めたる上に築造すべし。但し地盤に水氣あるときは杭打ちを爲すを可とし、杭は常に水面下にあらしむべし。

一、基礎は硬軟不同なる土地に跨りて築造する事を避くべく、止むを得ざる場合には不同沈下の起らざる樣軟地を充分に堅固となすか、然らざれば別棟となすべし。

一、土臺、胴差、桁、梁等の横架材の隅々には燧材を設けて三角形を構成すべし。

一、柱と土臺若くは桁との接合には方杖、帶金物、筋違ボールト、鎹又は其他の鐵物を用ふべし。

一、柱は其の大さ可及的に大なるを可とし、且つ縱横架構材の接合には仕口によりて柱の強さを減ぜざる樣、添木、添鐵物、ボールト等を用ひて之を補強すべし。

一、柱は二階建の場合には平家建の場合に比して自ら大ならざるべからず。而して出來得る限り多く通柱となすべし。管柱を用ふる個所には添鐵物、又は添木を當て上下を充分に連結すべし。

一、小屋組相互の間には筋違、梁挾の類を用ひて之を連絡し家屋の頂を結束して一體となすべし。

一、屋根の重量は木造家屋破壞力の主要なる素因なるが故に、其の材料には石綿盤、石盤の如く輕良且つ耐火的なるものを用ふべし。

一、壁體は家屋の外部のみならず、內部にも縱横に成るべく多く之を構成すべし。壁體少くして室の尨大なるは耐震上最も不利なる構造なればなり。

一、壁體には必ず筋違を用ひて三角形を構成すべし。

一、講堂雨天體操場、控所等の如く張間の特に大なるものにありては前項に關し特に注意すべく、更に次の各項に留意すべし。

(イ)講堂を階下に設け其の上を教室となすよりも階下を教室とし階上を講堂となすを可とす、階下に間壁少なきを不可とするが故なり。此の場合に於て二階柱と梁及胴差との接合は特に强固ならしむべし。

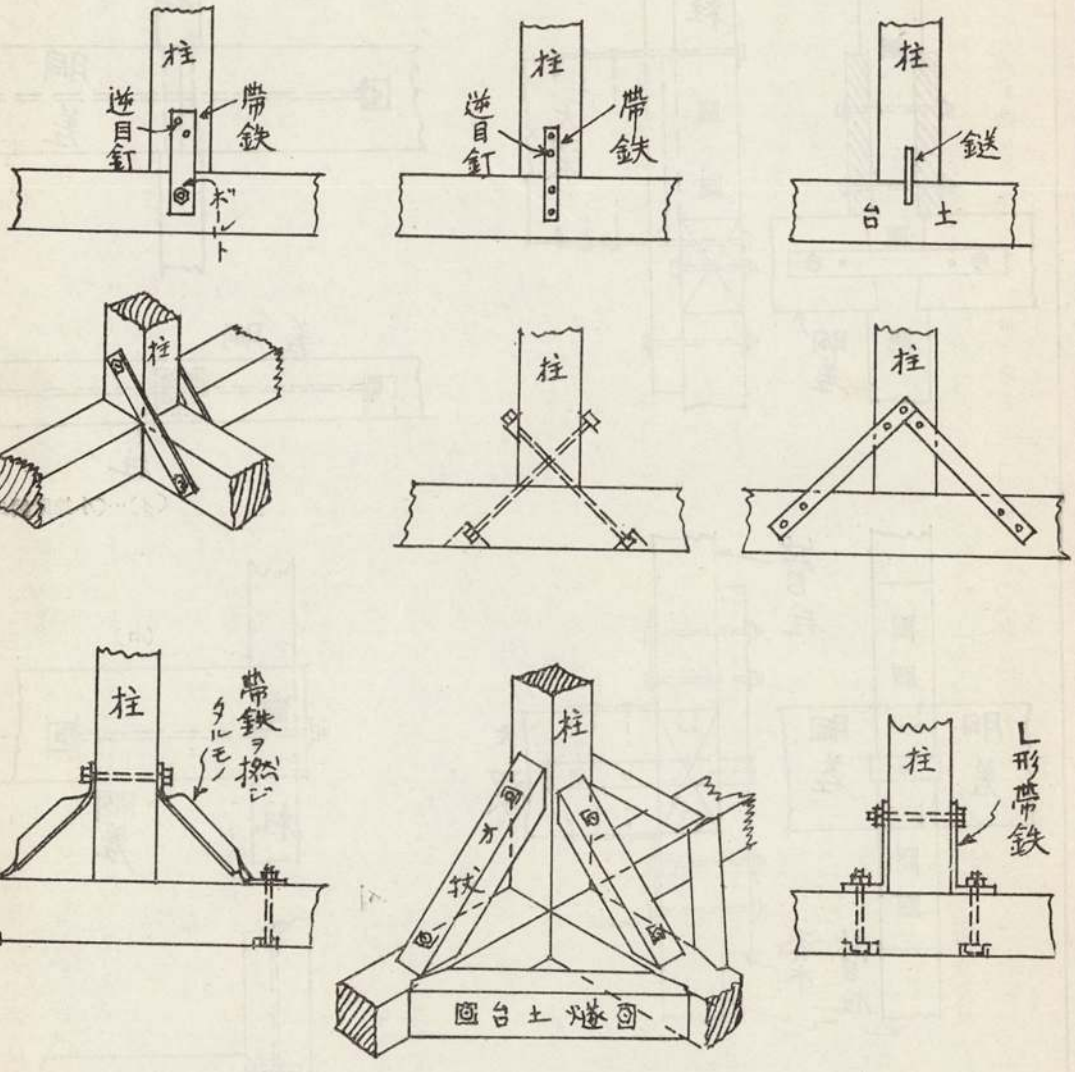
(ロ)外壁の適當なる個所に添柱、控柱を設け室の歪に備ふる事を要す。梁と柱との接合又は柱の大さ充分ならざる場合には特に必要なり。

基礎

基礎は全體を一つの連續したものとする事が望ましいので側壁、柱等別々になる事を避けたい、基礎の敷幅の大さについては其の土地の地勢、土質(地盤の堅軟)によつて自ら異るもので一樣に定むる事は全く出來ない、けれ共全體を一つの連續したものにする事は如何なる場合にも必要な事であります、若し家の中に大きな荷受柱が獨立柱として存在した場合でも其の基礎は何等かの方法(例へばコンクリートの繋梁)にて他の基礎と聯結して置く事を良しとす。且つ深さもなるべくすべて一定にするを賢策と考へられる。

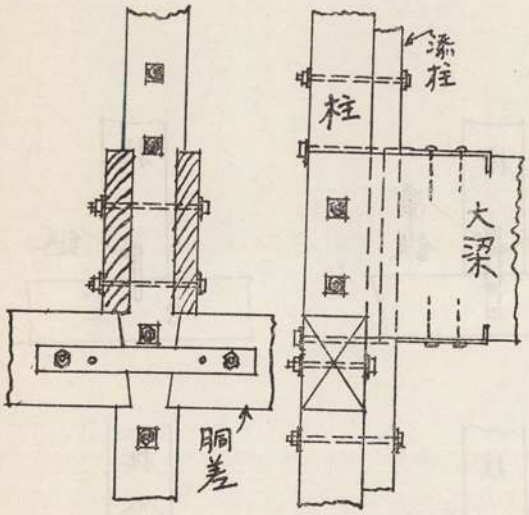
基礎は常に不同沈下の生じない樣に設計に當つて考慮し一定の荷重に對して其の幅を一定にし、且つ全體の基礎に一樣に荷重の行き渡る樣に考へ、一方のみに荷重の集中する事を避くるを良しとす、即ち、此の爲めには屋根の梁を受くる柱には二階梁を架けず、二階梁を受くる柱は小屋梁を受けない樣に、梁の配置を考へて常に基礎底には何れの部分にも一樣の荷重を負つて居る樣にする事が必要である。

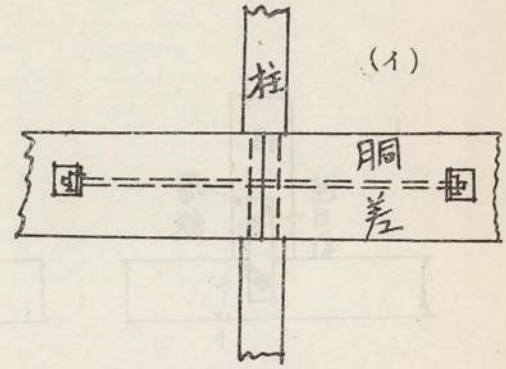
基礎はなるべく深く造る事を望む、然し深ければ深い程工事費が嵩むものであるから無暗に深くする事は出來ないが深きに失せざる範圍に於てなるべく深く致したいものでありまた特に盛土を施した土地に於ては後から盛つた上土を取除いて原地層(舊地面)以下に入



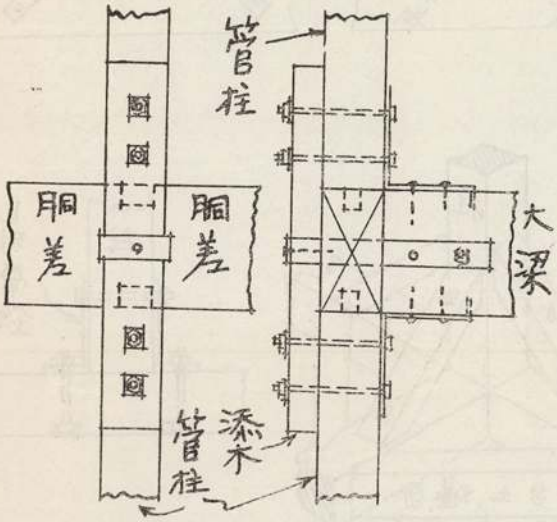
第一圖　柱ト土台ノ取合

第二圖　柱ト二階梁又ハ胴差

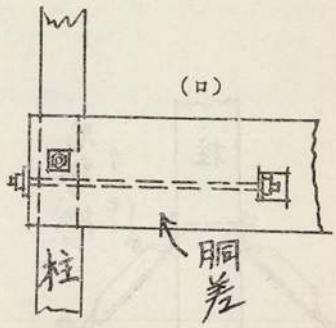


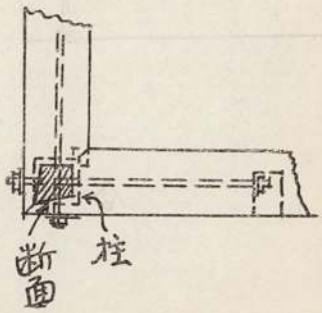


(イ)…(小笠原錩氏案)



(ハ)…(尾崎久助氏案)





れて置く必要がある、若しも土質が大變厚くて到底之れを除く事が出來ない場合は先ず基礎工事を施す部分を根代りとし、其の後多量の水を注入し、盛土（石炭灰、砂、土砂、山土等）を出來得る限り沈澱せしめ空隙のない樣にしこれが固つてから栗石を入れ搗き固むるを良しとす。若し又此の盛土がアッシュ（石炭殻）であつたなれば根代底に砂を一尺程の厚さに盛り多量の水を注ぎ掛くれば砂はアッシュの空隙に流れ込みて良く締りたる地層を形成し安全な基礎工事を施す事が出來るのであります。アッシュは殊に空隙が多く建築竣工後荷重の爲めに沈下する事が多いから特に此の方法を用ひて豫めアッシュの空隙を無くして置く必要があります。割栗石の搗き固めには砂混りの砂利を目潰しとして出來得る限り多量に切込むを要す、これは云ふ迄もなく割栗石の空隙を塡充せしむるものであります。若し地層が天然の山土、山砂利、等の堅地層であれば、割栗石等を用ふる必要なく唯根代底を平らに搗き固めたまゝコンクリートを打てば良しい。

基礎にはアンカーボールト（土臺締ボールト）を柱の附近に必ず植込む事を忘れてはなりません、若し柱の根元に筋違が來て居れば此の柱には其の兩側に近くアンカーボールトを植込むを宜しとす。而してアンカーボールトは土臺を締め付けた時に、土臺の上にワッシャーを置きナットを締めて尙五、六分の餘長の有る樣に植込む事を要する、勿論ボールトは常に土臺の中心に垂直に植込むべきであります。

土臺と柱の取合

奥丹後の震災視察をした人の談に柱と土臺の配合に小さい鎹一本宛打つけてあつた爲めによく倒壞を免れた例があつたとの事でした。これを以ても如何に土臺と柱との取合が一般に不完全であるかを推定する事が出來る、若しも其の鎹を入れてあつたと同樣すべての家にも鎹が用ひてあつたとすれば如何ばかり被害が少なかつた事でありませうか、鎹一本は實に國家社會に非常な貢獻をしたものと云ふ事が出來ます。人の注意力は極めて些細な事が極めて重大な役目を爲す事があります、地震に破れぬ家も實はホンの一寸した注意によつて出來るものであります。

柱の下はすべて土臺を廻らす樣にし壁下のみに土臺を用ゆるのでは無く、獨立柱にも土臺を廻し、柱を基礎の上に直接載する事無く土臺にて受ける構造と爲すべきであります。且つ此の土臺は基礎にアンカーボールトを以て締付け移動せぬ樣にすべきであります。土臺の隅々には燧材を用ひ地震の場合に土臺の交叉角度に歪を生ぜない樣に致すべきである燧材は土臺とボールト締とを爲す。

土臺と柱との取合は第一圖に示す如く種々の金物を用ひて離れない樣にすべきであります。此の金物には鎹の如く極めて簡單なものより特種の補强金物迄種々あるが、建物の大さに應じて使用すべく場合によりては方杖を用ひ土臺と柱と方杖とにて三角形を形成すれば極めて堅固なものとなる。（第一圖參照）

柱と筋違

柱と筋違とは一般にボールトを以て締付け柱へ筋違を嵌込む事を出來るだけ少くするを可とす、筋違はなるべく分厚き材料を用ひ、柱の二つ割を用ゆるを便利と考へらる、間柱は（大壁造に於て）通常柱の三つ割を用ふるを便利とし之れを筋違に利用する場合もあるが此の場合はなるべく兩面から襷に配置し柱の表面に嵌き込み、大釘打となすを良しとす、若

し筋違に太き材料を用ひたる場合は筋違を通し間柱を切るを良しとす。（第二圖參照）

柱と二階梁又は胴差

此の仕口は舊來の構造法によれば柱は梁の枘差によりて其の斷面大部分を失ひ柱の强度を甚だしく損ずるのみならず横力に對しては極めて不完全であるから柱と梁との間に方杖を用ひて三角形に構成し尙接合部には帶金物、羽子板ボールト、短冊鐵物等によりて補强し、或は梁を合せ梁にして柱を抱く樣に構成して柱への嵌込を出來得るだけ少くす、通柱、管柱共に二階梁によりて弱めらるゝ場合には柱の外側に階の上下に跨りて添木（添柱）添鐵物を當てボールト締として補强する事。（第三圖參照）

胴差を以て枘差とせずボールトを其中央部に貫通し之れを充分締付け枘の代用としてのボールトを作用せしむ。

小屋組、陸梁と柱との取合

西洋式小屋組、合掌、陸梁によりて三角形を形成して居る故に極めて堅固なものであつて如何なる地震に於ても小屋組が破壞した事は殆んど無く家が倒れても小屋組だけは原形を保つて居るのが通例である、然し乍ら柱と陸梁との取付は一般に不完全である、和小屋に於ても、梁と柱との取付は敷桁の上に梁を載せるのみであるから地震の場合には歪を生じて容易に倒れるのであります、それ故に梁と柱とは羽子板ボールト方杖、挾方杖、等を用ひ尙燧梁を小屋梁、敷桁間に入れボールト締となして三角形を形成せしめ横力の加はつた時に歪を生じ難くし、眞束間にも眞束筋違を入れ小屋組間の聯絡を保つべきであります、和小屋に於ても束は貫を以て聯絡するのみならず、此の外に筋違を以て束の間を緊定せしむべきであります。（第四圖參照）

最後に一言すべきは木造建築にかくの如き耐震構造法を採用し如何に堅固に造つても土臺、或は柱の下部が腐る事があればそれは何の役にも立たない、特に木造は我國に於ては腐り易いから土臺を地面上なるべく高くし、床下通風を良くし、且つ木材防腐劑を土臺及土臺に接する柱其他の木部に塗布して充分防腐の目的を達し併せて白蟻等の木材を蝕ふ害虫の豫防を爲すべきであります。（終）

大阪市『低さ』の制限

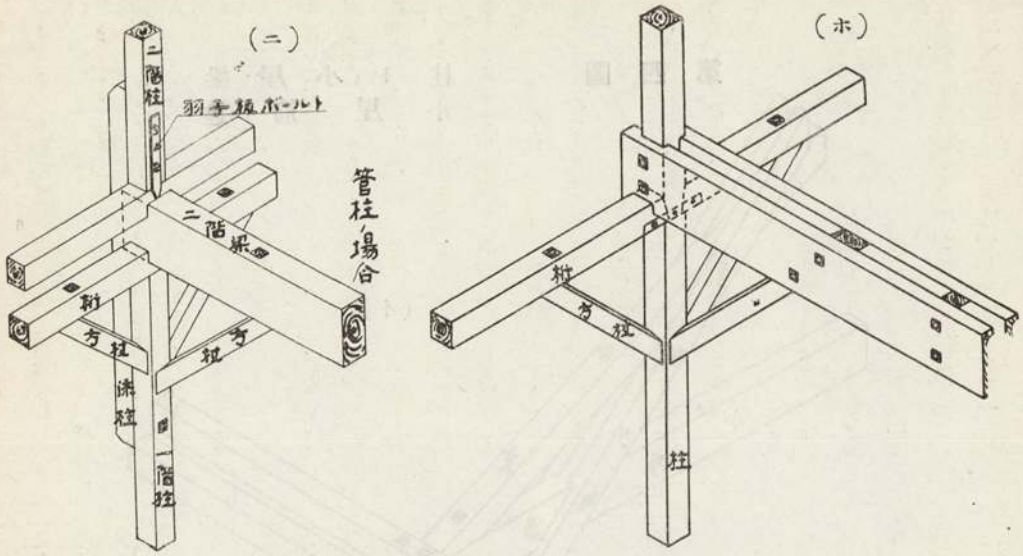
市街地建築物法の『高さ』の制限に伴つて大阪の都市の美觀を維持し、かつ土地の利用率を增進し防火地區の防火目的を助成するため市内建築物の『低さ』を制限しようといふので大阪府で調査研究を重ねてゐたがいよ〳〵具體案が成り近く都市計畫大阪地方委員會に諮問され、市當局の意見を徵して大阪府令として發令することゝなつた、これによると

一、大阪市の主要街路を甲、乙、丙の三種に分ちこの路線に沿ふ建築物は甲は四十五尺乙は卅六尺、丙は廿七尺と『低さ』の制限をなし、それ以下の低い建物は一切許さないこと

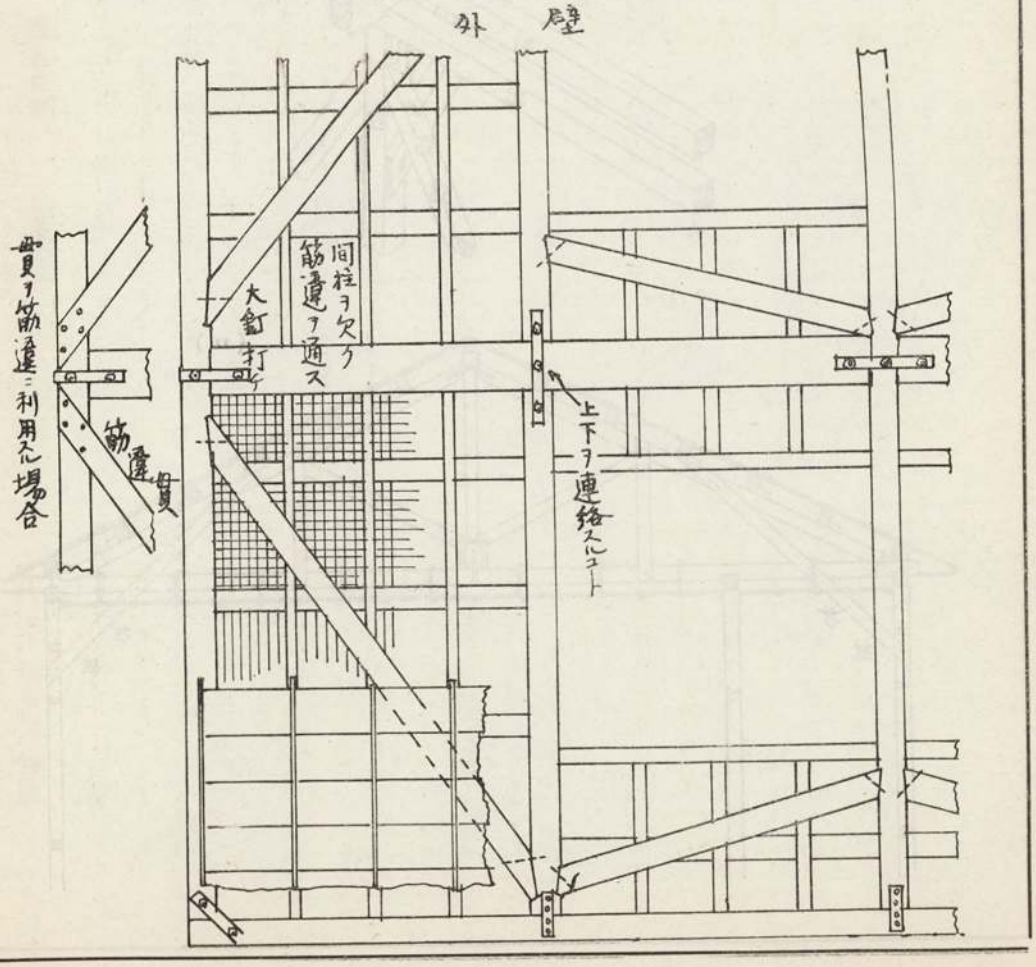
二、指定道路の兩側に沿ふ建物の奥行各六十三尺の間はこの制限を適用すること

右の『低さ』の制限が實施されると大大阪は大玄關の梅田驛前をはじめ北濱、堺筋、御堂筋南北線、千日前、道頓堀など市内の樞要地は殆ど三階建以上の宏壯な建物で軒を列べることゝなる、因にこれは他の大都市にさきがけして大阪市に實施せんとするものである。

第二圖

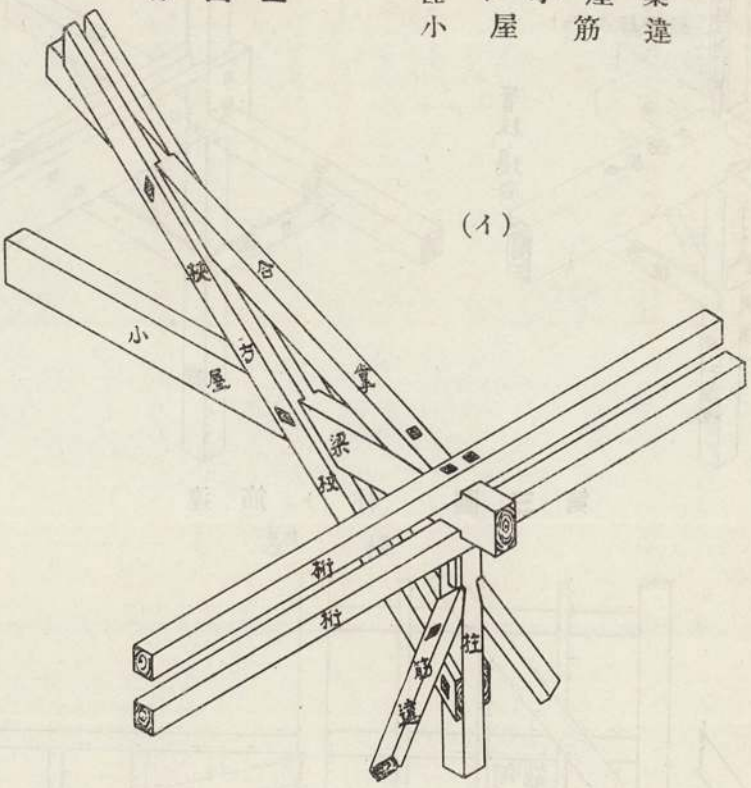

(二)
二階柱
羽子板ボールト
管柱場合
二階梁
桁
方杖
通柱
一階柱
(ホ)
桁
方杖
柱

第三圖　柱ト筋違

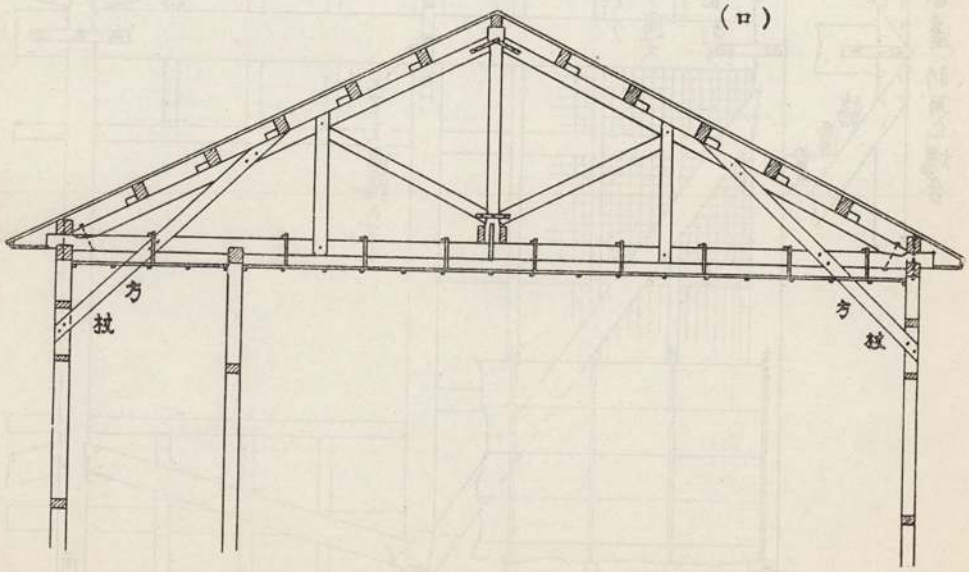

外壁
間柱ヲ欠ク
筋違ヲ通ス
大釘打
上下ヲ連絡スルコト
筋違
貫
貫ヲ筋違ニ利用シ場合

第四圖　　柱ト小屋梁
　　小屋筋違

(イ)



(ロ)



警視廳令

市街地建築物法施行細則改正案を通覽して

工學士　池田實

■

警視廳令なる市街地建築法施行細則の改正案が手に入つたので、それに對する所感を述べて見ることにする。しかし兎角多忙の身で精讀玩味する餘暇もなく、只單に文字通の通覽した儘のことであるから、或は思ひ違ひや感ちがい、見落しなどがないとも限らないから、讀者はそのつもりで御覽を願ひたい。大なる誤解でもあつたら、宜敷御寬容を乞ふ次第で、又筆端或ははしなくも當局に對して妄評禮を失するやうなことがないにも限らないが、決して惡意あるものでないから笑つて御見逃しを賜はらんことを切望する、と勝手な都合のよい遁辭を以て序とする。

■

現行の警視廳令市街地建築物法施行細則は同法の初めて所謂六大都市に施行せられた過ぐる大正九年十二月に制定施行せられたものであるが、その際六大都市の建築監督官が內務省に集まつて、施行細則の標準案やうのものを作つたのに基いたものであるが、その後大正十年九月、大正十二年九月、大正十四年四月など數次に亘つて、內容の一部が改正され來つたものである。

今回の改正案は前述の一部改正でなくして全部の改正案であるが、大正九年以降足掛け早くも九年に達する長年月の幾多の實地經驗に依つて得た資料に基くものであるから、萬遺漏なく殆んど完璧に近いものであらうと想像される。

道途傳ふる所に依ると、今度の改正案は別に今更ら新に定められたものでなくして、從來警視廳建築課に於て內規として適用し來つたものを公然と成文として細則に擧げたまでゞ、新規なものでないやうに言ふ人もある樣だが、元より細部のことに至つては、取扱上左樣なこともあつたであらうが、必ずしも一概にそうと片付けてしまう譯にいかない重要なものが多々あると思ふ。

それは現行の警視廳令は條文の數二十余條ばかりであるが、改正案を見ると六十三條で、その三倍に余るのを見ても分る、單に手續上のことを細かく規定した點があるにせよ、この長文の改正案は、確かに新に重要なる內容の制限を含んでゐるものと直感されるからである。大阪府の細則は四十余條で從來は警視廳令の約二倍であつたのが、今度は、警視廳令が大阪府令の一倍半になつた。以てその一班を察するに餘りあるであらう。

一體法、施行令及施行規則に於て、行政官廳、地方長官（東京に在つては警視總監）に委任したる條項が多々あるのであるが、法施行の

當初に於て、早くもその大部分を規定し實行し來つたものは、六大都市中唯一大阪府令のみであつた。警視廳令に於ても、僅に手續上の規定を設けたのみで、建築物實體に對する、構造設備上に關する法、勅令及省令に基く委任命令事項は何等規定されず、制限されずに早くも八年余を經過し來つたのである。これは初めて一般建築に對する制限が適用された東京としては、けだし萬止むを得ざる事情の存したものと推される。

■

それで、第一に吾人の注意を引くものは、第五條より第二十九條に至る二十五ヶ條の規定である、その內に一部建築線指定に關するこゝや、强度計算に關するものを除くの外は、建築物實體、構造設備に關する制限で、全部新なるものゝ見られる。而してその多くは、法、勅令及省令に於て、行政官廳、地方長官が豫め命令を以て規定すべきを命じた委任事項であつて、個々の事件について命ずべきものでないから、從つてこれ迄內規として既に實行し來つたものゝ云ふものは比較的少くなければならぬ筈であつたからである。

兎に角建築物實體上の制限がこゝに規定されたのは、誠に結構な次第で、これに刺戟され他の四大都市に於ても相當細則の追加が行はれる機運を催進する好影響を招來するであらうと想像され、又之を期俟し、切望するものであるゝ共に、之を好個の參考資料として我が大阪に於ても府令の改正を調査研究さるべきである。

又工事中の注意事項として第四十三條、工事用の機械、工事用設備火災豫備、煤煙防止、工事中の事故等に關して、第四十四條乃至第五十四條の規定が設けられた。尙注意すべきものは、手續上に於ける事だが第六十二條の規定である。以下逐條少しく意見を述べて見やう。

■

第二條　法、施行令、施行規則又ハ本令ニ依ル申請書又ハ届書ハ所轄警察署ヲ經由シ警視廳ニ提出スヘシ但シ施行規則第百四十四條第一項ノ建築物ニ關スル届書ハ所轄警察署ニ提出スヘシ

本條は警視廳建築課で取扱ふものゝ所轄警察署で取扱ふものゝの區別を設けたのが注意すべき點で、從來に比して、其の但書が追加された譯である。法施行の當時に於て六大都市中、法施行の一部を所轄警察署長に委任したのは獨り我大阪のみであつた。それは大阪に於ては府令建築取締規則を明治四十二年八月以降施行して、其の一部を所轄警察署長に委任し來つた慣例を踏襲したものであつたが、法施行の後に於ては、之を全部府建築課に統一せんこと努力したが、一は技術員の不足なると、一は署長の權限の縮小となるので、仲々上局の容るゝ所とならなかつた。又署より全部引き上けることは、署が法施行に對して全然冷淡になる弊もあるこゝは工場法施行の際の先例に徵して明なる事實の證する所である。只署に於て取扱ふことは大阪の如く技術員を配置せずして、只警察官のみに委する點に於て、遺憾の點が多い。しかし東京に於ては數年前より技術員を署に配置して、府建築課の出張所の如き形式に於て、署で取扱つたのを今回劃然區別したに過ぎないので、區域の廣い東京としては蓋し止むを得ないことであらう。がしかし法施行の統一と技術員の監督といふ二點に於て欠陷がないであらうかを疑ふものである。原則としては廳府縣の建築課に於て統一するが理想であることを附記して置く。

第五條　施行令第一條第九號ノ規定ニ依リ指定スル建築物左ノ如シ

一　工場ニシテ左ニ揭ク事業ヲ營ムモノ又ハ作業ヲ爲スモノ

イ　玩具用普通火工品ノ製造

ロ　砂糖包裝袋ノ洗汁ヲ原料トスル砂糖蜜ノ製造

ハ　火氣ヲ使用スル古鑵潰

ニ　硝子ノ製造（再製ノモノヲ除ク）

ホ　動物炭ノ製造

ヘ　土製ノ瓦又ハ土管類ノ製造

ト　原動機ニ依リ運轉スル「ハンマー」又ハ汽鑵ヲ使用スル鍛冶作業

チ　施行令第三條第二號「ロ」ニ揭ク物品ヲ使用スル作業ニシテ引火又ハ發火ノ虞アルモノ

リ　施行令第三條第二號「ハ」ニ揭ク物品ヲ使用スル作業ニシテ有臭又ハ有害ノ瓦斯又ハ廢液ヲ生スルモノ

ヌ　「フエルト」ノ製造

ル　粉狀纖維ヲ用ヰル作業

ヲ　油脂ノ加熱

ワ　羽又ハ毛ノ洗滌、選分、染色又ハ漂白

カ　骸骨又ハ「エナメル」ノ燒付

ヨ　鐵槽、鐵筒又ハ鐵製金庫類ノ製作

タ　木材ノ挽割若ハ鉋削、印刷、裁縫、機織、組紐、編物、製袋、製針製鋏、製釘、鈑又ハ型鋼類ノ裁斷、鑵ノ目立等ニシテ常時使用スル原動機馬力數ノ合計一ヲ超過スルモノ

レ　懷爐灰ノ袋詰、麻ノ梳解、織物ノ起毛、製綿、「コルク」ノ研磨、石材骨角又ハ貝殼ノ挽割、牙爪類ノ挽割若ハ乾燥研磨、土砂貝骨又ハ肥料ノ粉碎、「エボナイト」ノ粉碎若ハ乾燥研磨金屬（貴金屬ヲ除ク）ノ乾燥研磨等ニシテ常時原動機ヲ使用スルモノ

二　鷄獸ノ解體場又ハ燒却場

三　胞衣及產穢物ノ燒却場

四　蜱踏場

五　魚獸鳥ノ腸、骨又ハ生皮ノ貯藏又ハ處理ニ依ルモノ

前項第一號「チ」乃至「レ」ニ該當スルモノニ在リテハ土地ノ狀況又ハ構造設備ニ依リ支障ナシト認ムルトキハ其ノ建築ヲ許可スルコトアルヘシ

本條は施行令に於て行政官廳に對し命令を以て指定し得るやう委任された事項の一つであつて、住居地域内に建築し得ざる——住居の安寧を害する虞ありと行政官廳が認めた——建築物を指定したもので、施行令の第一條には第一號から第八號までその種類を擧げてゐるのであるが、それは一般的で又その害の明瞭なるものに對する制限のみである。從つて數に於て多からざるも、特殊な川途に充つる建築物については、之を行政官廳に委任した譯である。この改正案に擧げてある種類のものはその範圍仲々に廣汎で、よく細密に亘つて調査研究されたものと感心する次第である。

その大綱は第一、工場にして施行令第一條第一號の範圍内に於ても尙且つ住居の安寧を害する虞ありと認められたものと、第二、工業地域内に非ざれば建築し得ざる種類のものに比してその工場の害の程度相似たるもの、又は稍程度の低きもの、及之に類似したるもので施行令中に漏れてゐるものを摘出して、之を工業地域内に限らざるも、少くも住居地域内には建築せしめざらんとした主旨に出でたるものであらう。

その内には當然工業地域に非ざれば之を建築し得ざるものとしてもよい程度のものも見受けられるが、少くも住居地域内に建築することを禁ずるのは至當であらう。但し當局の意見としては、工業地域内に非ざれば建築することを得ざるものとなすは、餘りに事重大で行政官廳としては爲し得ざるにあらざるも、多少遠慮した點もあるのではあるまいか。又東京に於ける住居地域の指定の方針、程度、實狀に明かでない吾人は、之を深く論議すべき余地がない。大阪は初めに住居地

域に建築し得ざるものを先づ規定として(施行令の外に細則に於て)然る後住居地域を定めたのであるが、東京は之に反して、先づ住居地域を定めて後、之に建築し得ざる建築物の種類を定めるのであるから、その行方に根本的相違があるので、必ずしも一概にその可否を批判すべきは避くべき事柄に屬する。

第五條第二項は前項に對する一部の緩和規定で、實際の現場に照して處置せんとする、建築監督官の自由裁量による余地を存した、所謂法の施行上寛嚴その宜しきを得んとするもので、その主意に於ては大いに諒とすべきものであるが、吾人の見を以てすれば、本項は寧ろその無きの優れるを認める。何となれば、斯る事柄の許否を定める標準、その程度は仲々六ケしいもので、實際に當つて個々の問題に逢着して決定し難いから、却つて反面の情實その他の弊害を生ずるの虞があるかと思ふので、建築監督官の自由裁量は寧ろ單なる技術上の問題に留め、建築物の種類の如きものは一刀兩斷的に定めて置いた方が適當であると信ずる。强いて之を設けんとするならば、大阪府令の第二條第二項の如く、假設的に期間を附して許可するを優れりとするものである。のみならず、現行の住居地域に對する制限は根本に於て不徹底のものであるから、一層適確に規定する必要があると信ずる。

第六條　施行令第二條第三號ノ規定ニ依リ指定スル建築物左ノ如シ

前條第一項第一號イ乃至ト、同第二號、第三號又ハ第五號ニ該當スルモノ

本條は商業地域内に建築し得ざる種類の建築物で、前條の住居地域内に禁じたものの内一、程度の輕きものを除いたのであるが、これには除外例なしになつてゐる。それは、その種類の性質によることであらうが、この除外例のない、即ち建築監督官の自由裁量の余地のないのを喜ぶ。この點に關しては、前條の所で云ふのを忘れたので、こゝに補足する。警視廳建築課の從來の取扱の實例を知らないが、施行令第一條第一號但書、同第二條第一號但書、同第三條第一號但書、同第二號但書、同第四號但書などの除外例が果してその程度まで適法に運用せられてゐるであらうかを疑ふものである。若し實際に運用せられてゐるものとせば、その範圍、程度を果して如何なる內規標準に據れるかを聞かまほしい心地がする　又若しこれありとせば、誠に微に亘り細を穿つたもので、所謂繁瑣これ事とするものであらう。これが直接調査に當る當局員の勞を御氣の毒に思ふと共に、これが爲めに不圖も調査日數の徒に長きに失して、民間その苦痛に堪え難きものである。そして屢一屢その度を高むるの弊に陷るに過ぎざるものあらんを恐れるのである。又建築主に於て、何とかせば、甘くその除外例の適用を受けて建築し得るの余地が存するのではなからうかと、心密に苦悶するの傾向をも生ずるの虞があるのを遺憾とするからである。

第七條　施行令第三條第三號ノ規定ニ依リ指定スル事業左ノ如シ、但シ土地ノ狀況又ハ構造設備ニ依リ支障ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

一　硝化纖維素ヲ原料トスル物品ノ製造

二　水性瓦斯又ハ液化瓦斯ノ製造

本條は工業地域に非ざれば建築し得ざる種類の建築物の規定で、その第一號及第二號には異存はないが、前述の如く、第五條中にこゝに擧げてよいものがありはせぬかと思ふのである。又これにも除外例の但書のあるのを前同樣の理由で遺憾とする。しかもその程度は第五條第六條の比ではない、强いてこの但書を置くものとせば、未指定地內に限るやうにする必要があると思ふ。但し第五條第一項第一號チに依つて住居地域內には建築し得ないことになるのかも知れぬが、同條第

二項の適用を受けると住居地域内にも建築し得、又第六條によつても商業地域内にも建築し得るやうになる嫌があるので、これは施行令第三條にもその嫌があるが、工業地域内に非ざれば建築し得ざる種類のものを、除外例として商業地域内にも甚だしきは住居地域内にも是認するが如きは宜しく之を避けて、單に未指定地内に限りたいと思ふのである。

第八條　市街地建築物法第四條第二項ノ規定ニ依ル工業地域内特別地區規則

第一條第三號及第三條第二號ノ規定ニ依リ指定スル建築物左ノ如シ

一　製革又ハ毛皮ノ精製工場

二　「イヒチオール」ノ製造工場

本條は工業地域内特別地區の問題で、大阪では未だその地區さへ定まつてゐない位で余り研究してゐないから何とも申し兼ねるが、先づ適當であらう。

第九條　幅員六尺以上九尺未滿ノ道路ニシテ行政廳ノ管理ニ屬スルモノ及當廳ノ指定シタルモノニ在リテハ其ノ中心線ヨリ兩側各四尺五寸ノ距離ニ在ル線ヲ以テ建築線トス

幅員九尺以上ノ道路ト建築敷地トノ間ニ用水路、下水溝又ハ土揚敷アルトキハ其ノ用水路、下水溝又ハ土揚敷ト建築敷地トノ境界線ヲ以テ建築線トス

前二項ノ規定ニ拘ラス必要ト認ムルトキハ別ニ建築線ヲ指定ス

本條は法第七條但書に基く建築線指定の規定であるが、その第一項中に於て幅員六尺未滿のものについては如何との疑問が起る、これは東京の實情に明くない吾人としては批判し難いが、行政廳の管理に屬せざるものは或は別としても、少くも行政廳の管理に屬するものは幅員六尺未滿のものも含ませて、單に『幅員九尺未滿ノ道路ニシテ』で可なりではあるまいか。若し不都合の場合起らば、それこそ同條第三項の活用があるからである。

同條第二項は幅員九尺以上の道路と建築敷地との間に下水溝などの介在する場合に於ける建築線の指定で、これは余程大問題となる場合もあらうが、本項の如く一刀兩斷的に規定したのは誠に英斷で、その手腕のほど驚服するの外ない。大阪でも堺市内などにこの例が少くないが、今の所不明の嫌があるので、この例は採つて以て大阪府令の好資料として充分研究せらるべきであらう。

第十條　土地ノ所有者、管理者又ハ使用權者ニシテ建築線ノ指定ヲ受ケムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シタル申請書正副二通ヲ提出スヘシ指定シタル建築線ヲ變更又ハ廢止セムトスルトキ亦同シ（後略）

本條は土地の所有者などが建築線の指定を受けんとする場合の手續規定で、現行條文を一層詳細にしたに過ぎない。その第一項中指定建築線の變更又は廢止を明細に規定したのは喜ばしい。申請に基いて指定した建築線を申請者の都合によつて變更し又廢止する場合は當然考慮に入れて置いて良いことで、一旦指定したものなるが故に支障ある場合は別とするが、何でもかんでも之が變更廢止を認めないなどのことがあるとすればそれは無法の極である。

同條第二項但書は最も時宜に適したる規定で、双手を擧げて之を歡迎する。建築監督官その運用宜しきを得られんことを切望して止まない。とかく土地所有者などは、隣接地主間に土地疆界線問題で感情の融和を欠いで、建築線指定申請が圓滿に行はれ難い刻下の現狀に於ては、至當と認むる建築線申請に對しては、一二の隣接者に反對があつても、當局に於て必要と認め至當と認むる場合に於て之を指定するの權限を活用せらるべきである。大阪に於けるが如く、只一人の無意味の異議に對しても、徒に問題の起らざらんことのみ汲々として、建築

敷地の利用を阻害する弊に陥る極端なる圓滿主義も考へものであるまいか。

只本條は建築線指定の申請手續上のものであるので、條文排列上の位置がおかしいやうな氣がする。第三十條の前あたりが至當ではないかと思ふ。

第十一條及第十二條――建築線指定に基くその位置の標示方の規定でこれも誠に結構なことである。

第十三條　法第七條但書ノ規定ニ依リ指定シタル建築線ハ之ヲ告示ス

本條は第九條に指定したるもの以外に於て、又直接法第七條但書に基いて建築線を指定する場合を保留した規定であるやうにも思はれるが、又その指定の方法を『告示』と定めたやうにも思はれる。第九條では『當廳ノ指定シタル』とあるが、それは『告示』の方法に依らざるものか、少しく疑問を挿む余地があるやうだ。本條は何とか第九條と合併してその關係を明にしたい氣がする。

何故に施行令第十條第一號及第二號に基く規定を設けないのであるか。これは前面道路の幅員を元とする建築物の高の制限の除外例であり相當適用範圍の廣いもので、又當然充分緩和してよいものと思ふがこれが無いのを甚だ遺憾とする。但し東京の實情は果してその必要がないのであらうか。これも『行政官廳別段ノ定ヲ爲スコトヲ得』とあるので、豫め細則に規定すべき委任事項の一であつて、例の內規によつて個々の問題について適用せらるべきものでないからである。

第十四條　建築物ノ敷地ニシテ其ノ地盤面前面道路ヨリ高キコト二尺ヲ超ユルトキハ其ノ高ヨリ二尺ヲ減シタルモノノ二分ノ一ニ相當スル高ノ位置（道路面ヨリ測定）ヲ以テ施行令第七條ノ前面道路ノ路面ト看做ス

本條は施行令第十條第三號に基く同第七條、第八條及第九條に對する除外例の規定であるが、建築物の敷地の地盤面と前面道路の路面との高低の差著しき場合に於ける建築物の高の制限の緩和規定である、その高低の差の著しき程度を『二尺ヲ超ユルトキハ』に採つたのは、余程寬大な取扱であつて、必ずしも不可ではなからう。只『其ノ高ヨリ二尺ヲ減ジタルモノノ二分ノ一ニ相當スル高ノ位置』を押へたのは果してどうであらうか。二尺を高低の差の著しき最低限度と定めたといふ點から見て、換言すれば、二尺未滿を棄てたといふ見地の理論からであらうが『ヨリ二尺ヲ減ジタルモノ』を削除して貰いたい氣がする。但し二尺を超えたものと超えないものとの間に大なるギヤップを生ずるの欠點はあるけれども。

第十五條　建築物ノ敷地カ高低ノ差二尺ヲ超ユルニ以上ノ道路ニ接スル場合ニ於テ施行令第八條第一項ニ規定スル區域ノ外ニ在ル建築物各部分ノ高ニ關スル同第七條ノ規定ノ適用ニ付テハ制定上製限ノ緩ナル道路ヲ以テ前面道路ト看做ス

本條は施行令第十條第四號に基く建築物の高の除外例規定である、その內容は誠に充分研究されたやうであるが兎に角『制限ノ緩ナル道路ヲ以テ前面道路ト看做ス』ことは大に結構なことである。が序に『施行令第八條第一項ニ規定スル區域ノ外ニ在ル』を割愛して貰いたい。一體、法、勅令、省令、廳令が隨分繁瑣なものであるから同じ除外するなら、も少し思ひ切つて除外し『規定の簡單化』を主張する次第である。

第十六條　建築物ノ敷地ニシテ道路ノ終端ニ位スル場合ニ於テ施行令第七條及第八條ノ規定ノ適用ニ關シテハ其ノ道路幅員ノ一倍四分ノ一ニ相當スル幅員ヲ有スル道路カ敷地ノ前面ニ存在スルモノト看做ス

本條は施行令第十條第五號に基く規定であるが『一倍四分ノ一』は『一倍二分ノ一』にしても敢て不可ならかう。

■

建築物の高の最低限度――從來の警視廳令市建法施行細則が單に手續上の規定に過ぎなかつたものを、今回全部改正して、建築物實體內容に關する委任事項の規定を爲さんとするに際して、其の內に於て最も重要なる建築物の高の最低限度に關する規定を逸したのは、果して如何なる理由があるのか知らないが、誠に遺憾に堪えない點である。

一體高の最低限度の制限は、法第十一條に基く令第十一條の委任事項であつて、都市の發達に伴ひ、其の徒に平面的に膨脹し行くは都市機能の上に於て欠點損失の多大なるものがあるので、殊に商業の中心地に近づくにつれて、其の度を增すものであり、從つて高の最低限度の制限は都市の平面的膨脹を寧ろ立體的擴張に誘致すると共に、高價なる土地の利用を增進せしむるの利益あり、一面防火地區內に於ける耐火建築物の高を防火的有効に保持し、且つ幅員廣き道路の使命を完からしめ、尙ほ都市の美觀を添ふる等、種々なる方面に於て最も重要なる意義ある制限である。曩に兵庫縣令に於て之を制定し、今又大阪府令に於て近く實行せんとする機運に向つてゐる刻下に於て、帝都が之を顧慮せざるが如きは最も怪訝に堪えざる所である。況んや、東京の現狀、復興事業中の好機會に於て、而も防火地區建築補助規則（大正十三年八月內務省令第一九號）の施行に依り補助金の交付をを受くる便宜あつて他の都市に比し其の實行し易きに於てをやといはざるこをを得ないのである。

■

第十七條　建築物ノ敷地ニシテ左ノ要件ヲ具備スルモノハ施行令第十四條但書ノ規定ニ依リ角地トス

一　幅員各三間以上ノ道路ニ依リ角地ヲ爲スコト

二　敷地ノ周邊ノ三分ノ一以上前號ノ道路ニ接スルコト

本條は令第十四條に建築面積の制限をなしておるが、その但書に於て、其の除外例を設けあるに對する規定であつて、其の但書の『行政官廳特ニ指定シタル角地』とあるその指定である。それは二つの條件が定められてゐるが、其の一は第一號に於て『幅員各三間以上ノ通路ニ依リ角地ヲ爲スコト』とあつて、『幅員各三間』は極めて寬なる規定で、地主側に採つては誠に結構な次第であるが、一面道路新設に當つて、幅員三間未滿のものを成るべく三間以上たらしむる傾向を奬勵するの得點はあるが、他面地價一般に高き角地をして、利用上至便なることは勿論であるが、此の寬き制限は其の部分の地價をして屑一層高價ならしむるの結果を招來するの欠點あると共に、令第十四條本文に於ける空地制限の主旨によく副ふや否や少しく疑問なきにあらずである。

又一つの疑問は、幅員三間と三間との角地が果して、幅員十間と二間半との角地に比して空地制限上前者を後者よりも特に寬大に取扱ふべき理由があるであらうか。尙ほ角地の內角が鈍角をなしてその程度高まりて殆んど一直線に近づきたる場合に於ても第二號と併せ考慮して角地として認めて支障なきかの疑問も殘る。

次に條件の其の二は第十七條第二號に於て敷地周邊が、前號の通路に接すること、其の三分の一となせることであるが、之も寛なる制限である。

こゝに留意すべきことは警視廳令の本條の定め方の著眼點が大體に於て大阪府令の改正前の舊第七條のそれと相似たるものであつて、改正後の現行第七條と異なれる點である。警視廳當局はこの改正案制定についてまさか現行大阪府令を參考にせぬ筈はなく、又之が既に改正されてゐるのを知らぬ譯はなからう、知つて殊更に舊第七條の著想に依つたものとすれば、警視廳當局は大阪府令第七條の改正は、改善にあらずして改惡であつたことを裏書するやうにも見受けられる。

第十八條　建築物ノ敷地ニシテ其ノ周邊ノ三分ノ二以上幅員二間以上ノ道路ニ接スルモノハ施行令第十四條但書ノ規定ニ依ル其ノ他ノ地區トス

公園、廣場、河、海、用水路ノ類ハ前項ノ適用ニ付テハ之ヲ道路ト看做ス

本條は令第十四條但書後段の『其ノ他ノ地區』に於ける建築面積制限の除外例で、敷地周邊の三分の二以上が道路に接することを條件としてゐるが、前後に道路に接する敷地などの場合を考へて見ると之は又極めて嚴なる制限で、除外例の有難味が餘りに薄過ぎるやうである。しかも道路幅員は二間以上と限定されてゐるが、これは種々なる理由に基いて法第二十六條第一項の『幅員九尺』は今日に於て既に狹きに失するの嫌があつて、『幅員二間』を必要とするとの意見を有する吾人は誠に結構のことゝ双手を擧げて賛成するものである。

本條第二項が前條の角地の場合に適用されないのを遺憾とする。但し立案者の意は、令第十四條但書の『角地』は道路と道路との角地で、一方は道路で他方は河などの角地は、之に包含せざるものであるとの嚴格なる解釋によつたものと見られるが『角地其ノ他ノ地區』は必ずしも、『角地』及『其ノ他ノ地區』と二つに別けて讀まなくても、其の儘『角地其ノ他ノ地區』と一つに讀んで『其ノ他ノ地區』に適用する除外例は同樣に『角地』にも準用して敢て差閊ないと信ずる。

■

三方道路に接する地區――例へば東は幅員二間道路、北は幅員三間道路、西は幅員三間道路に接する『角地』であり又『其ノ他ノ地區』であり得る場合の敷地に關して第十九條の適用は、第十七條及第十八條を合併して見て甘く明瞭に適用されるべきかどうか、一寸疑問が起つた四方道路に接する場合も、その幅員の如何によつて、どんな結果になるのか考へて見かけたが、先がまだ〳〵遼遠なので、只疑問を存して置くに留める。

■

第十九條　前二條ノ地區ニ於ケル建築物ノ建築面積ハ敷地面積ニ對シ住居地域内ニ於テハ十分ノ八迄、住居地域外ニ於テハ十分ノ八以上ト爲スコトヲ得但シ敷地面積住居地域ニ於テ百坪、住居地域外ニ於テ百五十坪ヲ超過スル場合ハ其ノ超過部分ニ對スル建築面積ハ施行令第十四條本文ノ規定ニ依ル

本條は前二條の空地制限に關する除外例即ち『角地其ノ他ノ地區』に對する連關條項で、其の除外例の適用を受くる建築敷地は餘りに廣くては空地制限本來の主旨を全然沒却するの弊ありとして、其の但書に於て敷地面積を住居地域内では百坪迄、その他の所では百五十坪と制限したので、本條も令第十四條但書の『角地其ノ他ノ地區』の一部を構

成するものである。こゝに其の坪數の程度が果して適當なりや否やの問題が起る、住居地域内と住居地域外との間に差別を付したのは誠に結構であるが、百坪百五十坪は少しく狹小に過ぐる嫌がある。しかし角地の最低限度を、各幅員三間の道路に接する場合にまで及ぼした點から見ると却つて廣大に過ぐる樣であり、十間道路と十八間道路とに接する角地として見れば狹小に過ぐる感がある。結局道路幅員の大小をデータに入らなかつた點に於て不合理の誹を免かれない。この點から見れば大阪府令第七條の定め方が寧ろ合理的であるといふべしである。尙面積を少し位過大に定め置くも、採光面積その他の制限によつて相當空地の必要が迫られる場合が多いから敢て差閊ないと思ふ。強ていへば倉庫なぞの場合で採光面積の制限なきものもあるが、それ等は又實際上からいへば空地制限を充分緩和しても良いものに過ぎなからう。

又百坪又は百五十坪を超過した敷地に對して、其の超過部分は令第十四條の本文に依つて建築面積を地域に應じ六割乃至八割たらしめることを明瞭に規定したのは誠に結構である。しかしこれにも尙ほ『超過部分』といふ文字の解釋上多少の疑問が殘る嫌があるが、他に適當の言ひ表はし方はないものか知らと考へさせられる。

本條は但書に對する批判を先きにしたが、今本文に入る。この本文の住居地域内と其の他を區別した主旨は誠に結構ではあるが、吾人は本文の内容を削除して但書を本文に繰り上げることを主張する。何となれば、この本文の定めかたは、令第十四條但書の委任事項を超えたる規定であると思ふからである。卽ち令第十四條但書には、『此ノ限ニ在ラス』と明記してあるので、換言すれば令第十四條但書の『角地其ノ他ノ地區』には令第十四條本文は適用せずといふのであつて、從つて建築面積の制限は全然ない譯である。然るに本條本文には建築面積を住居地域内に於ては『十分ノ八迄』と制限してゐるのは實に委任範圍を超えた越權の規定不法の制限といはねばならぬ。若し立法の精神がかゝることも含んでゐたものと解するには、『此ノ限ニ在ラス』とせずして、建築面積の割合を增加することを得といふやうな言ひ表はし方とせねばならぬからである。

以上の如く法規の定め方としては不都合であるといふけれども、其の内容は却つて誠によき著想だと思ふので、令第十四條の但書の方が不備であつたと評したくなる。しかし警視廳當局者が、この方がよい定め方であるといふの理由を以てして、越權の規定、不法の制限を附することは免かれない。かゝることはよく技術に關する法規及其の取扱上に起り得る幾多の先例ある事柄ではあるが、法令はこの方がよりよいとの理由で必要を超えたる限度又は合理合法ならざる規定又は取扱をなすことは認容せらるべきものではない。若し法令に不備の點卽ち所謂『穴』があつた場合は、法令を改めざる限り其の解釋及取扱は止むを得ざるものとして看過するの外はないので、執行官が權威を以て勝手な『穴埋』を爲すが如きは純然たる不法行爲に屬する。

第二十條　汲取便所ノ窓ニハ蚊蠅ヲ防クニ足ルヘキ金網張其ノ他ノ裝置ヲ爲スヘシ

本條は施行規則第十四條第二項の委任事項に基いた規定であつて、衛生上誠に結構で進歩した制限である。只惜むらくは、汲取便所には窓の外に蚊蠅の出入すべき部分が他にもある場合が多い、例へば、敷桁の上部で棰間なぞは通風のため面戸を塞がない方がよい位で、これ

も『窓』と見るなどの解釋を下すものとすれば、それも前述の『穴埋』の曲解に陷るので、又貸家などになると入口の戸の上方が一部透いてるるのも少くないから『窓』の下に『其ノ外ノ開口空隙』といふやうな文句を挿入する必要があると思ふ。

第二十一條　井戸ノ閉鎖井戸ト爲シ其ノ構造ハ左ノ規定ニ依ルヘシ但シ衛生上支障ナシト認メ許可シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

一　導水管又ハ其ノ外管ハ内徑七寸以下ト爲シ不滲透質ノ材料ヲ以テ構成シ地盤面下十尺以上ノ深ニ達セシムルコト

二　導水管又ハ其ノ外管ノ接手ハ水ノ滲透セサル構造ト爲スコト

三　導水管又ハ其ノ外管ノ周圍ハ地盤面下十尺以上土壤ヲ以テ塡充スルコト

本條も施行規則第十四條第二項に基く井戸に關する規定であつて、大に進歩した現代的の制限である。吾人は現代の極めて幼稚な物質文明に不滿を感するもので、天災地變其の他の非常時に備えるために水道のある所でも井戸の設備を奬勵するものであるが、又夏などには物を冷しなどするに便利な場合もある。この『閉鎖式』なるものが一寸解し兼ねるのだが、その必要が果してどの程度であらうかと思はれるのである。

第二十二條　居住用階段ノ構造ハ左ノ規定ニ依ルヘシ但シ保安上支障ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

一　階段ノ上部ニ廻段ヲ設クサルコト

二　九十度ヲ超過シテ廻段ト爲ササルコト

三　廻段ノ割ヒ九十度ニ於テ段數四ヲ超過セサルコト

四　蹴上及踏面ノ寸法ハ不規則ナラサルコト

五　昇リ口降リ口ニハ適當ナル踊場ヲ設クルコト

本條は階段の細部に關する規定で、實際の取扱上常に留意せらるゝ點で、建築知識の低級な者の陷り易い欠點を補ふ有効なものである。只其の第一號の上部に廻段を設けざることは小住宅の第二階の間取上不便少からざるものがあらうと思ふと共に、果して其の制限の必要があらうか、吾人は其の削除せらるべきことを主張する。其の第三號は階段の割方で四段を超えぬやうにのことであるが階段の幅員が三尺五寸以上もあるときは五段でも差閊ないと思ふ。

又本條の基く所について一寸疑問が起る。まさか施行規則第二十五條第二項に依るのではあるまいし、第二十六條に基く地方長官の命令を一々個々の場合にしてゐては其の繁に堪えないので便宜上一括して規定としたのかも知れぬ。

■

第二十三條乃至第二十九條――省略。只其の條文の排列の順序は施行規則の順序に從つて第二十七條及第二十八條を第二十三條の前に入れて見やすく、捜し易くして欲しいものである。

■

第三十條乃至第四十三條――省略。これは手續上の規定で、從來細則で認可を受けねばならぬ範圍のものも單に届出で濟むやうになつたものがあるやうだが、その數は實際上極めて多數に上るであらう。大體特殊用途に供せざる建築物又は强度計算を要せざる種類程度のもの若しくは特殊規定に關係なきもの等、換言すれば、一般の住家、商店事務所等の木造に係るもの等は、成るべく届出で濟ませる方がよい。殊に法施行以後既に十年になん〳〵としてゐる今日、最早重要ならざる一般のものには餘り親切すぎる世話はやかぬ方針に漸次改むべきで

ある。申請及認可の民間及官廳の書類上の手數は成るべく之を省略して、其の努力と時間との餘裕は寧ろ建築の現場に注ぐことが緊要にして又賢明なる行き方である。書類調査は豫行準備の手段に過ぎないもので、建築の現場が實體であることを忘れてはならぬ。

■

第四十四條乃至第五十條――省略。これは工事用機械に關する規定で、漸次大建築に伴ふ機械力の應用の盛なる今日、誠に必要なる規定といはねばならぬ。其の詳細については今論評するの餘裕がない。

■

第五十一條乃至第六十一條――省略。建築工事中の種々なる注意すべき事項の規定と、其の他の手續上の規定で、之も割愛する。

■

第六十二條　他ノ法令ニ依リ警視總監ノ許可又ハ認可ヲ受クルヲ要スル建築物ニシテ法、施行令又ハ施行規則ノ規定ニ依ル建築ノ許可又ハ認可ヲ受クムトスルモノニ在リテハ其ノ法令ニ依ル願書ニ第三十一條第一項各號ノ事項ヲ併セ具スヘシ

前項ノ願出ニ對スル許可又ハ認可ヲ爲シタルトキハ併セテ法、施行令又ハ施行規則ノ規定ニ依ル建築ノ許可又ハ認可ヲ爲シタルモノト看做ス

本條は手續上の規定で、市街地建築物法に基く手續と、他の法令に基く手續とを別々にせずして一括して願書に併記せしめんとするのであるが、他の法令を主體とし、市街地建築物を從屬とするといふことを明瞭にしたものである。本條は現行細則第十九條の改正であるが、實に天地轉倒の大改惡であると高唱せざるを得ない。今現行細則第十九條を左に擧げる。

第十九條　他ノ法令ニ依リ警視總監ノ許可又ハ認可ヲ受クルヲ要スル建築物ニ在リテハ第八條第一項ノ規定ニ依ルノ外其ノ法令ニ依ル特殊ノ　項及圖書ヲ具シ之ヲ一括シテ申請スヘシ

前項ノ規定ニ依ル申請ハ本令及他ノ法令ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

卽ち從來は市街地建築物法に基く申請書中に他の法令に基く願書を併記せしめた。換言すれば市街地建築物法が主體にして、他の法令は從屬的であつたのである。之が今回主客轉倒せんとするのであつて、東か西になり、南か北になる程の大變革である。

建築主の方からいはしむれば、これはどうでも宜いことではあるが從來建築課の設置以降、保安課、衛生課及工場課との間に於ける警視廳内の各課權限爭ひの結果が今日に至つて、明確に建築課の負と軍配扇が上がつた次第である。初代建築課長竹内六藏君の時代に定められたことが、第二代の課長野田俊彦君の惡戰苦闘の維持も其の甲斐なく今の第三代課長に至つて白旗を擧ぐるに至つた。警視廳建築課の鼎の輕重を問はれた譯である。

警視廳内に於ける各課の權限爭がどうならうと必ずしも大事ではない。しかし技術官が常に事務官の下風に立ち、其の壓迫を受くることは實に遺憾の極である。之を大にしては我國の進展上、科學を基礎とすべき刻下及將來に於て、技術を主體とすべき事項に關して、徒に庶務を偏重する舊來の惡傾向に對しては、技術者の斷乎として排斥すべき自覺と確信とを必要とする所以を唱道するものである。

法理的に見ても、他の法令中には一二法律に屬するものもないではないが、それは市街地建築物法と對等である。其の他の大多數のものは總て一警視總監の警察命令に過ぎないのである。法律が一警察命令

の從屬的地位に立つことは實に不合理である。

内容的に見て、實質上技術主體にして又其の關係條項の極めて多數複雜なるものが、一二數條の事務的事項あるが爲めに、其の從屬的地位に立つことは不合理である。

形式的に見て市街地建築物法に於ては認可といふ。他の法令に於ては許可とある場合あつて、認可は許可に包含さるべしといふが如き議論を爲すものもあるが、許可も認可も効果に於て果してどれだけの差違があるか。只文字上の相違にすぎない場合が多い。しかも許可と認可の區別は必ずしも明確でないといふ論者もある今日に於てをやである。

しかしながら廳内各課の權限爭ひが民間建築主にとつては時に甚だしき迷惑を被らしむる場合が多々あることを耳にし又目にもすることは蔽はれない事實である。これをしも何時までもその儘に放置することは、又實に宜しくないことで、速に劃然として明確に區別すべきである。その區別することに敢て異論を唱へるものではない。只其の本義に於て技術主體のものを從屬的立場に置くことに反對するものである。

劃然として明確に區別するの方法に至つては別に策がある。即ち例ば劇場の建築に於ては、最初劇場の計畫の大綱を具して其の位置に於て許可すべきや否やを審査し得るだけの簡單なる事項を具して出願せしめる。之は保安課の主管事務として、之に許可を與ふることを第一段とする。それには詳細の建築設計を附することを要しないことにする。次に第二段として、許可せられたる劇場の建築認可を、詳細の設計圖書事項を具して申請せしめる。之は建築課の主管事務とする。此の例は鐵道敷設の許可と工事認可との二段方法、電氣事業の許可と工事認可との二段方法など他には既にいくらも現に行はれてゐることである。果して許可になるやらならぬやら判らぬ劇場の出願に最初から詳細なる設計圖書を具備せしむることは、不許可の場合に無駄の骨頂であつて、官民共に勞力と時間と費用とに於て國家的にも莫大なる損失であるといはねばならぬ。一例として劇場といつたが、他皆之に類することである。劇場新設の許否を査定するためには必ずしも面倒な資料を要する譯ではない。聞く所に依れば現に兵庫縣の如きは上述の如き方針が行はれて、地方長官の内部的決裁のものに許否を定め、その許可せるべきものに對して建築認可を申請せしめてゐる所もある次第である。

時正に晩秋、梧桐一葉落ちて天下の秋を知る。都市計畫の遲々として進まざるの今日、技術家の無力、建築課の敗北、市街地建築法の影うたゝ薄きに惡感を催す。果して誰の罪？

■

警視廳令市街地建築物法施行細則の改正に際して、明治三十七年八月以降二十有餘年建築法規研究を天職として使命として來れる吾人、充分なる調査研鑽を遂げて詳細なる意見を述べ參考に資せんことを切望するものであるが、如何せん借すに時日なし。巧遲は拙速に如かずとか、期を失せんことを恐れ、僅に通覽して所感の一端を記すに過ぎないのを遺憾とする。

其の改正案にして確定發布せられたるの曉、之を好個の資料として改めて我大阪府令細則の比較批判をものせんことを樂しみとして茲に擱筆する。（了）

道路の耐久力に就て

大阪市立工業試驗所技師　小山九市

左の一編は小山氏が昭和三年十月十四日於大阪中央公會堂工業化學會、近畿工業化學會主催通俗化學講演會席上に於ける講演の概要なり、氏の斯の種の研究は世既に定評あり。幸ひこの稿を寄らる、得る所多きを信ず。

大正八年我國都市計畫法が發布されて以來都市は改造に目覺めて來ました。先づ第一着に來るものは道路であります、道路の種類は澤山ありますが大正十一年頃から各都市は愈々本氣になつてアスファルト道路を鋪設したのであります。

このアスファルト道を我國でよく消化し得るや否やは甚だ重大なことでありまして、若し我國でも成効したなれば其利益は甚大なるものがある、つまりアスファルト道路は一般道路特に都市の道路として必然缺ぐべからざる長所を持つて居るからであります。

果せるかな鋪裝當初の結果は甚だ不良であります。各都市が皆困つたのであります。當時本所の研究の結果として大凡次の三項を云ひ得るのであります。

一、路體を形成する砂に水分があつたこと。

二、路體を水密ならしむる手段に乏しかつたこと。

三、プラント作業の熱の調整を誤まつたこと。

事等であります。附けたりとして外國からの宣傳が餘り利き過ぎた事等をも擧げなければなりませぬ。

何分にもアスファルト道の構築技術は外國殊に米國から傳はつたのですから大正十二三年頃から自己のアスファルトや道路機械を賣らぬが爲に技術者が澤山我國に參りました、本にも色々のことが書いてあります、仲々宣傳が上手であります、其商品を使つた我國都市の道路は彼等の言明する通りの耐久力を顯はしてくれない。

プラントでは米國の機械や商品を用ひて米國の型錄の示す通りのミクスチューアを出すに何等の不思議はないのであります、然し爰に重大なる失敗の原因があつたのであります。

つまり我國で使ふ特殊の粒度を要するアスファルトの砂なるものは當時は川の中から引き上げて來たそのまゝのものであつて乾燥機に入れられる迄に米國の砂よりも遙かに多く水分が含まれて居つたのであります、この材料を以てしてアスファルトと混合する時充分密着し得るでしやうか、機械を賣り込むのはよいがも少しこれらの點につき注意が欲かつたのであります、否彼等には氣が附かなつたであります、氣が附いたことを丈けを精々丁寧に教へてくれたのでしやう寔に止むを得ない次第でありました。

それで砂を二度乾燥しました結果は如何でしやう、その耐久力は見

違へる程立派になつたのであります、この事は甚だ些細なやうなことですが我國道路技術の向上に重大なる好結果を與へたのであります。それで本を見るに皮肉にもプラントの諸操作の中に只單に砂を乾燥せよ、ドライせよと書いてあるばかりでありますがこのドライの意味は水分〇%と解釋せねばならぬのであります、中學一二年の試驗問題のやうなことでも化學者は斯く眞面目に取扱はなくてはならぬと思ひます。

この問題が解決されますと第二第三の問題は直ちに解決かつくのであります。即ち路體を水密ならしむ爲めにビチユーメンとフイラーの量を增すこと、是は當時の一三―一五%から現今は一八―二〇迄に增してきました、又ビチユーメンは當時の一〇乃至一一より現今は一%位增加して參りました、熱の調節を過らざる爲めにはオーバーヒートせないやうにウオッチする裝置を施せばよいのであります。

要するに道路の耐久力は土地の狀況によつて異ふのであるから、外國を參考として我國に於て新形式の道路が生れるのは當然のことであります。

アスファルト道路は何故に耐久力があるかを述べるにはそれと反對に破壞の經路を述べなければなりませぬ、プラント作業が完全であり現場の作業がそれに適切であればさう破壞するものでない、只交通や風土によつて自然的に破壞されるのは水だとか、塵埃だとかで物理的に其分子の締合を解く時に限るのであります、然し爰に便利なことにはアスファルトは交通によつて徐々に輾壓されて道が締つてくるのであります、又長年月のハイドロカーボンの酸化によつて表面は胞化しましやうが本所の研究の結果によれば五六年經つた路體を分折して見てもさうビチユーメン量は減小して居らない、さすればこれも餘り恐るるに足らない、その內夏になると軟化してビチユーメンが下から上つて來る、則ち締合の滋養分が上つて來て表面の胞化によつて失はれたビチユーメン量を補つてくれる、而して交通によつて輾壓される、益々丈夫になつてくれる。

恁ふいふ經過を辿りますから其設計當初に意を用ひたなれば相當長年月の荷重に耐へられるといふ見當がついたのであります、事實本市の例につきましても六七年たつてまだ一回も修理しない立派なものが澤山あります。

只一つシートアスファルト道に特有の困つたことがあります、即ち路面のウエーブ即ち波狀變形であります、これには種々なる原因がありますが路體の剛度、ビチユーメン含有量、氣溫等に關係があることでありまして我國の如き雨國では水密性にする爲めにはビチユーメンを增すとウエーブする機會を多からしめ減少すれば水密性にならぬといふことになります。恁ふいふ事情の爲めに將來の道路はウアーレナイビチユリシツクのやうにアスファルト混凝土の形として石と石との抱き合ひに上部の荷重を持たしめ表面をアスファルトモルタルにして水密性ならしむるやうな工夫が益々發達しやすまいかと思はれるのであります。

有名なるトリニダツトアスファルトも本所に於て種々研究しましたが結局する處乾燥國には向くでしやうが我國の如く雨國に於てはその含有するコロイダルクレーの媒介に依つて水が內部に迄浸入しますからこれに成効するには現今以外の特殊工法に依らなければならぬかと思はれるのであります。

次に木煉瓦道でありますがこれに先き立ち本所で設計築造しました道路試驗機械のことを一寸紹介したいのであります。

一口に云へば一本の中心棒に八本の蝙蝠傘の柄のやうなものが出來て居つて其先に各々一ケの車輪がついて居ります、スイツチを入れると車輪の際のモートルが動いて車輪を回轉せしめその車輪の直下に鋪設してある路面との抵抗に依つて車輪は廻り乍ら中心棒を軸として八個の車輪が毎時五、五哩のスピートで一齊回轉をなすのであります、この車輪の重さが解つて居りますから道路に與へた交通荷重が解つて來ます、それで試驗前後の路面の高さを測定すればその交通量に對する磨滅度が測定し得られますから豫めその單位荷重に對する磨滅度を算定しておいて一方實際の道路の交通量を測定したなれば爰に始めてその道路の耐久力の概數が得られるのであります。

本機械の數字的性能を申し上げるなれば爰に一五間巾一日四千噸の交通荷重の道路がある時本機械を僅かに一時間廻した時の磨滅度は其の一年乃至二年の磨滅度に相當してくる仕組になつて居ります。

本所は本機械によつて過去數年間に約六十種の道路について試驗したのでありますが、特に最後の結果として耐久力の一例を申し上げると次のやうな事になります。

(一)木煉瓦道

交通荷重有効路幅一呎につき六八三〇一米噸に對し其磨滅度は八分の一吋內外、この割合を前記十五間巾一日四千噸荷重の道路に充て嵌めるなれば其路體の七吋を磨滅し盡す迄に約二十四年を要す。

(二)煉瓦道

同樣の結果を基礎として約二十八年

(三)セメント道

これは試驗の當初は其成績非常に悪く約七年でありましたが其後數回施工に改良を加へて試驗しました結果前と同一條件で理論上の最長三〇年の結果を得ました、其經過につきましては私は來十八日より開かれる丸の內鐵道協會で日本セメント同業技術會の席上で發表する事になつて居りますから其記錄を讀んで戴き度い、爰では省略しますが其內(一)骨材として砂利を用ひて居る以上は決して耐久力のある道路は得られない。(二)骨材に花崗岩を使つたセメント道路は鐵輪に對して決して恐るるに足らない。(三)セメント道路の破壞は老化による磨滅よりも龜裂によつて大部分破壞されるといふ事になる、龜裂はセメント道路破壞の大敵であるといふ實績等が集つて居ります。

以上は大體本所の結果による道路の命數でありますが實際の耐久力とは大いに開きがあるかもわからぬ、又一致することもありましやう、其等原因として

(一)本所の試驗路面は巾僅かに約二呎であつて實際の道路と大いに趣きを異にする、巾大になれば工法が至難になる。

(二)本機交通荷重は大部分がローリングアクション實際の場合の如く複雜なるニーディングアクションが起らぬこと。

等を考へ得るのであるが反對に實際の都市道路で本機の如く鐵輪の車が毎時五、五哩を走るといふ事は殆んどあり得ませぬから此點寧ろ確實性否大なる安全係數を與へて居ると見て差支ないのであります。

如斯我國の道路は初期の受難時代をこつくに經過して爰三四年來か

ら漸次良好なる結論に近づきつつあることは亞米利加が現今のアスファルト道を持つ迄に慘憺たる三十年の苦き經驗を嘗めたに比し貧乏國たる日本にとりて誠に幸福と云はなくてはならぬと共に理論上の耐久力通りになるやうに實際の道を改良して行く所に化學者としての分野が定まり通路化學のミステリーがあるのであります。

將來の道路は普通一般として最も構築し易いものを撰ぶなればセメント及アスファルトの如き一枚版の道路にしなければならぬ、これは道路として煉瓦木煉瓦と違つた特異な性質を備へて居ります、我國のアスファルト産額は尤も原油から採るのですが年額一萬五千噸内外で將來擴張を加ふなれば裕に五萬噸を採り得るでしやう、其他セメントの産額も豊富であります、煉瓦も現今の生産は微々たるものですが將來需要を增せば生産は易々たることであります、其他花崗岩にしても無盡藏で凡ての點に於て我國は天與の道路材料國であります。

此間に立ちて化學者として材料の性質を考へそのバストユーズに進んだなれば各道路は相當の耐久力を發揮し我國の道路技術を向上せしむるものなるを信ずるものであります。否廉くあつてしかも決して外國品に劣らない道路を持つ日の來るのも決して遠くはなからうと信ずるものであります。以上本所の研究の結果から推して各種道路の耐久力を述べた次第であります。

（をはり）

表紙圖案懸賞募集

題號　『建築材料』堀内商會商報　第四號　昭和四年二月』の文字を適當に配列のこと。

意匠　隨意なるも本商報の特質を表現するに足るもの。

寸法　四六倍版（竪八寸六分、横六寸二分）

着色　三度刷以内（紙色の外）

圖面　原圖紙を用ひ現寸とす。

氏名　住所御氏名は別紙に認め同封のこと。

届所　臺北市京町二丁目　堀内商會。

期日　本年十二月二十日　受附締切。

審査　審査員

總督府技師　井手　薫氏
同　栗山俊一氏
陸軍技師　淺井新一氏
臺灣土地建物株式會社技師　鈴置良一氏

賞金　一等　一名　金五拾圓　二等　二名　金貳拾圓
三等　三名　金拾圓　等外佳作數名薄謝

發表　昭和四年二月一日（商報第四號にて）

版權　當選せる圖案の版權は當商會の所有とし、應募したる圖案は返戻せず。

以上



結核治療上より見たる建築觀

醫學博士　遠藤繁清

大氣療法

大氣療法の必要なことは、今日何人も反對する者はない樣になつたが、而し反對はしないが實行もせぬ程度の人はまだ相當ある樣に見受けるから、お互に其普及に就て益々努力せねばならぬと思ふ。

自分が結核に罹つたのは明治四十四年で一旦治癒して再發したのが大正四年であるが、其當時まだ安靜療法や大氣療法に就て確信がなく、初めの二年許りは輕症でありながら經過が惡く、いつも一進一退であつた、其中家に重病人が出來たりした騷ぎで大正六年の春から夏にかけては非常に惡くなつて了つたのであるが、夫までの二年間に於て種々失敗の經驗から、又『リテラツール』からの智識で、安靜大氣療法がどうしても善いと云ふ考になり、段々其方針を取ることにして居つた矢先に、以前註文して置いた米國の療養教科書が屆いたので之を讀んで見ると患者に適切のことばかり書いてあるので非常に爲になり、寒さを恐れずに大氣療法を勵行せねばならないと決心する樣になつたのである。

其本はDr. *Lawrason Brown* の Rules for Recovery from Pulmonary Tubercu-losis である、ブラウンはサラナックレークのトルウドウ療養所の現醫長である。

私は此本によつて療養法に對する方針が始めて立つた位に考へて感謝して居るのである。

當時自分は北海道の小樽に居たので、其冬を小樽が過ごすか、內地の湘南地方へ轉地するかと云ふことはかなり心配の問題であつたが、此の『ドクター』ブラウンの本を讀んで、サラナックレークの寒中、零下二十度、三十度の夜でも『ポーチ』に寢かすと云ふことを知り、又其實際的の注意を知つた時、自分は非常に力强く感じ、小樽で冬を越すことに何等不安を感ぜぬばかりでなく、善い『フェルヅッフ』をする時期が來た樣に考へ、內地へは轉地せず斷然小樽で冬を越して療養することに決心したのである。

然し『サラナックレーク』の通りに行ふ事が出來るかどうかは勿論疑問であつた、而しヒンスデールがサラナックレークの氣候のことを書いたのを見ると、零下三十度位まで下り、雲霧、雪などかなり多いと云ふから、小樽の冬はさほど恐るるには足らないであらう、兎に角どの程度まで大氣療法が實行出來るか、やれる丈けやつて見ることにした。



そこで書間は出來る丈け戸外に居た、庭に輕便の寢椅子を出して寢たのである。十一月初旬舊天長節頃になると雪がちらちら降り出すが、其頃まで庭で暮らした、夜は屋内へ入つたが障子なぞ出來る丈け外づして火鉢や『ストーブ』は用ひぬことにした、いよいよ冬になると、戸の隙間からでも雪が吹込むので、お分の開放は出來ないが、廊下外の硝子障子丈け閉ぢて、内側の障子はあけて置く樣にした、決して溫暖主義は取らなかつた、室温は屢々零下十度内外になつて居た、此年が一番症狀の重い時であつたに關はらず、此冬が一番成績がよく、翌年大正七年の七月、八月にはもう北海道中を四週間に亘つて旅行することが出來る樣になり、健康に對する確信も大分出來たので、其秋茅ケ崎へ來て、露國赤十字茅ケ崎療養所と云ふ小さな『サナトリウム』の『ママゴト』の樣なものを預かり、大正九年東京市療養所の開所當時まで其所で結核患者の御守りをする樣になつたのである。自分は今年の秋歐洲へ行き、來春米國へ廻はるからサラナックレークの『ドクター』ブラウンを訪ね、自分の恩人としての御禮を云ひたいと考へて居る。

大氣療法の實際

大氣療法を一言にして申せば、成るべく戸外新鮮の空氣の中で暮らせ、夫が出來なければ成るべく充分開放した室で暮らせ、空氣は寒くとも新鮮であることがよいと云ふ主義であるが、大氣療法は如何なる點で効果があるかと云ふに、

イ、解熱を促す、溫暖閉鎖主義の患者で七度二、三分の微熱がどうしても去らぬ樣な場合には、大氣療法に變へることによつて、『ブロンブト』に解熱する實例が澤山ある。

ロ、盜汗を減ず、盜汗は從來結核患者には附物の樣に考へられて居たものだが之はむしろ溫暖閉鎖主義の附物であつて開放主義の患者には極めて稀であり、輕微である。從て溫暖閉鎖主義から開放主義に改めると何等制汗劑なしに苦もなく盜汗の止むことを屢々實見して居る。小林正男君が療養所で之を數字的に立證した統計を御目にかけるが入院と云ふことによつて病狀が一時增惡する患者も混じて居るにもかゝわらず、大部分の患者が十日以内に盜汗の減少又は消失を示して居る。即ち

入所の前夜まで盜汗ありし患者二三四名

入所後十日間内に於ける變化

減少又は消失　一四六名（六二、四%）

不變　七四名（三一、六%）

增加　一四名（　六%）

ハ、食慾が昂進する、之れも顯著なる事實で、實驗して見れば想像以上なることが分かる。

ニ、精神を爽快にする、之も多言を要せぬ。

ホ、日光に親み易くなる。從て日光による種々の利益を得る

ヘ、皮膚を强固にし感冒の豫防となる。

從來は結核患者と云へば、皮膚が弱く風を引き易いものと思はれたものであるが、之は大體溫暖閉鎖主義の產物と云ふてよからうと思はれる、結核患者でも大氣療法を勵行し輕快しつゝある樣な患者は、非常に皮膚が强固で



普通の人を驚かすことがよくある、全快後職業に就き洋服などを着出すと却て皮膚は弱くなる。自分などもさうである。

大氣療法の有効なる理由

イ、閉鎖した室の空氣は戸外の空氣或は開放した室の空氣に比して其成分が非常に劣ることは云ふまでもない、炭酸瓦斯の量丈けに就て考へても著しく悪い、日本室は比較的換氣が良好であるが夫でも開放と閉鎖では大差がある伊丹、田村兩博士の報告によると障子を閉した六疊間に一人居るときは左程でもないが、二人以上になると確かに害がある。

即ち六疊間に二人居て一間時以上になると炭酸瓦斯量は健康範圍の『マキシマム』と云はれる一、〇%を越えてしまふ、三人で一時間居ると其室の炭酸瓦斯は一、九%に達する又六疊室に火鉢を入れると三十分にして炭酸瓦斯が二、五%以上になつた。炭酸瓦斯以上に有害な亞酸化炭素等も含まれることは勿論である、又斯かる場合其室内には一種の悪臭が充ちる、處で世間の患者を見ると、六疊間に患者と看病人即ち人が二人居り、其上に火鉢など入れて居るのは珍らしくないから、閉鎖主義では有害なることと明かである、普通の障子を用ひた比較的換氣のよい日本間ですらそうであるから、近頃の所謂文化住宅では周圍の大部分が壁で、硝子窓を付け、欄間の設備のない家が多いが、斯の如き室で溫暖閉鎖主義を取るに於ては其害愈々甚しい、然るに開放的の大氣療法に於ては、之等の害が全く除かれるのである。

ロ、以上は空氣の成分に關する弊害であるが、閉鎖した室の空氣が有害なる理由は單に成分の問題だけでなく、空氣の物理的性狀が更に深い關係を持つて居る、即ち人間が閉ちた室の中に居ると

(a)室内の空氣は漸次溫度を增す。

(b)漸次濕度を增す。

(c)閉鎖した室の空氣は殆んど流動せぬ。

即ち閉鎖主義の患者は濕度の高い動かない生ぬるい、むかむかする樣な空氣に包まれて居る事になる、斯樣な狀態にある空氣はよしんば其炭酸瓦斯等の關係では害のない成分でも、物理的に有害である。閉鎖した溫暖の空氣中に居つた爲に受ける障碍は丁度群衆の中で卒倒する場合と大體同じと思ふが、之は群衆毒(Croud poison)なるものが發生する爲めと考へられたこともあるが、特別の毒が出るかどうか確定して居らぬ、然し前述の樣な物理的の弊害だけでも說明は出來さうに思へる。

〇身邊の空氣が溫く而も動かぬときは體溫の放散が出來ぬ。

〇又比濕が高い爲に水分の蒸發が妨げられ、蒸發による體溫の發散が困難となる、結核患者は體溫の調節機能が悪く冷血動物に近い狀態にある爲に、蒸暑い處で體溫が昇り易いことは既に周知の事實である。

〇又皮膚が常に變化のない溫い空氣に包まれて少しも寒冷刺



戟を受けぬと、神經も筋肉も緊張を失つて精神も懶くなる

○寒冷刺戟を受けぬと新陳代謝が鈍くなる、人類では周圍の溫度が低くなると新陳代謝が高まる、從て寒冷刺戟を受けると食慾が高まる、實際、溫暖閉鎖主義から開放主義に移つたとき食慾の昂進はかなり顯著である。

○身邊の空氣がいつも生溫い場合には皮膚が漸次軟弱になり血管運動神經乃至血管壁の筋肉が遲鈍となり感冒にかゝり易くなり愈々以て大氣や日光には親めなくなる、從て斯る患者は皮膚軟弱、蒼白である、之に反して大氣生活の患者は慨して皮膚强固にして血色が善い。

○閉鎖した室の有害なことに就ての實驗がある。

幾人かの健康者が密閉した小さい室に入り居る、酸素の%が急に減じ、炭酸瓦斯が著しく增す、中の人々は漸々不愉快となり話することもいやになる、そのとき室內に取り付けてある扇風器を動かすと其空氣の成分は變らないのに氣分は非常に恢復する。

此關係は集會所とか劇場等でも常に經驗する所である、今此席も斯の如く蒸し暑くて不愉快であるが、扇風器を廻轉して空氣を動かせば、同じ成分の空氣でもすぐに心身爽快となる。

此實驗に於て室內で氣分の惡くなつた人々が、其室中に居る儘で外部の新鮮空氣を管を通じて吸入しても氣分が恢復せぬ、之に反し外部の人々が此室內の空氣を管を通じて吸入しても何等の病狀を起さぬ。

即ち此密閉した室內で健康を害する主なる理由は其化學的成分が惡いことでなく、寧、空氣の溫度と濕度が高く氣流がないと云ふ物的狀態に大關係あることが明かである。此事に就てJames は、Many atomospheres are good enough to be breathed which are not good enough to be lived in.(其內に住み得ない樣な空氣でも呼吸するにはまた結構だ)と云つて居るが一寸面白い云ひ廻しだと思ふ。

此『空氣の善惡は其化學的成分よりは物理的性狀の如何にあり』と云ふことを知つて居る以上、混暖閉鎖主義など到底贊成出來る筈がないのに今日でも猶溫暖閉鎖療法の信者が跡を絶たないのは不思議であり、且又遺憾に堪えぬ次第である

或程度の空氣の運動を缺くべからざるものである、夫故普通の室より『ポーチ』がよく『ポーチ』よりも屋上がよく、一階よりも二階がよいと云はれ輕症者は『ポーチ』に居るよりも船の『デッキ』に居る方がよいとか、幌なし自動車で靜かに走るのがよいと云はれる程である。

風に當ることは從來非常に厭はれたのであるが、之は慣れると隨分よく堪えられ、患者自身微風に吹かれ居るを喜ぶ樣になる、之は自分自身も經驗した所であるが、茅ケ崎で自分が扱つた患者も大部分は松林の中に椅子を置いて之に臥し、かなりの風の日でも喜んで外に居た、其後に扱つた患者でも同樣である。然し塵埃が立つ樣な風や、呼吸が幾分でも妨げられる程度の風の有害なことは勿論である。

開放療法に就て當然起る問題は寒い時に開放してよいかど



うかり云ふこゝろであるが、冬でも開放主義がよく、勿論其程度には斟酌があるけれども東京位の寒さでは無論何等暖房裝置なくして開放療法を行つて差支ない、例くば東京市療養所では寒中と雖も一日中の大部分の時間は暖房せすに開放し寒い室である、寒中の早朝は零下五度或は六度になる室を溫めるのは午前中診察のとき風を引かせぬ爲ゝ夕食の前後慰安的に一寸溫めるに過ぎない、病室や廊下があまり寒いゝ自身に便所く通ふ患者にはつらい、常に就床せる患者で總ての用事を看護人にしてもらくる者に取つては室の寒いこゝろは少しも苦痛でない、故に寒い季節に戶外又は「ポーチ」等で靜臥する場合にはよく世話する人がなくてはいけない。

從來世人の考へた處では結核患者には冬が一番惡いものゝ思はれて居た樣であるが、之は誤解であつたので、統計表によるゝ一年中で冬が最も結核死亡率の低い時で、一月、二月、十一月、十二月は死亡者が少い。

臨牀的にも患者の經過は春から惡くなり始め夏が一番惡く秋に善い方に向ひ冬にかけて最もよい、發病も再發も春から夏にかけて起る者が多い樣に思はれる。

今、月別結核死亡數に關する統計表を數種御參考に供するゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。

○十箇年平均

(自大正五年至大正十四年)

全國月別結核死亡數

	肺結核	全結核		肺結核	全結核
一月	6,995	9,425	七月	7,498	11,046
二月	6,634	9,182	八月	7,533	11,434
三月	7,493	10,385	九月	7.264	10,903
四月	7,296	10,293	十月	7,390	10,770
五月	7,616	10,766	十一月	6,584	9,499
六月	7,180	10,337	十二月	6,654	9,401

○三箇年平均(自大正十三年至大正十五年)

東京市月別結核死亡數

	肺結核	全結核		肺結核	全結核
一月	299	384	七月	293	425
二月	250	354	八月	285	426
三月	270	387	九月	300	449
四月	246	362	十月	325	452
五月	278	376	十一月	277	391
六月	273	392	十二月	279	378

○三箇年平均(自大正十二年至大正十四年)

京都全結核死亡數

一月	127	五月	162	九月	169
二月	114	六月	147	十月	171
三月	144	七月	164	十一月	152
四月	133	八月	173	十二月	136

○五箇年平均(自大正十一年至大正十五年)

北海道結核死亡數

	肺結核	全結核		肺結核	全結核
一月	237	356	七月	290	446
二月	249	353	八月	284	457
三月	271	416	九月	255	408
四月	280	419	十月	266	390
五月	311	466	十一月	208	317
六月	297	439	十二月	206	314



○東京市療養所患者月別死亡數

	實數	當該月在所患者數ニ對スル%
一月	63	7.5
二月	63	7.4
三月	81	9.4
大正四年	78	9.0
五月	72	8.4
六月	72	8.6
七月	88	10.2
八月	70	8.3
九月	81	8.3
十月	91	9.7
十一月	82	9.0
十二月	65	7.2
一月	54	6.1
二月	60	6.6
三月	78	8.6
昭和五年	82	9.0
四月	73	8.0
五月	74	8.1
六月	75	8.2
七月	81	9.0
八月	54	6.0
九月	64	6.9
十月	56	6.3
十一月	63	7.1
十二月		

斯くの如く日本全國でも各地方でも又肺結核のみでも全結核でもその死亡率は一年中冬が最も低いのである。

殊に面白いことは北海道の結核死亡數さへ冬の方が少いことである。

寒冷季節の有益なる利益

第一、寒冷其物が結核患者に利益

一面から考へると、寒冷季節には室を温かにする患者も澤山ある、其温暖の室に居ることが有益で冬の死亡率が低いのではないかと云ふ考へ方もあるだらうが、東京市療養所の様に室を特に温暖にせず、寒中の夜から朝にかけては零下五度六度にもなる様なやり方でも冬の成績がよく、外國に於て冬季の開放療法を徹底的に行ふ處に於ても冬の方が善いことや自分が北海道の寒中も室内に火の氣を入れず、枕頭の水の凍る程で、而かも毎朝凍つた『タウル』で冷水摩擦も行つた様なやり方で非常に工合善く、意外の好成績を見たことなどに照しても、冬が療養に適するのは寒冷其物が有益であると考へさせられるのである。

寒冷刺戟によつて新陳代謝が盛になり、諸細胞の機能が活潑になるから、善いのであらう。昔から天高く馬肥ゆると云ひ、馬でも人間でも秋の涼風と共に食慾が昂進し精神は緊張し體力が充實して來る。結核患者も秋から冬に著しく輕快に向つて來る、從て此影響は體重にも表はれる。

ボッテンジヤーばカリフオルニア南部で二十年間結核に對する季節的影響を注意したが其結論に曰く、溫暖の季節よりは、寒冷の季節の方が患者の體重が增加する、夫は寒冷の空氣が旺盛なる新陳代謝を要求することと、冬季に自然の必要上脂肪の蓄積が增加する爲であると云ふ。

そしてボッテンジヤーは、此寒冷の季節に於て、より多く體重を增すと云ふ事實は、カリフオルニアよりもつと寒い東部或は北部の州に於ても、同樣だと云つて居る。

實際北米の東北部にあるトルウドウ療養所に於て一二〇〇名の患者に就て觀察して結果としてブラウンの書いたのを見ると、患者の體重は多くは八月に增し始め『クリスマス』までは增す、夫から次の年の『イースター』までは增減なしか或は少し減る、『イースター』から八月までは絶えず體重が減る、サラナツクレーク邊では、八月と九月の初めが一番氣溫



の變化が多く日差の強い季節であるとブラウンは書いて居る又此體量の『カーブ』は、健康者の體重曲線と一致するやうだと云つて居る。

日本に於ける健康者の體重の消長も略同樣で、秋から增し始め冬から初春にかけて增し、春から夏にかけて減ずる。

結核患者に就て東京市療養所で鈴木君が調べた處でも大體同樣で、春から夏は體重が減ずる、佐々君の調査も大體同樣である。（表を略す）

又寒冷刺戟が結核患者によい事實として著しいのは盜汗の關係であるが、盜汗のある患者に就て觀察すると、同一生活法、同一病狀の下に於ては、氣溫と濕度が高い程發汗し易い寒ければ發汗の減ずることは云ふまでもない。

盜汗の理論に就ては種々の說がある樣であるが『交感神經』の緊張が乏しく『迷走神經』の緊張が比較的高い爲と云ふ見方が有力である、夫に炭酸瓦斯の蓄積も幾分は影響するであらう。

開放主義の生活では閉鎖主義の時に比し炭酸瓦斯の蓄積は少くなる道理であると同時に、新鮮の空氣が動いて來て身邊に觸れ濕氣を持ち去る爲に、『ペルスピラチオインセンシビリス』を促し、又寒冷刺戟によつて皮膚の血管緊張を高めて發汗が制限される。

斯樣に考へると、新鮮空氣の中に暮らす爲めには寒さも忍ぶ分がよいと云ふことは勿論云へるが、更に一步を進めて寒冷な新鮮空氣の方がよいのであると云つても誤りでなささうに思へる。

秋と冬の氣候が健康によい事は、氣溫の低いこと以外に空氣が乾燥して居ることも無論有益である、氣候として最も惡いのが溫暖にして且つ濕潤なる氣候であるとは定論になつて居る。

第二、寒冷季節には安靜を守り易き事

寒冷の季節が結核患者の經過に對して良好である理由の一は前述の通り寒冷或は乾燥其物が善いのだと思ふが、其外にも一つ考ふべきことは、冬季には安靜を守り易い、或は安靜を餘儀なくされると云ふ點が或程度まで好影響を與ふるものであらうと思はれる。

冬の間無熱で經過のよかつた患者が春が來て花笑ひ鳥歌ふと云ふ頃に又發熱を見ることがある、之は急に溫暖になつたりした時に、只氣溫の上昇の爲のみで起ることもあるが、暖かになつた爲に久しぶりで外へ出て散步したり遊戲をしたり草花の種蒔をしたりする爲即ち安靜を破つた爲めと明かに斷定出來る樣な實例も度々見うけるのであるから、冬中患者の經過のよいのは、一つは安靜を取り易い爲もあるだらうと推定することが出來る。

序ながら一言するが、結核患者の經過は季節に左右されることが斯の如く著しいのであるから、何か治療劑の効果を批判する場合、此關係を愼重に考慮せねばならぬ、即ち秋の初に治療試驗を開始すると、大概の藥が有効らしく見える、注意すべきである。



家屋の構造

扨て大氣療法を實行するに就ては家の構造が關係する、吾々が開放主義を勸めても直ちに實行出來ぬ家屋が少くない、結核患者に限ぎらず一般の人の健康の爲に欄間の開いた室に起臥することを奬勵して居るが、家の構造が之を許さぬ所が多い、從て患者の室を見て成るべく欄間を作らせる、廻轉窓が一番便利であるが、引違へか無双でもよい。若し欄間を作る面積がない時は雨戸の上部に無双窓でも取り付けさす、即ち肺患者の治療に先つて病室に外科手術を加へる必要がある

患家へ往診するとよく患者自身が應接室へ出て來て診察を受け、濟むと自分の室へ引き込み、醫者を病室へ入れようとせぬ家があるが、ごうしても病室を見なくてはならぬ、患者の身體を診察するのみならず、病室の診察をもせねば決して完全の治療は出來ぬ。

病室に行つて見ると、種々改良すべき點を見出す、前述の大氣療法が出來るかごうか、日光の工合、整頓、消毒、火鉢瓦斯、有害な娯樂、其他療養上不利益なことを色々と發見することがあるものであるから、夫等に對する徹底的の注意をせねばならぬ。

建築法規改正の必要

家の構造が大氣生活に適せぬことに就ては、獨り結核患者の室のみならず、總ての家屋に欄間の取附けを強要する樣に建築法規の改正なすことが我國の國民衛生上非常に利益であることを信じて疑はぬ。尤も寒がり屋は冬季欄間を開いて寢ずとも、夏だけでも開放して寢て貰ひたいのである。夏の蒸し暑い寢苦しい夜、安心して上を開放して寢ればごんなに快く安眠が出來るか知れぬ、然るに欄間の設備が無く雨戸を開ければ不用心だから開かれず、一晩中息苦しい程の蒸暑さに安眠を得られぬ家庭が決して少くない。

夫故今後の建築に對しては、必ず此欄間を設ける樣に規定し、警察の建築監督官に之を實行して貰へれば、今後十年或は二十年には大多數の家屋が欄間附の衛生的家屋に變じて國民の健康に多大の利益を齎らすであらう。近時簇出する所謂文化住宅なるものも、此點に於て甚だ遺憾の點があるから、是非皆樣と共に輿論を作り、此建築法規改正の實現を見る樣にしたいと思ふ、殊に內務省の當局の方々には既に御成案もあらるゝこと、思ふが、是非共一日も早くこれが具體化する樣御盡力を願ふ次第である。

實行し易き冷氣浴

寒冷刺戟を實際上に利用する他の方法としては冷水摩擦、冷水浴、冷水灌注、冷濕布、冷氣浴等があるが、此冷氣浴は道具も設備も要せぬ輕便有効の寒冷刺戟療法であるから之だけを特に述べる。

之は全身或は一部分裸體になつて寒冷の空氣に曝露するのみのことで、絕對安靜の重病者でも惡寒なごの無い限りは實



行出來る、身體の相當溫まつて居る時極めて短時間寢具をはねて寒冷の空氣を皮膚にあてて、又元の通りにする、此方法は皮膚强練、新陳代謝昂進の爲めに極めて善い、寒中からでも始められる、最初は瞬間的、漸次一分、二分と時を長くしても平氣になる、實行上の秘訣は身體の溫まり居るときにやることと、寒冷刺戟の時間が長過ぎぬことの二點で、之は冷水浴などのときにも注意すべきことである。

若し輕症者で、普通の衣服を着けて離床し居る者ならば、一日中度々脫衣して此冷氣浴を行ふ、夏などは殆んど一日の大部分を裸體で暮すがよい、風儀上の問題を別として、單に療養本位から云へば、確かに裸體若しくは之に近い狀態が善いのである。

夏が療養に適せぬのは氣溫が高く、比濕も高い爲であるから、夏季の療養法として最も重要なことは涼しく暮らすことである。

病床の換氣

冷氣浴を屢々實行することは、結核治療の先決問題とも云ふべき寒冷刺戟の享受並に皮膚强練の最良法であるが、之を就床患者に行ふ場合はつまり病床內の換氣を行ふと云ふことに一致するのである。

吾々は單に病室の換氣に注意するのみならず、病床內の換氣にも意を用ひねばならぬと思ふ、『ベッド』內の空氣は『ベッド』外の空氣よりは溫暖にして比濕が高い、即ち床の中にぢつと寢て居る患者は、絕えず蒸暑い空氣、換言すれば人類の健康に最も惡い處の濕潤溫暖の氣候の內に橫はるものである。今同僚矢部君の調査した所によると、之は氣溫も比濕も高い七月の檢査であるが、夫でも患者の寢て居るベッドの中へ入れた寒暖計は二時にして攝氏七度乃至八度高まり、濕度計は一〇乃至一五%の上昇を示したのである。

故に『ベッド』內の空氣を時々一新し、全身の皮膚に清新の刺戟を與へ皮膚呼吸を旺盛にし體溫の蓄積を避け、水蒸氣で殆んど飽和せる空氣を比較的乾燥せる空氣に變へることによつて水分の發散を促し、寒冷刺戟による血管緊張にて發汗を制止する。斯くすれば新陳代謝は盛になり、食慾は進み精神は爽快になる、且又皮膚が强練せらるゝ結果、感冒に罹り難く、患者は寒氣に對する恐怖心を去り益々大氣に親み易くなる。

此病床換氣法の勵行は、長期間就床する患者に取つて極めて緊要なことで其勵行如何は治療成績に大關係ある事は經驗の上から斷言し得ることである。即ち『ベッド』內の換氣に注意する事によつて、大氣療法の效果を一層顯著ならしめる、換言すれば、大氣療法は『ベッド』內の換氣にまで注意して初めて徹底すると考へられる、否な大氣療法と云へば、常發『ベッド』內の空氣にまで及ばねばならぬのである。

大氣療法の普及と結核死亡率

結核患者の療養法は多くの先輩の方々の御盡力によつて漸



々改良されて來て、殊に近年に至つては大氣療法が追々普及し（無論まだ充分ではないが）之を數年前に比較すれば、餘程改まつて居ると思へる。

それで此影響が我國の結核死亡率の上に何等かの形で表はれて來はせぬかと思つて、統計に就て當つて見たところが、段々夏冬の結核死亡率の差が減じつゝあるのではないかと思へる。之れは偶然の結果かも知れぬが、かうも偶然ばかりも云へぬかと思ふ。

○最近に於ける全國肺結核夏冬別死亡數の變遷

季節 / 年次	夏平均（五、六、七、八、九、五箇月平均）	冬平均（一、二、十、十二、四箇月平均）	夏冬ノ差
大正十年	7 63	6396	667
大正十一年	7508	6444	1064
大正十二年	7109	6212	897
大正十三年	6973	6160	813
大正十四年	7035	6366	669
A大正十、十一平均	7385	6420	865
B大正十三十四平均	7004	6263	741
A ト B ノ 差	381	157	124
A＝對スルBノ增減率	減5.1%	減2.4%	減14.3%

○最近に於ける夏冬別北海道肺結核死亡數の變遷

季節 / 年次	夏平均（五、六、七、八、九、五箇月平均）	冬平均（一、二、十、十二、四箇月平均）	夏冬ノ差
大正十一年	318	229	89
大正十二年	306	209	97
大正十三年	281	221	60
大正十四年	257	228	69
大正十五年	275	233	42
A大正十一、十二平均	312	219	93
B大正十四、十五平均	286	286	56
A ト B ノ 差	26	11	37
A＝對スルBノ增減率	減 8.6%	增 5.0%	減 38%

若し此事が偶然でないとするならば、其由て來たる原因はどうも大氣療法の普及して來たことが關係したのでないかと思ふ、其普及の仕方が夏冬の間に差異があるので斯樣な結果を來たすのではあるまいか、即ち冬季に大氣療法を勵行する患者はまだ全國に少數しかない、而し夏季に之を行ふものはかなり多くなつて來た、昔は夏でも夜氣は毒だと迷信して開放しなかつたのに、近年は大氣療法が鼓吹され、夜の空氣の無害有益なことが知れて來たので、夏の開放療法は相當行はれる樣になつたことは事實である、即ち結核死亡率の本來高い夏季も大氣療法の勵行によつて、餘程凌ぎ善くなつて來た爲に夏の死亡率が幾分減するのではなからうか、之は單に此數年間の比較だけで斷定し難いこと勿論で、今後の變遷を追求して見ねばならぬが、一つの興味ある問題の樣に思へる。

此夏冬の關係は兎も角として、要するに我國に於て安靜大氣療法がモット徹底的に普及するならば、單に其爲ばかりでも全國の結核死亡數がかなり減るに相違ないと思ふ。勿論濃厚傳染の機會を除くべき方策、發病動機を減ずべき手段等も重要であるが、治療方面のみから云へば、此安靜大氣療法の普及こそ死亡率低減上かなりの効果を示すものと信ずる。

自分が斯く斷言する所以は、今日如何に多くの結核患者が徒らに藥劑の末に走つて、合理的療養法を閑却し、閉鎖主義によつて其壽命を縮めつゝあるかを熟知するからである（終）

エベネザー・ハワアド翁の計

愛知縣廳都市計畫課　永田生

都市計畫とか社會改良運動とか云ふものに、多少でも興味を持つて居る者であれば誰れでもエベネザー・ハワアド翁の名を知らない人はあるまい。其エベネザー・ハワアド翁の純情な、溫良な靈魂は既に吾れ吾れと一所の此の地上にはないのである。本春、若葉薫る四月の末方、極めて短時日の病氣で彼は七十八年の永い間の各方面に於て、驚歎に價する成果を修めて、靜かに其の生涯を閉じてしまつた。ばん燒屋であり、料理店である家の悴として生れた彼は、學校生活を終つてから株式仲買人や辯護士の事務所で働いて居た。十八歳で速記術を修得して牧師の秘書役になつた。丁年に達した時に健康上の理由で、友人二名と一しよに米國のネブラスカ州に移住して農業の經營を始めた。けれ共此れは成功しなかつたので、今度はシカゴに行つて法律速記社に入つた。一八七六年に英國に歸つてから國會で公報記者となつた。

其の數年後である。彼れはエドワアド・ベルアミの著書『後ろを振り返り見て』を讀むに及んで非常に感ずる所があつて、社會全體の改良と云ふことよりも、寧ろ、小規模ではあるがもつと實質的な、社會改良の計畫を提唱したいと云ふ決心を持つに至つた。此れが彼れの田園都市の理想の胚胎であつて、例の『明日（トウモロー）』を題する著書となつてあらはれたのである。此れが一八九八年であつた。其後改版をして『明日の田園都市（リアルアン　シティー　オブ　トゥモロー）』と云ふ題で出版された。彼れは此の書物の中で、綠滴る樹木の立ち並んで居る巾の廣い道路、廣々とした綠の空地其他所謂る健康狀態を盛つた、新らしい晴々した、愉快なコンミュニテイーを髣髴たらしめて居る。

役れの熱心な主唱は、一八九九年に田園都市協會の組織となつて表はれた。一九〇三年には、またエベネザー・ハワアド翁の熱心な個人的の努力の結果として、レッチウオースに



市廳舍改築と公會堂

其經費は九十一萬餘圓

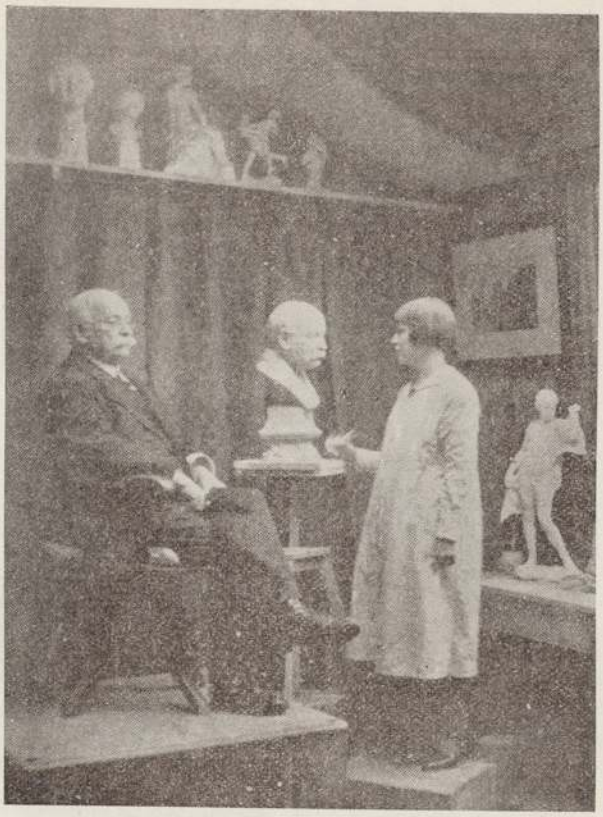
下關市御大典記念事業調査委員は曩に第一回の會合を催した結果市廳舍及び公會堂を造るとすれば凡そ如何程の經費を要するか具體的なる調査方を市に命じたので市當事者は極力設計中であつたが此程漸く出來上つたので第二回の會合を開き右の旨を報告する筈である。

聞く處によれば右計畫の中市廳舍は鐵筋コンクリート四階建他に地下室一階を有するから都合五階建の堂々たるもので建坪略六十三坪其經費は五十七萬圓である。一面公會堂も同じく鐵筋コンクリートの三階建で經費三十四萬三千圓を要し建坪は四百五坪である。而して其敷地としては立案を立てゝゐる。

名古屋商工奬勵館

愛知縣の商品陳列所は既報の如く、愈々九十萬

於ける冒險的の試業を始めることになつた。其れから十六年後に自己の責任と提案とで彼れは、現在ウエルウィン田園都市として知られて居る土地を買つて、此の種の第二の計畫を確立するに至つた。彼れは僅少の借用金で



寫眞はウエルウィン田園都市のヤング嬢がエベネザー・ロイアルは像該塑の作製に從事しておる所で該塑像の翁の出品されたアカデミーに

て短時日の間に不思議と思はるゝ程の開發をしたのみならず、彼の最初の愛人である彼のレツチウオースが其初めに於ては、維持上の適當の方法の欠陷から兎や角の困難には遭遇したけれ共、遂に所有る方面に成功を贏ち得もつてウエルラインの土地一七〇〇英町の保證金を拂つたが、其後に此れを二四〇〇英町に增したのである。

私共は彼れの美しい夢が實現して、即ちウエルウィンが急速な躍進的に繁榮して、極めた。即ち其最初から社會として成功をして居たが單にそればかりでなく、經濟上にも同樣に成功することが出來たことを、翁が充分認むることが出來るまで永生きをされたことを慶ぶものである。彼れが英國に對しては勿論

圓の建築費を投じ地上三階地下一階總立坪數三千四百坪の堂々たるものを本町通りの一角に建築することになり、その外面は美々しく裝飾する計畫もなつたが、更にその內部にむかつては一大刷新を加へ、從來とかく不必要論などとなへられ問題視されてゐたのに鑑がみ、今後は縣下農工業者のよき指導者となり、それに加へて大いに奬勵機關の任務をはたすことゝなり、名稱もこの際改めることは一般から感じをよくするといふ意味から商工奬勵館といふことに內定した、又近く原所長の後任も決定することになつた、こゝにおいて商品陳列所は內外共に更生し一大發展を見るわけである。

第三師團廳舍改築

愛知、岐阜、靜岡三縣下衛戍の總本山、名古屋第三師團司令部廳舍は鎭臺當時の明治二十年十一月の建築にかゝり濃尾地震直後の明治廿四年十一月から約四ヶ月にわたり手入れを施したのみでそのまゝになつてをり、ことに近來の如く事務機關の完備とゝもにます〳〵狹隘をつげ不自由を感じてゐる部附、兵器、經理、獸醫、軍醫の各部の如きは奏任官判任官同居して現狀でもなほ部屋は不足してゐるので陸軍中央部においても能率增進の點より改築に腹をきめ、ひそかに研究をしてゐるが來年度豫算に計上する意向らしい、改築位置は現在司令部のある場所で本廳舍のある四百三十坪それに附屬建築物五百餘坪の地を整理して七百坪に鐵筋コンクリート三階建の現在よりもズツとモダン式な設計のもとに建築する計畫の模樣である

世界を益したる功績は彼れの國家並に彼れの國王の認むるところとなつてナイトの名譽を授けられた。

ウエルウィン田園にて執行された彼れの葬儀には、英國のあらゆる社會から非常に多數の弔辭があつたが、彼れの事業上の點ばかりでなく、寧ろ彼れの個人としての人物の上に多大の讃辭が灌かれたものであつた。彼れがナイト爵位を受けた時に、ウエルライン市會の理事エフ・ジエー・オスボンが彼れを稱讃して書いたものの中に次の如き一節がある。

『エベネザー・ハワアド翁に近づいて居る者や彼れの溫雅にして氣取らない性格に接する人は、誰れしも彼れの名聲が國際的に喧傳せられて居るのに屢驚かされることがある。彼れは自分でもそれに大變驚いて居るとゝふ風である。然し獨壇上である彼れの地位は、世界に於し顯著なものであつて、アメリカ、ヨーロッパ、アジア、アフリカ何れの國民もゲツセンス街の彼れの家の前を通る時は、我れ知らず脫帽する有樣である。英國人でも都市の發展に就て研究して居る者であれば興味をもつて振り向いて行くとゝ云はれて居る。彼れの同町內の人は、山を切り開いたり都市を分散させる個人的の恐るべき力を持つて居る人とゝ云ふよりも寧ろ上品な好々爺として接して居る彼れに目を見張つて居る。

近代都市の紛糾せる混沌狀態——それは單にコベツトを絶叫させ、ラスキンを怒號せしめたにすぎなかつた——を彼れ一流の簡易化する觀察力に依つて直視したエベネザー・ハワアド氏は歷史を變更するが如き大理想の一をこゝへて此れを確立した』

（をはり）

中央諸官廳建築費承認さる

大藏省の豫算省議は永田町藏相官邸に於て開會大藏省所管の殘部を一通り終了して正午一先づ休憩午後は陸軍省所管の査定に入ることゝなつた午前中は主として營繕察の分を審議したが名古屋稅關設置費に關しては議論多く財源難のため遂に削除さるゝことになつた中央諸官衙建築費は大體國有財產整理基金によることになつてゐるため全部承認、關東州、樺太廳補助金增加は不成立豫算通り認めることに決定した承認された主なる費目は左の如くである。

一、中央官衙建築費增、內務省廳舍建築費文部省內閣會計檢査院、特許局等の廳舍建築費準備費

一、諸官廳新營費

一、橫濱積關廳舍新營費

一、關東州經費補助金增

一、樺太廳經費補助金增

而して大藏省所管新規要求豫算額は約二千萬圓である。

六層樓の大建築 三越京城出張所

問題の舊府廳舍跡（現女子實業學校）も過日京城府と三越との契約成り、三越がその敷地全部を買收し鮮銀、郵便局と對抗しのびゆく大京城にふさはしい堂々たるデパートメントストアを建築することになつた。その具體案について去月下旬加藤三越出張所長は本店と打合せのため東上しその具



內務省案改良便所と大正便所との優劣に就て

城口研究所大阪支店長
城口龜吉

第一大正便所

一、發明の動機

抑も大正便所の發明の動機は凡そ十二脂腸虫其他の寄生虫卵及諸病原菌が糞便中に在りて其糞便が空氣との接觸を制限せらるゝときは嫌氣性菌の發生が旺盛なり、以て容易に死滅するものであるこの事實が實驗の結果證明せられたので、之を吾人日常の便所裝置に應用したるものである。

二、最初の構造の失敗

最初は特許說明書にあるが如く新舊汚物を秩序よく排便管を通じて、舊きものより順次に便槽内に流入し以て嫌氣性菌の發育を適當に且旺盛ならしめ、更に其効果を確實ならしむる爲に、所謂內務省案こ同樣隔壁を槽内に設け、此の隔壁を超過したるものを第二槽に於て汲取る設備こし之を各方面に實施したるのである。

然るに右の如く隔壁を設けたる便所は、使用後第一槽内に徐々に固形物の堆積を見一年位を經過したるころよりは益々蓄積し遂には充滿して全然使用不能に陷る、即ち固形物の液化は吾人が始め想像したるとりも遙かに少なきものなるここが證明せられたのである。

實例一、大正七年大正便所こして明治神宮境內共同便所全部に設置したるものは隔壁を設けた處約一年位の後此欠點を暴露し全く使用不能となりたる爲め、第一槽に於て汲取る樣式に改造するの止むなきに至り現在その隔壁及第二槽の汲取口は當時の失敗の遺物として存して居る。

體案を引提げ歸城したが氏は語る。

本店と打合せの結果愈々具體案が出來あがりました即ち女子實業學校が新校舍に移轉すれば早速建築にとりかゝるつもりです設計のこまかな點については東京から技師が來城し一一これに當り指揮することになつてゐるが大體に於いて地下室を一階その上に四階か五階かの建築にするつもりで全部鐵筋コンクリートです併も內部は東京本店、大阪支店でも今日尙採用してゐない歐米の最も新しい型をとり入れるつもりです竣工は地層の關係もありますから一概に何時までこ日を決めては申されませんが來年の十一月頃までは完成したいと思ひますでなければ直ちに結氷期に入り四月に持ちこさなければなりませんから、十一月までを目標にして全力を集中するつもりです。

富山市記念會館
千十六坪經費四十萬圓

御大典記念事業として建設さるべき縣、市共同記念會館はいよ〳〵具體化し來る五日寄附金徵收方法等を定めうれる事となつてゐるがこれが建設計劃概要は左の如し。

一、建　築

一、建設位置は富山市に於ける武德會跡

一、建築は鐵筋コンクリート三階建とし其建坪凡そ左の如し

一階　四百三十一坪五合
二階　四百三十一坪五合
三階　百五十五坪

實例二、其後、青山赤十字産院に同樣の設計の下に設置されたるものは脫脂綿、ガーゼ等豫期せざる多數の蓄積の爲めに、始めは姑息的に棒にて突下け、或は樽内を攪拌したるも遂に使用不能となり、全部改造した等で各方面何れも失敗したのである。

三、改良の沿革

上述の欠點は隔壁を全然除去するに非らざれば救ふに途がないことが判り即ち其後汲取の際排便管内の液化汚物を殘留せしめ腐熟液化したる分のみ汲取るため

イ　或は種々なる障碍を設け

ロ　或は排便管の末端をU字形となし

ハ　或は汲取部分の底部を排便管の開口上部の直線上に置き

ニ　或は其高さ迄の障壁を遠近に設くる

等數年に亘りて種々なる實驗を爲したるも一も充分なる實用的成果を擧ぐることを得ず結局細菌學的効果に於ては多少の低下する所あるも實用的價値に重點を置いたが現在本研究所に於て施工しつゝある大正便所そのものである。

第二　内務省案改良便所

一、内務省の研究

内務省案改良便所は今より約三年前後より便所の研究に着手し先つ大正便所を設置し同時に細菌學的立場より本研究所が明治神宮、赤十字産院等に設置したるものと同型の隔壁を有するものを併置し、細菌學上より其の成績を比較對照した所勿論隔壁を設けあるものが其の殺菌力の大なるを認めたのである。

二、現在

茲に於て乎直ちに有壁型大正便器（假に上記明治神宮等に設置したる型式のものを指す）を内務省案として、新聞に雜誌に或は内務省パンフレットとして宣傳に是れ努めたのである。

けれども實社會日常使用に於て如何に結果するかの經驗日淺くして急處宣傳したる歸結は本研究所が曩に非常に苦き經驗を爲したると同一の事柄を反覆しつゝあるとのことであるか之は當然過ぎたる程當然の歸着であらねばならぬ。

果せる哉、未た實施年餘に至らずして各方面に於て改造を餘儀なくされつゝあるも

合計　一千十六坪

一、建築物の利用内容は大約左の如し

一階　玄關、受付、下足兩具室大廣間、事務室（大小八室）便所、階段、廊下等

二階　大講堂（千五百人以上を收容し得るもの）廣間、貴賓室、豫備、應接室、喫煙室休憩室（二室）日本室（大小二室）便所、廊下階段等

三階室　大食堂、食堂、娯樂室、喫煙室、割烹室、配膳室、廊下等

二、設備

一、内部の設備として暖房、淨化、電燈、給水設備の外に窓掛、敷物及所要什器の設備及裝飾

一、外部の設備としては外塀、正門、裏門、道路、庭園、自轉車置場等の設備

三、經費

一、基礎工事、建築及建築に關する諸費卅萬圓

一、設備費及諸費八萬圓

大都市計畫案

阪神と接續三市をつなぐ

大阪府都計課では大阪、神戸及びこれに接續する西宮、尼崎、堺、岸和田の都計區域を大擴張してこれが連絡統一を計畫し既に兵庫縣當局及び堺市には右計畫案が内示され何れも大賛成を得たので、この百年の大計ともいふべき大都市計畫は實現の可能性を增すに至つた。

計畫案の趣旨は現在都市計畫の實施されてゐる阪神の各都市は最初都計區域を制定した時とは

の某鐵道官舍然り某縣廳官舍然り其他或は病院に或は個人住宅に其の多くの實例を見る。

第三　結　論

何故に第一槽に固形物が而かく多量に貯溜するものなるやと云ふに、先つ第一に考慮すべきは婦人の生活、御産のありたる時に於ける汚物は何れに捨てらるべきものなるか、或は重症患者のありたるとき、子供の汚物、或は取扱の不注意により、下駄、草履掃除川の束子、消毒瓶、木片等を落すこともあり決して試驗室内に於けるが如く、大小便と紙のみに非らざることを忘れてはならぬ、即ち前記の物質が逐次第一槽内に滯溜すべきは當然であつて因て遂に使用の不能ならしむるものである。

内務省案改良便所は此の隔壁を撤去せざる限り改造の問題を伴ふことは止むを得ない。

要するに本研究所が細菌學的効果の低下を忍ひても尚便所本來の使命に立脚して實用的價値に重きを置き第一槽より汲取る樣式を選擇したる所以は實は茲にあるのである從て二者の優劣は自明の理である。（終）

大いに樣子が變り、都計區域外の町村が住宅化するの傾向著しきものがあり、これがため村には町制がしかれ土地會社によつて住宅地は開拓され、又地主達は共同して住宅地開發の計畫をたてるの氣運に向つてゐるが、都市計畫法が適用されぬため種々なる支障と障碍が横はり多大の不便を感ずるの現狀にある

又開け行く新住宅地に統一ある方針の下に道路公園を適宜に配置することの必要切なるものがある現在の都計區域を案の如く擴張する事が都市の眞の價値を發揮し悔を後日にのこさゞる最良の方法であるといふのである

現在の都計區域は大阪六千八百五千坪、神戸三千三百萬坪、西宮千九百二十萬坪、尼崎千四百萬坪、堺六百四十四萬坪（岸和田は區域未定）となつてゐり

擴張案によると大阪市は現在の約三倍となり、西宮市は四百九十萬坪を增し尼崎は倍加、堺市は五倍に擴張され、神戸市は背後が山のためやむなく現在のまゝとなつてゐる、右案は關係都市及び新に包含される町村に内示され意見が徵されるはずである。

アパートメント新築

大阪市不良住宅地區

大阪市社會部では、既報の通り衛生設備の不完全な長柄、釜ヶ崎、中津等の不良住宅地區の改良を計畫し、本年三月先づ南區日本橋通り五丁目堺筋裏の不良住宅地區の改良工事が認可されたので愈々豫算七百十萬圓（但し三百五十五萬圓は國庫補助）を以て同工事に着手することになつた

該地區は通稱かんてき横町、豚屋裏、八十軒長屋、西六道東裏等の約二十個の貧民街で、戸數千二百二軒、世帶數千六百六十一口もあり、其の不衛生なことは世人周知のことである而してこれが改良の事業は家屋の取壞し、土盛り新街路の作成、鐵筋コンクリートの三階のアパートメントの建設であつて、其の第一期工事としては八十軒裏より初めることになつた、同所には鐵筋三階建が九棟も出來るがその地域に於る住民の移轉先きとしては西成區東入船町の通稱釜ケ崎に工費十四萬六千圓で六百坪の敷地に戸數七十八戸が入るだけの鐵筋コンクリート三階建を作ることになり、昭和四年一月には竣工の豫定である、元來この改良工事は都市計畫と異り住民に移轉先を與へなければならず、又特殊の店舖にはそれぞれ損害保證をせねばならないのであるが、改良地區の住民中には改良の何たるかを解せず、只保證金の如何によつて移轉の諾否を決してゐるので市役所でも此取扱に困つてゐる

工事は六箇年の繼續事業、總坪數一萬八千八百坪に達し、新集合住宅は數十坪に上ることになつてゐる住宅の家賃は六疊と三疊の二間付きに電燈二箇所及び瓦斯水道導用で參くべし平均九圓五十錢の低廉なもので、二階三階は住宅向きに、又下の道路に面する所は店舖向きとなり、今迄平面的に集合した家が、今度は立體的の建築物となり、勢ひ多くの空地が出來るので、其處を小公園にして兒童の爲めに運動具、娯樂器具を備へ或は植樹をして新市街の美觀を添へる筈、何にしても昭和十年に大阪市南區の細民窟が文化の粹を集めた集合住宅地となる事は大阪の將來の爲非常に喜ぶべきことである。

飛行機より見たる建築と社會

（1）施主、設計監督者の巻

會員　下浦光衛

（一）時代と場所

現代文明が吾人に與へた幸福の大いなる事は申すまでもないが、半面に於て幾多の害惡を人間生活に及ぼして居る事も、爭はれない事實である。夫れは、文明人が物質萬能に遍して精神的方面の事を閑却し、求めても、追ふても、滿足し得ない物欲のために大なり小なりの神經衰弱に侵されて居るのに見ても明であります。紅塵萬丈、黑煙天を覆ひ晝尙暗い都會人は騷音に、防げられて、二六時中、靜思するの閑もなく、又視覺も聽覺も殆んど機能を失つて居るかの樣に思はれます、斯くの如き狀態にあつては、彼等は到底自己自身の活動やら社會の狀態が、果して正しい徑路を進みつゝあるや否や、正視する事は出來ないであろう。此の時に當り余ははからずも

飛行機に搭乘　いたしまして大空から下界を俯觀をいたしました。如何に不明な私の眼でも、此時ばかりは、森羅萬象一望の內に集めて正視する事を得たと信じるのであります。大空に於きましては、物質を超越いたしました。以下その感想を述べて見度いと思ひます。

人間は口癖の樣に萬物の靈長なりと斷言をいたして居りますが、大空から見ますと、現代人の中には、動物と人間の見分けの付かないのが多いのに實は驚くのであります。形から見た人間は勿論見分けも付きますが、第一現代人には立派な理想がなくて、現實の

食色充足に沒頭　して居ります。夫れは單に資本家のみでなく、各階級を通じてであります、殊に近來の勞働問題の如きものも然り、何れも人世の正しい目標がなく、本能的に働き、空氣の壓力で互に入り亂れての烈しい生存競走の渦を卷いてゐるのである。實に目も當てられない光景を出現して居ます。弱肉強食と云ふ形容詞は、斯くの如き狀態に用ゆるのであろう。然し幸ひにも右の如き狀態の中にあつて、堂々眞に人間らしい活動をつづけられて居る人もあるのは失望の裏にも又意を強ふするものであります。

幾千米突と云ふ高空から、地球を俯瞰いたします時は、只自然界の偉大なる靈氣で蓋ふはれて居て、只々總てが尊い輝かしいものでありますが、段々と地球の表面近くなるにつれ、陸と海とが漸やく見分けられ、更に接近するにつれ、山や川や都會がはつきり浮び出して來て、次第に人間界の動きが發見せられます。職掌柄筆者の目に映ずるものは第一建築であります。而して總ての人間は此建築を背景として活動して居るのを認めます。此建築の內部では人間界に必要な、樣々の仕事が行はれ居る、實に建築は總ての活動の原動力であり、尊く且重大な責任を負擔して居るのを認められます。然るに此尊く重大なる、建築に從事して居る人間共が果して、使命を全ふすべく、懸命の努力をして居るや、否やを考ふる時、冷汗三斗の思ひするのであります

高速度の航空機丈からの觀察であるから或

は誤りかも知れぬが兎に角建築を背景としまして

登場の人物は　資本家、勞働ブロ、宗教家、新聞記者、設計家、禁酒運動屋、能率増進論者、國事改論者、諸事統一論者、外國崇拜者、請負業者、監督業者、顧問技師、材料商人、官吏、政治家、ミ云つた樣な、色々な階級の人間で、之が入り亂れての統制なき、喜劇、悲劇、活劇を演ずる樣を詳細に亘つて記述したいのであります。登場いたします役者の性癖を云々いたしますが、役者全體は不一無二のものであつて、惡へきは大小共通して居る事を、御承知を願ひ度ひものであります。

資本家と入札　都會に於ける競爭の激烈なる狀態は形容に言葉ない有樣である、文化が進み經濟學が進退するにつれて競爭が烈しくなるのは當然で又經濟學者が多くなる程共產主義のデモが增すのが原則ミか、空から見ると、各自勝手の熱を揚げて居るのに驚く。競技にしても、水を泳ぐ事なら遠くオツトセイに及ばぬのに、人間共が何のまねか盛んに競泳に夢中になつて居る、かと思ふミ小犬よりも遲いのに百米突のレコード何分ミかでランニングをやつて居る、何の事はない競爭でなくては夜が明けぬのである、此競爭の心理狀態を都合よく利用いたしましたのが競爭入札であります。

官廳の入札は　競爭心理を利用して安くする事ミ、官吏自身が適確な豫算の算出が出來ないから始めたものである。官廳の入札が元祖をなして、民間でも盛んに入札をする樣になつた。勿論入札必ずしも惡い事ではないが、資本家、即ち施主に道義の念がないのに驚くのである、自分さへ儲かればよいと云ふ其態度が實に滑稽である、京都の或る宗教學校の入札には十六名の請負者を指名したミの事である、其工事費たるや二萬圓を出でないと云ふに致つては、言語同斷ミ云はねばならぬ、惡くするミ工費ミ入札見積費ミ粗半ばする事になる、幾人に手數を掛けるも平氣である。之は人前に立つて道を說く先生方がやる事ミしては、いささか心細い感じがする。又或る相當な

會社の工場の入札　であるが、入札の結果豫算超過で再入札をやる、請負者待つて居ましたこばかり無條件で一割なり五分引ミ出る、今度は會社の曰くが面白い『折角一、二番札が接近した札であるから更に今一度御兩所御勉强かた〴〵御札直し』ミ來る。

又一風變つたのになるミ、始めから甲請負人に特命する事を決定して置きながら、勿體口調で他の三四の請負人に入札せしめる、之を稱して參考見積と云ふ、然して甚だしいのになるミ、御手數有難ふの手紙一本すら出さないのがある、何々樣に御願ひする事になつたミ云ふ事を明かにせない程度の者はざらに有る。此入札のやり口如何で凡そ其會社の

重役や係りの人格　が窺われる事になる入札は大いにやるべしである、指名、公入札參考見積、豫算拵へ見積、の何れを採用するにも、道義を重んじ禮を厚うして、やるなればよいのである、現今行はれつゝある入札の如きは、饑えたる猛犬群に一片の肉を投じたるに等しき狀態にあるミ云ふも過言ではあるまい、要之に請負者の無自覺が一大遠因をなして居るのであるが資本家の橫暴ミ自分さえ儲かればよいミ云ふ自己本位の無節操も又見逃す事の出來ない一大缺陷である。若し夫れ

資本家が徒らに　競爭心理を惡用して、請負者が損をする事を眼中に置かぬミ云ふ態度を持續するならば請負人が建築勞働者をい

ぢめ、其結果我建築界にも勞働爭議を起こし、反動的に高い工賃を支拂はねばならぬ事になり、ひいては國民生活にも惡影響を及ぼす事になるのは明かな事であります。

資本家は今少し物の値を知らねばならぬと思ふ、知らねば自己の信ずる技術者を信賴して請負者の生存に當然必要なる、手數料を支拂ひ得る、程度の者を選定する必要がある、技術者が適法を採用なしあたはざるは、相場を知らざるか、信用なきか、權威なきかに因る、現代は、分業の時代である以上、分業を尊重せねばならぬ、近來此組織を破壞するが如き擧に出ずる者あるは悲しむべき現像であります、卽ち信用されなくなる者に一半の罪はあるとしても、順序を經ずしやらないと、一文をしみの百失ひとなる、從來町家建築に於ては

出入の棟梁が あつて、之が一切の責任を委托されて居たのであるが、施主が棟梁に口錢を拂ふのがいやさに、材木、其他を自分で直接に購入し、職人も常雇とすると、棟梁は子分一人に就て五錢か十錢撥る外收入がない事になるから止むなく棟梁は、入場する材木に雜辭を付ける材木商人も大工よりも善い値段で賣り付けて居る關係上、幾分か大工に手數料を贈るそこで初めて惡い材木が納まると云ふ段取りになる。

職人は直接手間を貰ふ間係上、巧拙は別として同額を貰ふ、下手でも賃金は同一だと劣等工が目慢をする、棟梁も別に內法物、野物の見分けもする必要もなく誰れにでも仕事を割り當てる結果、大工の素質が漸次低下して今日の如くなつて來たのである、棟梁は

一見口錢を只取り して居る如く見えるが、各々適材を適所に配し、其技倆に應じて賃金の支拂も其宜しきを得て居るのであります。餅は餅屋と言ふ諺は千古の哲學であり眞理でありますまいか然るに諸會社の建築に於ても、鐵は支給だセメントは支給だと云つて、一文の手數料も出でずに然も責任だけは嚴重に持つ樣にと、仕樣書を作らせるのか、技師が勝手に作るのか？工費を合法的に安くする事は、望ましい事であるが相手方がいくら損をしてもよい、幾分でも損をすればまあ〳〵成功だと云つた態度が誠に面白くない。御互は共存共榮體である以上、請負者が自身の失敗又は物價騰貴に依る損失は別問題であるが、適當なる利益を納め得るものと云ふ値段でなくてははらぬ、自己が投資をせんとする時、資本が如何にして出來たかと云ふ事に想到する時先めて、此問題が自然的に解決するものである。次に此資本家と云ふものには感情高いのが多い樣である、慫かすると

仕事をやらして居る と云ふ態度がすぐ出るのである、今少しやつて貰つてゐるといふ感謝の心がなくてはならぬ、同時に請負者は、工事を委托されて居ると云ふ感謝の念があれば期せずして、好結果を修め得るのである、勿論絕對信用の特命工事は、ありますが、一般入札工事に於ても人格的共存共榮を第一眼目とすべきである、如何に蟻の甘きる寄る如く密集するからと云つても、五軒も十軒にも入札せしめると云ふ事は、國家經濟から申しましても、不都合でありますまいか？建築は石炭や鐵材其他單なる、材料の見積と異なり、非常な手數を要するものであるが故に、道德的に申しますと、相當の見積料を支拂ふべきが當然であると思ふ、斯くする事に依つて眞面目な、信賴し得る、見積豫算が得られる事になります。

最低を以て最善 のものなりと考へて居る現今の入札は結果が非常に惡いのである、

夫れは申すまでもなく、建築工事は既製品にあらずして、入札後材料を集め、之に混合人力機械力を加へて組合せるものである。故に其組合せの巧拙に依つて結果に天地の差の生ずるのである。然るに現代の資本家は、此見安き眞理をさへ見分ける事の出來ない程利己的色盲であるのに驚くのである、甚だしきに至つては、百年の計を建てぬばならぬ、建築を、四日や一週間で見積れなど云ふわからず屋もある樣である、其樣な事で正確な見積の得らるべき筈のものではない、斯くの如き徒輩は初めから延坪幾何合計何萬圓と一本見積でやるべきである、此理性を失つた、あわて方は、資本家丈ではなく、現代人の通弊である、右の如き資本家は工事に取掛るとき、きつと狂氣の如く竣工を急ぐのであるが、之又工事には大禁物である勿論多くの資本を固定するのであるから合法的に、期間を短縮する樣努力する事は技術者當然の任務である、現在東京大阪間の汽車を米國の大陸鐵道に比較して五時間で走らすの八時間でやれのと云ふ樣な、常識を脫線した事を、考へない樣注意し度いのであります。

利己的資本家に一言し度い事は、日本帝國の國民は人格的共存共榮體であるから、常に道義の念を以て、他人の迷惑を考へ、心から感謝の念を以て、建築入札の時にも施工の上にも終始せられん事である。

設計業者と監督業者（技術家）　建築を背景にした近代劇に於ては、設計業者、監督業者と云ふものは、何と云つても千倆役者であります現代文明都市の寵兒である。

昔は大工棟梁とか云ふのがあつて、高等數學も物理も知らず勿論博士と云ふ肩書もないくせに、世界的木造建築を、やつてのけたものであるが、然るに近代は數學や科學と云ふ物を研究した、學者が出始め、五重の塔や大師堂に一年も二年も立籠つて論文と云ふのを出して、博士になる、混凝土が輸入せられて木造はあがつたりになる、セゼションだゴシックだバンガローとか云ふ洋風が吹いて、日本建築が後形もなく消し飛んで行く、世は廻りもので、いつの間にか棟梁は下馬になつて建築士が取つて代つて扱てこそ時代の寵兒となつたのである。丁度人力車夫が消えて、圓タク運轉手が出來た樣に、所が此寵兒は速成だけに、感心出來ないのが大分ウヨ〳〵して居る樣である、之が世態の嚴肅な批判を下すべき任務にある、偵察者の精念場である、飛行士が漸次下げ舵を取つて、接近するにつれ下界のモーションが、益々明瞭に、殊に面白いのは靈感的に人間其の思想の動きまでがパノラマの樣にはつきり浮んでまゐります。

現代人の生活樣式を見ますと、相對的には、純然たる日本式及洋風式、或者は和洋折衷或者は灰色と云つた樣な、千差萬別、過渡時代であるなと寒心せざるを得ぬ狀態である、更に眼を轉じて思想的方面を觀察いたしますと、左の五生活に分類せられます。

イ　本能生活
ロ　感情生活
ハ　擬心生活
ニ　理性生活
ホ　自覺生活

本能生活

身に相當の敎養ある人でも、隨分本能的生活をして居るのに驚く、人が行くから行く、月給を貰つて居るから止むを得ず事務所なり現場に出る、斯く言はれたから斯々だと殆んど機械的動作をして居る、腹がへつたから食ふ、と云ふ樣に何等自己の仕事に興味もなく

命脈をつないで居る事のみか考へて居ない、人が汗を流して働いて居ても、煙草をフカして見てゐる、一年三百六十五日をボーと暮す手合が即ち本能生活者と申します、毒にはならぬが物價騰貴の折柄、むしろ早く人間業を廢業した方が御國の爲であると思ひます。

感情生活

人間は感情の動物であると昔から云つて居りますから、誰れしも感情に支配せられない者はないが、感情の專門家見たいに、朝から晩まで感情づくめで、相手方の出方一つで青くなつたり赤くなつたり。大體請負人の分ざいで物言ひが不都合だ、斯んな事を言つたからあの仕事に難くせを付けてやろかとか、何遍でも符箋を附けてやろうと云ふ性のよくないのが可成多い、一寸口答をしたから支配人を呼び出せと云つた風の事を御叮寧に工學士とか云ふのがよくやるとの事、デモクラシーとかさわいで居る、世の中にポリスか役人見たいに御無理御尤もで拜みたをして居れば喜んで居ると云ふ病人であります、夫れも物慾を離れたのばかりならよいが、欲み度い欲しいと云ふのになると、特に仕末が悪い、日々の新聞なぞの記事をにぎはして居るのは、ほんの其一部分であるとは驚く外はない、幸ひ建築家には割合少ない樣に見受けますが、矢張自分も同種類だなと御氣付きの方は、早く、ほがらかな、度量のある生活宗旨替へするに限ると思ひます。

疑心生活

人を見れば盜人と思へと昔の人は用心深かつたものである、其習慣が今に殘つて事毎に他人の云ふ事、する事を疑ふと云ふ困つた性質であります。例へば材料に關しても、よい物を見せても必ず一度、大分悪い樣だと云ふ善い方法を提供しても、きつとごまかすのだろと疑ふ、自分が怠けて居る間に人のした事を一度必ず疑つて見る、セメントをゴマかされはせんかと常に人を信ずる事が出來ず、自己をも信じられないのがある、誠に憐れと云ふも愚かな事である、尤も疑はざるを得ぬ樣な事をするのもよくないが、片ばしから不安でいつも暗路を歩むが如き心持ちで折角の明るい人生を、極めてつまらなく渡る人間がある、特に此種の人間は、設計請負共監督の地位にある者がひどい、仕事をするにも、注文をするにしても悉く疑ひ値切る、萬事と日を遲らすと云ふ愚かしい事をやつて居る、內容の充實した建築をするには、感情や疑心では到底出來ないのであります。

理性生活

さすが科學萬能の世の中だけあつて、二プラス二イコール四でなければ夜が明けないと云ふ、理性生活者がばかに多いのに驚かされる、夫も特に設計業者に此タイプの人間が多い、此種の設計技師は能率や科學は寢ても起きても忘れられない、從つて歐米崇拜でまるで紐育でゝも建築して居る氣分になりすまして、タイムスケデュールとやらを赤青點線で以てにらみつ子をして居る、繪具の樣に青くなり赤くなり窓臺石一本拵へるのが遲れたと云つて、社長や支配人を呼び付けて、文句の三斗も並べる、混凝土打ちが半日遲れたと云つて、始末書を出させて得意がる、人足が話をして居のが一分間も無駄である、現場員は何をして居るかと、ごなり廻る、ミキサの廻轉が五秒少ないとか多いとか、米國では總て人間の肩を使ふ樣な事はないと云ふので天井

足場の上まで漆喰を車で押し上げねば承知せぬ、何と云ふ

人間味のない　事よ、夫れでもそんな人は婦人などには、可成人間味はあるこの事だが、困るのは現場である。低空から見ると從業員が泣いたり、こぼしたりして居るのがよくわかる。

五階六階の建築にも釣足場を使用せぬと、『普通の設計者ならいざ知らず、我輩の如き新しい頭の持主には體面に關する』と考へて居る、殊に滑稽なのは、地面から三間位いは石材貼付けで丸太足場を掛けさせ、四五階の床からはね出して釣足場を架け、上階の蛇腹上に又丸太足場を架けると云ふ事である、之等は全く理性一方で實際問題を無視せる甚だしい者である、利己的なプライドを滿足するために、經費と時日を犧牲にせるものである斯くの如き性格の人間は單に能率の事のみならだ、施工上に於ても、直線とは二點間の最短距離にしてと云つた風に徹頭徹尾理屈一點張りで、細砂利が何パーセントだボイドがあーだ、フローテストが斯ふだ、米國の何々の發表に依るか何とか錄々英語も讀めないのに通を振り廻す、然らば一日二三十坪打つ混凝土は、如何にすれば實驗室に於ける如く又講釋の如くなし得るや

御手元拜見　と來ると、氣の毒ながら御先眞暗と云ふ有樣である。近來亞米利加あたりでも寒心してあまり用ひられない、專賣特許の置き古しのインデーターとか云ふ、變な混凝土練機を宣傳して東京方面には、あわて者がぼつ〳〵自腹のいたまぬ金で購入さして、手習ひをやつて居る。然も其額驚くなかれ八千圓とか六千圓とか聞く、一寸した住宅が此の調合機一臺分で出來る、いくら水の中で砂をゆすつても砂のめり込みには程度がある、一度實驗して、夫れだけの砂を少なくするなり多くするなりすれば、足りる事である夫れで尙不安なれば安いセメントだ立坪に一樽も多く使へば何程安全か知れやしない、斯く申す筆者自身も、理窟は多い方であるが、餘りに甚たしい相對的な觀念には開いた口が塞がらぬ、斯んな手合に出會ふ資本家は一等馬鹿を見る譯だが袖振り合ふも多少の緣かいな。然らば理性生活者は

責任觀念があるか　と申しますと、きつとない、さんざ言ひ度い放題の事を云つてやらして置いて、結果が悪いと、ごうも施工者が頭が古いとかラフでねと來る、厚顏無恥と云はふか、せめて手前が悪かつた位いは云はぬと、ごうせ遣直しは施工者が〇持ちでやるに極つて居るではないか。

孔子樣と云ふ人は學は知るに在り、知つて而して行ふにありと敎へたと云ふ事であるが近頃の學者は總じて、學は知るに在り、知つて而してうまくしやべるに在りと了解せるもの、如し、經濟學者や、批評家は空論でもよいが、建築だけは、手八丁口八丁でほしい、現今の狀態では、混凝土の如きは根本を覆す如き大發明はない如何に高級とか超高級とか云ふセメンが出來て二時間で一年の强度が出來ても第一大工や混凝土其物の施工が今日以上二倍も早くする事は困難である、故に理屈一點張の人の云ふ樣な神經質な文句は更に必要を認めぬ、第一くど〳〵しい仕樣書等は混凝土等には、必要がない調合一、二、四、で充分である、今日の急務は出來ない空論よりも先現實に好結果を納める事である、スランプだフローだと文句を並べて居るのに限つて結果は悪い、單に混凝土だけではない如何なる工事でも、能書の多い奴は先づ山と心得て過ちはない、先立つ物は金であるが、幾何に

金があつても亞米利加の新レコードの眞似は出來ぬ、況や金ないに於てをやだ。

理性生活者の通弊　こして、何から何まで科學的にやり度いこ云ふので、一言言ふにもタイプライターで片言で左書こ來る、實行だ豫定だ報告だと兎に角一通り人並の事をやつて見たがる、夫れが空想なのだから一致する筈がないこ、靑筋立て損である。見積數量書なごも人並に拵へたがるが、然し仕樣書の末尾に『參考であるから其責に任ぜず』と書く。勿論形式としては止むを得ざる事であり廣汎な數量である以上三分や五分の相違が或種のものに、出來るのは止むを得ぬ事であるが、餘りに杜撰なのに驚かされる、請負業者こしても、一々見積調べをするのが當然の事であるが五日間だ一週間だこ云ふ期間になるこ、勢ひ原數量書に賴る事になるのは、蓋し人情である。

最近東京に出來た建物　は入札當時仕樣書には鐵筋はリブバーとしてあり明細書には明かに、丸鐵四百八十何噸とある、混凝土六百幾十坪こある、延坪から早勘定をするこ床坪四合當り鐵筋は八分噸位いになつて居るから、見積りの衝に當るものこしては、信用する事になる、然るに實際は床面坪五合當りである爲め、混凝土が七百五十立坪鐵筋は六百噸からあるといふ仕末である、然るに設計業者は、仕樣に明記してあるこ巧みに逃げる鐵筋は仕樣書の方が正當こ認め、丸鐵こある明細書は、だめこ來る、セメントは支給品であるので施主に要領よく買はす、施主は『私の方の直營は設計者が見積違いで、豫算超過をした鐵材コンクリート共技師が承認すれば數量違いは出す』こ云つても、技師は『入札の約束である』こ云つて之を認めなかつた。今日の建築は經濟建築である以上、關係者殊に、設計家は此經濟的責任觀がなくてはならぬ、眞に設計家本來の面目を全ふせんこするものは、白分が請負つて

價格相當の建物　を完成するこ云ふ信念で事に當らねばならぬ、設計家こ云ふも、講負業者こ云ふも、不一無二、一如でなければならぬ、斯かる無責任極まる明細書を平氣で出す位いなら、學士だ博士だこ云ふ肩書はなくこもよささうなものである、施主に御世辭たつぷりで設計料を貰ひ、それに直營や、指定品の納稅で只生きんがために手段を撰ばずこ云ふ態度は苦々しい限りだ、急に突風が出て、機體の動搖が大分甚だしい、偵察の任務も命がけ、一寸一ぷくをしてから次の場面を考へて見やう。

入札に對する、理性專門家の態度も大いに考へねばならぬ、元來入札は建物に對する、嚴正な評價を定むべき大切な仕事である。然るに既に述べた如く

資本は自己本位　に出來るだけ競爭をさして、十萬圓で十二萬圓の建物を得度いこ願ふ有樣である、せめて設計家だけでも、無理をさざない樣に努力せねばならぬ、理性本位の者は、人間の實生活を無視し勝ちである、自分が僅かばかりの智能を切賣りして、出した物より多く得て居る事にも氣付かないで、何でも値切りさへすればよいと考へて居るので、世間的の相場を知るべく努力せぬ、從つて彼れ是れ取合して拵へた設計に對しても、果して、幾何の價格を要せば、自己の欲する程度の物が出來るやの確信がないそれで入札を只一のレールこ信じて居る、夫れかこ云つて豫算超過の場合には、之は見當が違つて居たなこは思ひ切れないで何等の變更なしに再入札に附するこ云ふのは、何こ云ふ不明な事であろう、右之場合は米國なごの例をかつぐ

とよいが、都合の悪い事は知らぬ顔で居る現狀であります。歐米の技術者に較べて、東洋方面の技師の

資本家に對して權威　のないのは著しく御互が恐縮する所でありますが大見得を切る程信用もなく、口可愛さに如何な事を言はれてもハイ〳〵と柔順其者である、豫算にしろ、スタイルにしろ、プランにしろ、今少しく見識があつて欲しい、建築を藝術なりと主張する世の技術者よ、今少し技術家らしく、如何なる場合にも識見と權威があつて欲しいものである。

技師と實費精算　近來實費精算と云ふ者が入國して來ました未だ日が淺いので、何所がよいのやら、はつきりして居ないと見えて、人毎に勝手な見解を下して居る。或る土木技師は『實費精算は請負人がぐず〳〵して都合よく儲ける』位いの事である外何の德もないと見て居る、或る技師は『工期を早め變更に際して合理的に精算が出來る』と見て居る。或る者は『未定の工事費を時々取極めつゝ行ける』のが特徴だと云ふ、或る技師は『請負を手先に利用して設計者が請負をするものである』と云ふ具合に樣々に解釋をして居りまして實費精算と云ふものは、役者次第で隨分色々な意味に於て應用されるものであるなと思はされる。

す、然し請負者が一定の手數料を以て長引かすべき筈なきは明白な事である、又工期が早くなるべき譯もなく精算が容易でめるのでもない。實費精算の特長は『最も誠實な信賴し得る請負者をして、損もせず多くも儲せしめず公平な利益を與へ何等の心配もなく誠心誠意工事を施工せしめ得る』と云ふのが、實費精算の特徴である事を筆者は斷言いたします

技師が請負をして　居る如き態度で下請の見積までも一々干渉して自己の氣に入つた所でなければ、大變機嫌が悪い、直營工事者が當然負擔すべき仕事でも實費式だ君所の損にならねばよいと、漸々横暴を極め、請負人の技量を發揮させぬ樣のもあるとの事である、夫れは極めて小數であらうが皮肉な事には其んな行方をする者が割合、現代にはハヤルから面黑い事じや、物置き見たいな、小學校の建築の設計を入札にして、然も三四名にも、設計料一分だ八厘だ云つて、設計させよるかと思ふと、或方では請負人に二百萬圓の工事を七分の口錢つまり十四萬でペコ〳〵してやつて居る。かと思ふと、直營工事と本工事の合計四百萬圓に對して五分とか六分の設計料をせしめて居るとか尤もそんな高率なのは全部は手に入らぬとの事であるが、何れにせよ

技術者と指定品　タデ食お虫も好き不好きと申しますから、感情であらうと理性であらうと、勘定からなら止むを得ない事であるが、之は大いに研究すべき大切な問題でありますまいか。專賣特許なら兎も角、似たり寄つたりの材料に對して、指定をする事は大いに考へものである、購賣の交渉に取掛ると『御指定でない場合は之より一割は御引きいたしますが、之にはいささか』と云つた風な事を平氣で云ふ、眞に信用のある商人の外は、A、B、の二種位いに定めAなればいくらBなればいくらと云ふ具合に見積れば、實際の場合何れにても採用し得て、交渉が誠に都合よく行くものである又指定をする場合は、內外の何れを問はず常に大極に活眼を見開いていやしくも國民生活に不向なものは、自分一人で一寸よいと思つたからと云つて輕々に撰定すべきでない。如何に舶來だからと云つて幅五尺や六尺の階段一段に三十五圓もする樣な、エジープロテクターとか云ふ段鼻金物を

用ひる事などは夢々口に出してはならぬ、道樂氣から、斯かる無用の巨費を投ずる事は

經濟的國賊　である。日本人でないからよい樣なもの、或一毛色の變つた設計者は、或女學校で百萬圓の工事に四十萬圓、又或他の女學校は七十萬圓の內四十九萬圓を指定材料としたそうである。然も夫れが大部分一會社の材料であるこの事である、然して其曰く『信用でやらして、高い豫算でやらしたのに損する筈がない』と、指定四十萬が三割高ければ百萬圓の內既に十二萬圓はロースして居る事になる、入札の場合請負者は五分なり六分値引して落札した場合特種指定材料商は一毛も値引きをせぬ、と云ふ結果になる、通常の材料を指定する場合は、むしろ直營にしたのがよい位いである、指定品に對しては、色々の議論がある樣であるが、筆者はチラと目に入つた物と耳に聞えた事情を綜合して卑見を述べた次第であります。

技術者と直營工事　直營工事と申しますと、大體衛生、暖房、電氣、電話、鼓飾、家具、であるが本來なれば、一式を請負はすべきである、然るに家具とか裝飾とかは出來合品があゝ關係上、本工事として見積外とする樣になつたのが原因になつて、衛生とか電氣とか前記のものまで、直接に交涉する樣になり漸次目的も不純になつて來て、獨立した專業があるのに請負人に口錢をせしめさすのが心外だ其稅金はつまらぬと盛んに宣傳し此方で關係すれば役德でと言つた樣な具合に變化して參いりました。然し之等の附帶工事は、建築の構造並に主體施工とは密接な關係を有し理屈一遍の通りには行かない、從つて一般請負者に及ぼす迷惑と云ふものは、莫大なものである。

然るに之等直營業者　は、之等諸設備を利用する事は當然の權利の如く考へ居る、技術者も夫れ位いの事は當然なりと獨斷で不服を申立つれば、他の方面で壓迫を加へるなど言ふ狀態である、直營も取引方面からの政策もあるから止むを得ぬとして例へ僅かであつても幾分の手數料を一般請負者に支拂つて充分責任を負擔せしめる樣するのが賢明なる策であると思ふ。現今は此眞理に逆行して、施主よりも技術者が材料の購買に直接關與し度いと云ふ變な考へから、附帶工事の以外に、ペイント、大理石、鐵筋セメント、石材、防水、サツシユ、シヤツター、鐵骨、と云ふ風に漸次其數を增加しつゝある傾向である、特に此方法は賣出しの技術者に於て然りとすること云ふ。悲しむべき現像である。尤も獨立した事業であると云ふ、口實のもとに直營にすると云ふ筆法から申しますと、別に不思議はないわけである、左官も獨立したもの、大工も、鐵筋工もと云ふ具合に直營にすると技術者が

請負並に設計と云ふ看板　の塗り替へを斷行する時機が來ると思ふ、從來の請負人は、土工とか手傳とか云ふ長ヅボンを着用しない比較的御し惡いものだけの單なる一個の下請負人になる、支配人とか技師とかの居る一寸話せる口は、直營化するのは但し止むを得ぬ事か？殊に日本人の血の流れて居る憂國の士の最も憤慨する事は、人格劣等なる外人が勝手氣まゝな行爲をして、過渡期に於て大分自制心を失つた請負業者の虛を突いて愚弄する事である、斯かる技術者の存在は帝國の恥辱でなくて何んであろう？感情は勘定を產み直營に興味を持ち夫れが社會組織を破壞する事になる、夫れが恐ろしいのである、金は慾しいと文句を並べるのは問題でない。

技術者と仕樣書　小さい建物をいたしま

しても、甲が乙に仕事を命ずるには、仕樣書に依つて、甲の意志を乙に傳へるのは當然の事であります、ですから仕樣書と云ふものは、簡明でなければならぬ筈のものである、例へば煉瓦積にいたしましても『燒過二等品で入念に積立てる事』で充分である、混凝土にしても調合の割合と砂利の種類とを明記すれば足りであると思ふ水濕しだ吸水量だ、沸騰だか云ふ樣な事は時代遲れである、右の如き問題は、現場の當事者の責任なり技量にあると思ふ、斯かる說明を個々要する樣な者は今日施工をする資格のない者である、宜しく信用ある相手方を求める事が大切である、其位いの技術、否、常識のないのは、素人に話しするのも同樣である、十五年も昔はいざ知らず、暇なからと云つても、不必要な※字は省くのがよい。然るに近來はむつかしく

無暗みと書き立てる　と、物知りの如く錯覺的に信用を博するので、更に得意然とする、鐵筋の仕樣を見ましても、炭素がどうだマンガンがあーだ、彈性があるとかないとか、で忙しいのに三頁も四頁も書いて、結局最後に六萬封度とある、セメントにいたしましても又前同斷、仕樣書の頁が餘り少ないのは金も取り惡かろーが、全くつまらぬ事である、幾萬本も使ふ鐵材の一端を、五度や十度試驗をして見た所で何になると思ふ、セメントにしても然りである、幾千樽の內から抜き出して、强度がよいとしても夫れは幸ひ强い樽であり、よい釜の分であつたら、試驗漏れの惡い部分は、ごないする積りかと云ひ度くなる、筆者は御すゝめる、安神の出來るセメントなり鐵材を採用したらそれでよい。尤も人間のくせとして色々な表を作つて手柄顏に見せたがるものであるが之も、能率增進を唱導して先驅者には充分の猛省をを促したい。之は惡口ではない。

農務省なども大體よく　ない、幾千の需川家が一々試驗をせねば、安神の出來ぬ樣なセメントなり、鐵材を市場に出さすのがよくない、輸出の琺瑯品の如く檢査官を派遣して、合格品を市場に出しA鐵は幾萬Bセメントは幾百と相場を定め需要家は安んじて、其好む會社の製品を採用する樣にすれば國民經濟から申しましても、誠によい事と思ふ。建築法が出來て、只强度の範圍を示しただけでは、不徹底極はまるものである、大分脫線した樣であるが、電氣槌を使用して混凝土を搗けとか、四百坪もある建物で百立坪以上もある、一階を側壁三尺づゝ打ちつゝ、一週間や十日間に打上げよと云つた風な出來ない事は世の中の爲めだから、書かない樣に願ひ度と希ふのである、隨分中には、何かのついでに出來た樣な仕樣を、金科玉條の如く考へて、如何なる名案も排斥して結果失敗しても、惡かつたとは反省しないひどいのもある。現場監督上責任觀念がない事は既に申しましたのですが、設計者なり技術者は、施工者の忠言を入れず

已れの言ふ通り　すりや善いと放言しながら、施主なり、設計者が見て、斯んなばかな事をすると困るじやないかと、文句を施工者に言つても『其れは實は此方から申し付けたのであるから』と申し出るだけの勇氣のあるのは曉星よりも少ない、よしや施工者の過失でも私が惡いんだと、其罪を引取る位いの度量があつたら其處で始めて感激して、意氣に感ぜしめる樣になるものである。文句があるなら已れに來いと云ふ位いの彈力があつて欲しいものだ。支給品のセメントが餘りそうだと無暗に使用し、又不足しかけると、節約の度を超えてやる。大體職務に對する

信念が確立して居ない　技術者と云ふものは、事務所であつても、請負側であつても、監督も被監督も別はないボラない様損をせぬ様、汗を流して共に努力せねばならぬのに、仕事は請負人のする事だと云ふ態度、人が一生懸念やつて居る傍でシガーをフカして文句を云ふ、堰板を取つて悪ければ呼び付けて小言を百萬だら云ふ、苦樂一如で施工中に滿身の誠意を集中し指導すべきである、人を使ひ尊敬せられる地位にあるものは、善いに付け、悪いに付けて其責に任ずべきである、結果が悪いからと云つて、極力他人を攻撃して我關せずと云ふ態度は、よろしくない事であります。重ねて云ふ、言ふ事よりも行ふ事である、相當の工事をやろうと云ふ確信を持つ者は、讀み聞かせなくとも知り抜いて居る三才の童兒よく知ると雖も八十の老翁尚行ふあたわずである。

技術者と信仰　仕事は賣出しで東奔西走に日もたらぬ程盛大でも德望がないのは悲しむべき事である、總てやる事が卑劣で人に接するに道をわきまへず、人物なり其人の性格を見るの明がなく仕事本位でやると排斥をする、夫れで純眞にやろうと云ふ者でも自然、横着になつて來る筆者をして云はしむれば經驗と云ふ事は、段々横着になる事である。技術のみでは立派な仕事は決して出來るものではない、信仰のない技術者は兎角無駄が多くて益がない、信仰ある人格の士は『御苦勞である、充分の努力を賴む』と、笑いの間に喜びと感謝で人を統御する、之に引き替

信仰のない者　は、不作法で雜談がなく重要な交渉中にも契煙をする、又他人の講演中二三十分の間すら自制する事なく煙をふかす事は平氣である第一大酒で遊ぶ事が大好きとある、或大博士は請負人と建築士の人格には大分段があるさへ信じて居られるだが御自身も、技術を研くと共に信仰的であり度い本能、感情、疑心、理性共信仰に依つて、人格の向上をはかり、共存共榮體の一人として美しい心持ちで人間味を多分に備へて僅かの一生を光輝あらしめ度いものである、御斷りして置き度い事は、技術者と云ふ言葉は、建築に從事する一切の者を指すのである。即ち官吏も建築士も顧問も監督も請負事業に從事する者も

自覺生活

烈しい機體の動搖で幾分ヒステリックになつて、悪い方面のみの見えて居たが、風も止み空も晴れ渡つた日本帝國を見渡す時、有難い事だ、氣も亦冴えて來た。日本は決して心配いらぬ。見渡す所、自覺生活者が至る所で現今の時代的重患を治療すべく努力せられつつある事を思ふ時私は涙なくして居られません、ごんなに悪い思想が入いつて來ても、決して心配はないと斷言する、何故ならば悪思想の數が增しても、之を感化して行く自覺生活者の力の增大する方が更に大きいからである。今更自覺生活者の說明も必要ない事であるが、人格あり信仰あり人情に厚く、道を尊び何事に對しても寬厳宜しきを得て過らない夫れでこそ魂の籠つた立派な建物が出來るのである、自覺生活者は、豫算に對しても、確信を持つて居るが故に、無節制な低額を排斥して、資本家に向つて自己の有する主義を主張して、安くうつてもやると云へばよいじやないかと云ふ様な、輕卒な事を言はさない、若し夫れでもと云へば責任ある監督は出來ぬと辭退する迄の信念である、何と云ふ尊とい事であらう。

（つゞく）

追分の民家

會員　津田鑿

中仙道追分……追分節の名所とのみ聞いて居つたが民家は更に驚嘆すべき收穫であつた先年輕井澤附近の民家を少しく研究して沓掛迄に及んだ其の時縣道を順次小諸迄調べて見たなれば定めし有益な材料が得らるるであらうと考へ其の第一着として本年先づ追分に足を踏み入れた次第である。

輕井澤附近の民家は單に茅葺と柿葺に石をのせたるものを主とし瓦葺は稀である。

追分の民家は僅々十町に足らぬ、町の西側に過ぎないが何れも極めて風佳な造り方である。そして良く揃ふて居る。ざうか此處計は今後ペンキ塗りの理髪店や色硝子戸入りの唐物屋を建たせたくない瓦葺が八分を占め其の瓦はざうして燒いたか調べたいもので極めて古風なもの、蓋し最近のものでない事は想像がつく、しかも永い間風雨に露され苔の着いた具合は又一層風致を添へる。

街道に面して平入りが多い最も本母屋より庇しをざれも出して居る其の勾配の緩い具合と切妻の梁を上部丈け、賑かに強く表した點共れより以下は三尺間の柱内を塗壁として面白いのは二軒丈け、何れも西側を防火用兼化粧として漆喰で塗り潰してある東側は下見板張りで風雨の強く當る爲めであらう。

二階を張り出すことは到る處で見らるゝが特に調子よく施工されて居る軒の出が左右前後に三尺以上多く木部の材料が何れも太く厚く丈夫に取扱われてあるのは重々しくて氣持ちがよい平入りの構造に特に切妻の部分を添へた構へがある二階と平家の取合せに具合の面白い例もある茅葺は丸太の棟押へ千木をのせて居るのが嬉しい貳階下の廂の上に煙出しを取付けた工風本陣跡と稱する油屋立派な構へで參勤交代時分の隆盛を漫に忍ぶに足る。

追分の民家はいつ頃よりざうして建て始められたか更に調べて見たい信越線追分驛から此の街道に新らしい道が出來た俗惡極まる文化的の安普請が建て揃ふ事であろう。これは現に八十の高齢者A氏の嘆き丈けではない如何にも寂たり落付いた昔其儘の追分で置きたい。

◇　◇

追分民家寫眞說明

(一)は千木のある茅葺と脊板の下見

(二)は刈込みある茅葺に丸太棟押

(三)は丸太脊板下見に張り出し貳階ある駄板葺屋根の軒出多く材料の肉厚きは極めて心地よし

(四)は多少近代化したもので薄ぺらの感あれども妻の梁受けは面白し

(五)は妻の上部を強く飾りたるもの瓦葺にて落付極めてよし

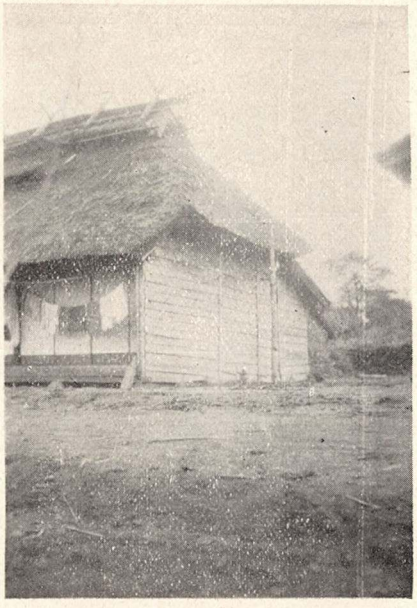
六は屋根の永き換氣口妻の柱間の塗壁味あり

(七)は只一軒の妻入り中二階の明取り窓軒先等實物は更に重みあり

(八)は妻を塗り潰したる袖及び小屋根あるもの此の附近には只一、二數ふるに足るのみ

追分の家（其の一）

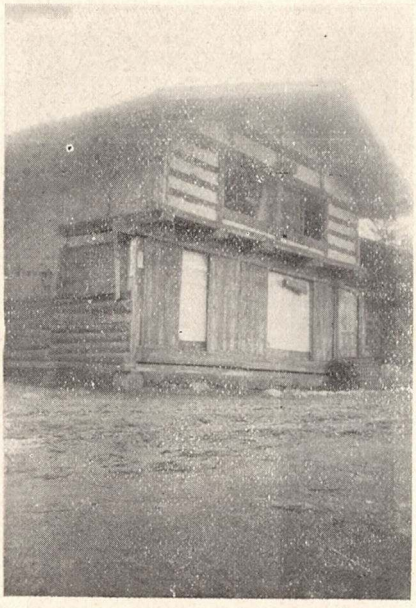
（1）



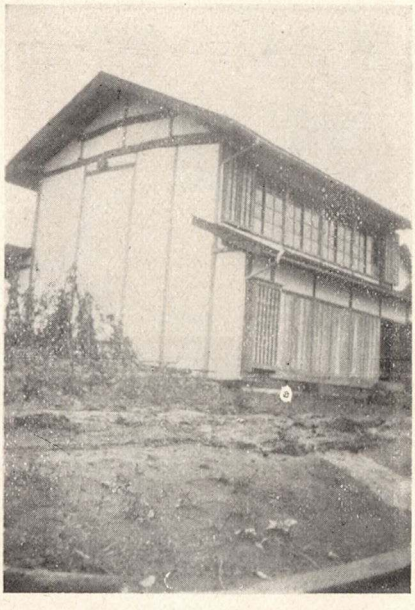
（2）



（3）



（4）



追分の家（其の二）

（5）



（6）





（7）



（8）



カミロ・ジッテ（下）

―都市計畫家銘々傳の四―

藤田進一郎譯

三

シツテに關する解釋のいろ〳〵にわかれてゐるのは、その著書のうちには、明かに矛盾と認められる、要素の含まれてゐるからである。ローマのセント・ピーター寺院と、その廣場の眺めとが、口繪として挿入され、その一般計畫の説明に、一頁も費されてゐるに拘らず有名なピーター寺院の廣場(Piaza di S. Pietro)については僅か五六行の説明すらもなく、たゞ、それはあまりに大きすぎると、簡單な概評を下してゐるだけである。ジツテは、ローマの寺院を、片はしから數へて歩くほどの暇があつたものゝごみえ、そのうちの百十までが三方塞さがりに建てられ、六つだけが獨立して建てられてゐることまでも記してゐるが、ミケランゼロの設計にかゝるといひ傳へらるゝカンピドグリオの廣場(Piaz adel Campidoglio)やポポロの廣場(Piazo del Popolo)については、たゞその名を擧ぐるに止め、設計には、一言も及んでゐない。これらの事實から推して考へると、ジツテは、イタリア式不整形廣場の設計には、何等の鑑賞力をもつてゐなかつたうである。またフランス式の設計にも、至つて冷淡であつた。フランスは、ドイツ人の調査によると、現在都市美術の一大寶庫と認めるべきであるが、ジツテは、模倣すべからざる先例として、リオンから三つ、マルセイユから三つ(このうちの一つはニームのもの)を特記してゐるにすぎない。かれは戯談半分に、レンヌの住民は非愛國者であるといふ證據を引用し、その直線街路に對して感謝の念をさゝげてゐる。かれはまたシヤン・ド・マールや、シヤンゼリゼーは、大きい廣々とした通りであるとはいつてゐるけれども、行き詰まりの終點に記念碑をするゐた街路は、たゞこれを部分的にのみ賞讃し、その改造について、恩惠的に僅かに數行の獻言をしてゐる。

ヴオスゼや、ヴアンドームや、コンコルド廣場については一言もせず、ボルドーや、ナンテや、ランスや、シヤル、ヴイールの美しい廣場をも全然默殺し、ヴエルサイユや、ナンシーに對しても、知らぬ顔の半兵衛をきめこんでゐる。かれはまたドイツの中世における廣場の小設計を出版してゐるが、それが不統整であるがために、何ものも望ましきものを殘さず、また寺院や市役所は『善き古き統整』("Gute

alte Regel")を追隨して決して周圍から獨立して自由に建てられてゐないことを示してゐる。かれはカルスルーへの基盤目と、扇形の計畫とを批難し、ウンテル・デシ・リンデンの名だけは擧げてゐるが、ゲンダルメンマルクトまたはパリゼル廣場を說かず、エルランゲン、ラスタット、ダルムスタット、ポツツダム、カルスハーフエン、ルドウィツヒスルストその他多くのドイツ都市に表現された優秀な十八世紀ごろの都市計畫は、全然これを考慮外においてゐる。

ジツテはその著書の至るところにおいて、極めて明白に、非形式的("Informal")な設計を辯護しかつ賞讃してゐる。彼はいふ、不統整なサンタ・マリア・ノヴラの廣場 (Piaza Santa Maria Novella)は實際に五つの側面をもつてゐるに拘らず、多くのものは四つの側面をもつてゐるものと記憶してゐるが、ルネツサンスの設計者は、こんな思ひつきを嘲笑するであらうと。かれは、側面の數を一目して間違ひなしに觀取し得るやう、明確な印象をもつたやうに設計されなければならぬと考へたのである。

しかも、連りに非形式的の望ましいこと、並に形式的("Formal")計畫に伴ふ理解の不足なことを指摘した後、ジツテは濟ましこんで、十七世紀及十八世紀の優秀な廣場設計をもつて、全卷を滿すことができると平氣でいつてゐるのである。それらの廣場の設計者が、ジツテの中世紀的寶物に對して、單に寬容な輕侮の念をもつてゐるといふことについては、かれは何等の痛痒をも感じないやうである。古代の事業は、たしかにその方法において美しくあり、その鑑賞は、決して、形式的なルネツサンス式設計に對する憧憬とは矛盾しないのである。しかしながら、現任の都市計畫を改善しやうとして、十八世紀頃の事業をもてはやしつゝある批評家が、十四世紀若くは夫以前の時代からさつた多くの實例を選擇するのは、いかにも諒解に苦しむのである。

恐らく、かれの著書の前半を滿した材料は、殆んど全部非形式的であるといふ事情のうちに、光明があるのでもあらう。形式的なものをも寬容しやうとする態度は、その後、人間味のない幾何學的設計を排斥する議論のうちに、主として現はれてきたのである。多分ジツテはかれの周圍に建設されつゝある生命のない丁字形の廣場の缺點を是正しやうとして、圖案式の計畫を立てたときには、形式的な事業にも立派なものゝできるといふことを發見したのであらう。しかして、ジツテは、古代の非形式的事素の點に打たれ、その當時一般に賞讃されてゐた形式的構成の智的要素の特徵を、まだ認むるまでに至らないうちに、自己の個性を、それに融合させてしまつたらしくもある。われ〳〵はジツテは書家であると同時に建築家であり、しかして一八八〇年代のドイツ建築家は、みな不整形設計を鑑賞し得るやうな人々でなかつたことを記憶しなければならない。ジツテは、當時の都市計畫家仲間で大流行の硬化した幾何學的統計を忌み嫌ひ、なつかしい古代のゴジツク風の廣場に隱れ家を求めたのである。かれはゴシツク風を愛好し一直線の對角線よりも、遙かに時代精神に合致し調和することを認め熱心なその崇拜者となり、それの代表者、豫言者としての樂しき役目を果さうとしたのである。かれは時を距てゝルネツサンスに叩頭したが、しかし同時にその心情はロツテンブルグに傾倒したのである。

ジツテの著書の成功は、つまり其非形式的な中世紀の例證にある。今日まで注意されずに來た不整形設計を參考にした點にある。ジツテは、古風な設計に熟心な一派の、首領をもつて自ら任じてゐたのである。

四

ジッテが自己の思想を説明するために考案した設計は、二三のものを除くほかは、みな形式的であるが、その著書が評判になり、いろ〳〵の仕事を委任されるやうになつて後に、實際に設計したものによるに殆んどすべてが非形式的であつた。マリエンベルグの設計（前回掲出第一圖參照）は一九〇〇年ごろにでき上り、『都市計畫』の第一卷に掲載されたものであるが、これは十年あまりの經驗によつて會得したジッテの主義原則を宣言したものと認められてゐる。

この計畫では、凡そ五十線ばかりの新街路が切り開かれてゐるが、その大部分は極めて短距離のもので、僅かに五六線ばかりが一直線の長距離通路である。密集家屋の建られる部分には、二三の長半徑の孤線があり、街路の多くは直線で、その終點が少しくカーヴしてゐるが、これは直角交叉を作らんがためである。分離家屋の建てらるゝ部分には、殆んどすべての街路は、長半徑のカーヴをゑがいてゐる。ある建築物の軸線に付いては、直線街路を作つた例しはない。二十個の小廣場も、他の三個の大廣場及び市場と等しく、悉く非形式的であり、公園に至つては、特にさうである。公會堂（ラタウス）は重要街路の歩道と並んで、その隅の方に塔をもつてゐる。（第二圖參照）これがもしルネツサンスの建築家であつたならば、塔は必ず建築物の軸線にあり、しかして建築物は必ず街路の軸線にあるやうにしたに相違ない。かうしてでき上つたところは、見た目は頗るきれいである。形式的の設計は、人をして、智的に獨立自由な空間構成のうちにあることを感ぜしむるに、頗る功みである。寺院の前面には、小さな打ち開けた廣場があり、擁壁によつて支へられてゐる斜面の乘馬道は擁壁の前を横ぎり、一隅において廣場の方へ曲がつていつてゐる。かうして作られた街角には、噴水がたつてゐる。全體の構成を見るに、同一の軸線のうちに二つの物體または地區を包含しないといふのが、かれの原則である。ルネツサンの設計者は、視差の法則によつて、近づきつゝある建築物からの距離を目測し、地區の廣さと、建築物の大さとの、印象を生き〳〵せしむるために、建築物の軸線に噴水や記念像をおいたものであるが、ジッテにはこの事實は發見されなかつたものらしい。なほまたかれの著書は、一再ならず『前景の作用』（"Perspectivischen Wirkungen"）に言及してゐるに拘はらず、かれは遂に目に接近した點から、遠方の建築物に至るまでの距離測定の寸法を送り返す方法としての前景の價値を會得することが出來なかつたものらしい。

マリエンベンブの都市計畫は、多くの點において優れてをり、特にある種の頗る透明な常識の現はれは、おなじ方式によつてたてられたいかなる設計よりも秀でたものにしてゐる。しかしながら、マリエンベルグの計畫をもつて、かれの著書のうちに連りにもてはやした不整形設計を追隨すべく理解し、希望したものとすることはできない。

ウィンナの循環道（Vienna Ring）の改造計畫は、最も世人の注意をひき、都市計畫に關する文獻中にも屢々引用される。（第三圖參照）その要領を概說するに、ジッテは、まづ、この循環道はあまりに打ち開けてをり、記念的建築物は、方々に、こりとめもなく撒きちらされて、相互位置に關しては、論理もなく、威嚴もなく、その圖ぬけた大きさまでも、十分に鑑賞されないと云ふ事を考へたのである。例へば奉納寺院（Votivkirche）は、その前面に大きな三角形を控へ、頻繁な交

通の光景と音響とに曝露されてゐる。そこでジッテは、セント・ピーター寺院の廣場に倣つて、新らしい(無論低い)建築物をその周圍にたてならべ、それによつて中庭を作るやうに提議した。尤もジッテはこの廣場に形式的な庭園を作らうとしたのは明かであるが、しかしこれは名案に相違なかつた。しかしてその中底は均整のとれたものではあつたが、寺院の側面と背面とには、甚だ不規則な連續した地區を設けることを暗示してゐる。この點においては、かれは可なり確かに誤まつてゐる。この種のことについては、神のやうな感覺の絶對性を備へてゐたミケランゼロは、セント・ピーター寺院のために、寺院の輪廓と並行するやうな線をもつた廣場を設計したのである。廣場の設計が、建築物の設計と相呼應するときには、廣場の壁は、市の他の部分からの建築物の認識を形づくり、いかにもそこが建築物にとつて論理的の場所であり、しつくりと落ちついてゐるやうに思はせるものである。しかもまた、建築物の集團に對して、釣合のとれた均整を形づくることができるのである。ジッテは縱に均整がとれてゐるからといつてはすべて横の眺めを切り捨てる。かれは形式的計畫に對しても、同樣のことをなしたかも知れない、しかしていかなる場合にも、若しも秩序と一定方向との感覺をもつてゐるならば、見た目の均整は、建築物の側面及び背面においては、決して必要缺ぐべからざるものではない。馬の側面觀は均整的にできてゐる。

ジッテはまた幅六百呎、長さ千百呎もある大きな地域の改造をも研究した。それには、側面に市役所と劇場とがあり、末端には大學と議場とがあつて、リング目貫の場所であつた。現在こゝには、舖裝道と芝生と、非形式的な植込の茂みとが一杯になつてゐる。ジッテは美的要素の不十分なのを見て、その改造意見を述べたが、それによると、その根本の缺點はあまりに廣々としすぎた點にあるといふので、市役所の前面と、劇場の前面とに一つ〳〵の廣場を設け、この二つの廣場を連絡するために、軸線の上に開かれて別々になつた、低い建築物をもつてし、大學と議會とを分離して、その各々に各別個の前庭をもたせやうとしたのである。

この計畫は、各建築物に、決定的に支配された空地を與へ、その個性を強め——産土神のために適當の位置——るものであるが、しかしこれには莫大の經費を要する。循環道の最も目だつた特徵は、寬濶な綠樹帶にある。是は迷宮のやうな舊市街に對して、頗る目だつた對照をなしてゐるのである。ヴィンナ人はこの循環道を心から享樂してゐる。こゝを遊歩するのは、單なる見え坊のためではない。ルネツサンスの設計家は、この廣々として餘裕のある事は、必ずしも粗野を意味しないと考へ、かつ、恐らく形式的造園によつて、その特質的價値を保存し強めることができると考へたであらう。

ポール・ウオルフはその都市計畫に關する著書のうちに、ジッテの價値は、都市計畫事業を、技術のうちから取り除いて、藝術の中につけ加へた點にあるといつてゐる。これ實に彼の偉大なる功績であり、原理原則をうちたてることはできなかつたけれども、われ〳〵は、いつまでもかれの功績を忘れてはならない。かれの時代は、實に繪模樣式と、傳奇的聯想との『自然と祖先』("Natur und den Alten.")の時代であつたのである。建築に關する原理原則を編みあげるよりも、むしろ、歷史的繪畫を練習し、古諺をグランド・オペラに仕上げる時代であつたのである。

＝次はワシントンの計畫者ランフアン＝

誌上講座

建築工事の勘定と事務

(1)

由良基夫
中島智喜

建築工事施工者にとつて工事費の勘定は實に重要な事であります。此の勘定を正確で簡易で、而も秩序正しく整然と記帖して一目瞭然たらしめん爲には各國の請負者とも色々苦心して居ります。然るに工事費の内容は、直接費と間接費に分れ、材料代と工賃と材料持ち工賃とあり、更に細別すれば工事別となり職業別となり、人名別となり、且つ之等は月日を追ふて增減されるもので、甚だ複雜なるが故に事務の處理方法も亦甚だ困難になつて參ります殊に現代は、過古の他人が施工したる工事の實例を以つて來るべき工事の豫定に資する爲めに記錄を尊ぶ時代であるから、昔の樣に自分の體驗による記憶だけでは行けません。どうしても勘定も記帳も組織的計劃的なものでなくてはならぬ。近來日本に於ても此の方面の研究が隨分進んで參りましたが、歐米ではもつと進んでゐる樣であります。で其の道の方の御參考にもなれば結構と思つてデインゲマン氏の『建築工事の實用的勘定法と事務方法』Chas. E. Dingman's "Accounting and Business Methods for Contractors" とを飜譯して見たのであります。原著の緒言には『本書は斯道の初學者の爲め最も平易に建築實務及會計に關する概念を述べたものであるが、同時に經驗ある人々にとつても得る所が少くないと思ふ云々……』と書いてあります。勿論米國の施行體形と日本のそれとは大變違つてゐますが、多少お役に立つ事を信じます。

内容目次

第一章　出面計算
第二章　賃銀の支拂
第三章　手間の原價計算
第四章　材料の原價計算
第五章　工程表と工事日報
第六章　現場に於ける記帳事務
第七章　建築簿記の概要
第八章　損益勘定
第九章　得意先勘定
第十章　假拂及び預り金勘定
第十一章　購買
第十二章　指定品に對する購買
第十三章　購買手續

第十四章　下請契約
第十五章　書類整理法
第十六章　各種の書式
第十七章　保　險
第十八章　銀　行
附錄　A　契約書式
附錄　B　參考書

第一章　出面計算　(Time Keeping)

出面計算の第一の目的は使傭せられる者の所得額を計算するにある併し之は其目的の一つに過ぎないものであるが、兎も角今日迄この意味に於てのみ用ひられて居る。

然るに現在に於ては出面計算を以て單に被傭者の所得を決定する計りでなく更に之により仕事の各部に對する手間(勞銀)原價の計算をすることに、漸次應用の範圍を廣められ而も夫れが一般的の傾向となりつゝある。

出面計算の進歩した所では一定の動作を行ふに要する時間の研究をして居る。この方法を特に時間研究(Time Studying)と稱する。時間研究は能率技師(Efficiency Engineer)又は管理技師(Management Engineer)等の專門家により採用せられ工業上幾多の無駄を省き各工場に於ける生產能率の增進を計るものである。建築業者が時間研究によつて凡ゆる基數(Data)を蒐集し將來工事費見積の基準にすることは非常に有効である。然るに從來の出面計算を變じて時間研究をすることは一般に採用されて居ない。その理由は獲る所の基數は頗る價値のあるものであるが、如何せん之が實現には莫大の經費を要するからである。實際上相當の建築工事になると種々の正確なる基數を求めんには少くとも一人の專任者を設けて附切りでやらねばならない。加之世話役は生產的方面に注ぐべき時間と努力を事務的の仕事にとられる不都合を生じる。これは出面計算及原價計算の組織上禁物である。尙この事は後段に述ぶる所があらう。

勞働時間の記錄　賃銀の支拂は一般に出來高拂をなさず凡て使傭せる時間を以て支拂の基準とする。普通一時間を以つて賃銀計算の單位とする。時間の計算及記錄の方法は工事の大小、組織又は仕事の性質によつて異るものである。大工事では職工の入場を記錄する爲に記錄時計(Time Clock)が屢々用ひられる。記錄時計による記錄は仕事の分擔責任者たる世話役により檢查せられる。或る場合は出面係(Time Keeper)が定時に現場を巡回し記錄の正否を確かめる。又記錄時計の代用として金屬製テェック(Metal Checks)を用ふることがある之は非常に便利な方法であるが著者の個人的經驗では決して滿足とは言えない。兎に角一時の間に合せとして整理上有効である。

著者が初めて建築工事に從事した時は出面計算の責任を負はされ一日數百人の職工の時間記錄を取扱つたものである。併し其當時は一册の時間記錄帳(Time Book)の外何物も必要がなかつた。又其後入つた會社では證明票(Identification Card)を用ひ其次の會社では徽章(Badge)を用ひて整理することが出來た。以下參考迄に此等の方法

第一圖　時間記錄帳の頁

週末　年　月　日

姓名	金	土	日	月	火	水	木	時間延	賃率	計 弗	計 仙	

に就て少しく說明して見よう。

時間記錄帳　此種類の帳簿の最も便利なものは柔軟な表紙の附いた横四吋縱六吋四分の三のものである。一頁には大抵二十名位の姓名を記すのが適當で四十名以上にするのは實用的でない。この型の帳簿は一寸片手に持つて記入するのに好い加減の重量を有し且日常はポケットに仕舞つて置くことの出來る簡便なものである。價格も低廉であるから一週間毎に帳簿を改めても差支ない。仕事は各種類別に頁を改め又は帳を別にするがよい。これは各仕事の原價を混同せぬ爲である。

帳簿は先づ最初の頁を工事主任、出面係其他工事の一般的關係者の記入に宛て其の次の頁より職工の種類別例へば土工、手傳、大工、煉瓦工等により一頁宛使用する。各職工中世話役の姓名は一番上に記入する。

記錄の順序は先づ左方の頁の相當箇所に職工名を記入する。次に假りに就業時間を午前八時として職工が午前八時以前に仕事を始めたときは其職工の時間記入欄の左上隅に其就業時間7.00又は7.30の如く記入する。午前八時には出面係が現場を一巡して正規の時間に就業した職工の時間記入欄左上隅に8.00又は調査符標の印(點)を記す。出面係は職工の欠勤せることを發見した場合一應世話役に聞き事實欠勤せることを確かめて置くことが必要である。之は職工が往々出面係の氣の附かぬ所で働いて居ることがあるからである。遲刻せる職工に對しては其到着時刻を記入する。正午前には更に一回現場を巡回し就業職工に對し調査符標の記錄をする。若し途中退場者があれば世話役から退場時刻を聽取し其の日の勞働時間を計算の上時間記入欄の中央に大き

く記入する。時間の單位は工事場により¼時間とするものがあるが普通½時間を以て最少單位とする。欠勤職工の時間記入欄には横線を引く。午後の作業開始の時にも一回現場を廻る。終業時間には最終の巡回をする。終業後は各職工の勞働時間を計算し記入欄の中央に記錄する。

金屬製チエツク　金屬製チエツクを用ふる方法は種々あるが屢々本人たることを證明する一方法として用ひられる事がある。チエック使用の方法を述べるに、先づチエツクを大きな板に懸け職工の入場する所に掲げ職工は入場の際各自の番號のチエツクを持ち去る。而して退場の際はチエツクを出面係の窓口へ返却する。出面係は午前七時半乃至八時に持ち去られたチエツタを調査し入場職工を記錄し職工がチエックを返却する時再び記錄をなし勞働時間を計算するのである。併し乍ら以上の記錄は更に出面係が作業中に現場を巡回して調査するか又は各世話役が其受持の仕事に就てする報告と出面係の調査とを照合するかしなければ到底滿足なる結果を得られない。

記錄時計　この方法はチエックよりは明らかに進歩したもので職工の入退場の極めて正確なる時間を知る事が出來る。記錄計には新舊二形式がある。舊型は各職工の時間を時計中の用紙に水平的に記錄して行くもので新型は職工一人にカード一枚を使用する。新型では二個のカード函を設備し一方を入場用他を退場用に使用する。毎朝作業開始の前カードは退場用の方に入つてゐる。これを職工が入場の際取り出して時計の時間記錄口に挿入し時間の記錄をなし入場用の函に入れる。故にカード箱を一覽すれば何時にても職工の入退場の狀況を知り得る。カードは同時に各職工の勞働時間を計算する正確なる數字を供するものである。勿論如何なる工事と雖も實際の仕事に就て調査することは言ふ迄もなく必要なことで例令職工が入場しても仕事に着手せず躊躇逡巡して居ることは往々見かくる所である。

證明票　凡て時間記錄の方法は職工を調査する者が一一立止まつて質問する樣では到底駄目なことで須らく職工の姓名又は番號等を迅速に調べ上げる工夫が肝要である、或る者は數百名の姓名又は番號を記憶し又更に驚くべきは建築工事に通有なる職工の移動を悉く承知して居る者がある。併し之はむしろ例外に屬すべきもので凡て左樣な者許りであり得ない。故に一般にはこの目的の爲めに證明票を用ひて居る。この種の最も好い型はセルロイド製の白地に黒文字で記したものである。之は帽子其他の見易い所に佩用せしめ一々職工の働いて居る手を止めずに番號を知ることが出來る。

大さは少くも直徑二吋以上で裏面は安全ピン止めとする。一般に熟練職工は證明票を着けることを拒むので之は單に一般職工にのみ用ひられる。

パンチカード(Punch Card)　或る會社では職工に一枚宛パンチカードを用ひてゐる。カードには職工名、番號、賃銀締切日等を記し其他の部分はパンチで穴を穿けて其日の勞働時間を記錄する。出面係は毎日職工の面前で勞働時間に相當する箇所にパンチを入れるので賃銀支拂日になつて苦情の起る事がない、日賃銀支拂には此カードが支拂の證明書となり支拂の後は受取證に代るのである。併し乍ら建築工事に於ける出面係は可成多忙であるからカードにパンチを入れるこ

は別に人手を要する譯で此方法は一般には行はれない樣である。

米國では職工は大抵常庸であつて、職工の賃銀は直接工事請負人から支拂ふ事になつてゐる。けれども日本では下請人である親方を通じて各職工に支拂はれる、即ち請取仕事であらうと常庸であらうと、大工ならば大工の棟梁に向けて出來高又は標準日給で出面に應じて支拂はれ、親方は之を各人の技倆に應じて各人へ分けるのである。結局米國では日本の親方がする支拂事務を工事請負會社が自らしてゐる形である。だから米國の請負會社では日本のそれに比して厄介な仕事を一つ餘計に持つてゐる譯である。

賃銀は日本では日給であつて早出居殘りは日給を一としたる歩合で增してゐるが、米國は時間給である爲め、每日就業時間を調査せねばならぬ。それが爲めに出面調査は精細であるが繁雜である。

米國では職人五六人乃至廿人に一人のフォアマンが附くが、日本では一現場に一人、大きな現場でも二人位の世話役が附くだけである。以上の職工支拂形式、時間給及世話役の三つは日本と米國と大いに異る所で、之が現場事務に影響する所が甚だ大きいのである。殊に米國は時間給であるといふ事は社會的に見ても科學上から見ても實に興味深いものである。米國では人の勞力を高價に見積つた結果時間給制になつたものであらうが、時間給制の結果人間を機械扱で時間借りする樣になつてゐる。仕事の實量を問はないで時間さへ詰めて居ればよいと分時を爭ふてゐる反面に、タイムスタデーやモーションスタデーをやつて人間の勞働量や疲勞やを數學的に調査してゐる。之を科學的に管理法といつて世間中を噪がしてゐるが、人間の精神作用が勞働量を左右する事を沒却してゐはしないかと案ぜられる。日本の旦那——親方——弟子——の關係、日出より日沒までを一日とする日給、は決して見難いものではないと思ふ。

本文は日本の現場に於ては、職人の勸勉を督勵し實驗を査定する方便を探す事に僅かに參考になる事かと思はれる。然し日本の建築界も米國の如く變態文

第二圖　賃銀支拂帳の型

賃銀支拂帳

何々建築會社

工事契約番號　　現場名

週末　年　月　日

姓名	金	土	日	月	火	水	木	延時間	賃率	計		

明になるものとすれば、之れに先んじて我々は用意して置かねばならぬから大いに研究資料としての値打ちがある譯であるかも知れぬ。

第二章　賃銀の支拂

ペーロール（賃銀支拂表）の作成

前章に述べた時間記錄帳は之を永久的に保存する爲にペーロールに轉記せられる。少規模の經營では特にペーロールを設けず時間に記錄帳を以て代用せしめて居る。又時間記錄帳を二册用意して一册を賃銀支拂の爲め本店へ提出して居る間他の方を用ひ交互に使用して居るものがある。併し之は便宜上の問題で方法として最も良いのはペーロールを作成して本店へ報告し時間記錄帳は現場專用とすることである。

ペーロールは複寫式とすると現場に控を取ることが出來る。大さは從來可成大きいものが流行して居たが近來一般にレターサイズ（横八吋半縱十一吋）のものが歡迎せられ中にはレターサイズ半截のものを用ひて居る所もある。用紙の大さを一定するのは整理上非常に便利で此方面に要する經費は多少多くとも結果に於て相當効果のあるものである。又用紙を色分けとすると整理が早くつくものである。ペーロールは一般に白地の儘を採用して居る。

ペーロールには姓名、勞働時間及賃率を記入し之によつて賃銀支拂額を計算するのである。支拂額は別の人に再調査せしめる事が必要である。簡單な相違で支拂日に紛議を起し易いものである。殊に早出居殘の多い現場では紛議を避ける爲めペーロールの寫を職工のよく見へる所に揭示する。之により職工は每朝前日の勞働時間の相違なきことを確かめる。揭示のペーロールは賃率を記入せず。

賃銀支拂用の小錢の計算賃銀支拂の總額が決まると次に各職工に對し剩錢の要らぬ樣支拂ふ爲に必要な紙幣及貨幣の數量を計算するのである。夫には各紙幣及貨幣の種類即ち 10弗、5弗、2弗、1弗、50仙、25仙、10仙、5仙、1仙、と記した用紙を先用し之にペーロールの各職工の賃銀を順次所要の紙幣及貨幣の數量に配分する。例へば六十八弗九十三仙の賃銀であれば次の通りである。

種類	10弗	5弗	2弗	1弗	50仙	25仙	10仙	5仙	1仙
個數	6	1	1	1	1	1	1	1	3

この方法を職工全部に亘つて繰返し最後に總計をとり此金額がペーロールの總計と一致すれば間違はないのである。斯くして算出した各紙幣及貨幣の個數は各銀行に備付けの小錢內譯表(Change slip)に記入して小切手に添付の上銀行の支拂を受ける。紙幣及貨幣數量の計算はカルキユレーター型加算器があれば簡單にすることが出事る。

賃銀袋（Pay Envelopes）　賃銀袋に就ては別に言ふべき事がないが、袋の紙質の丈夫なこと、横開きより上開きの方がよいこと、袋の表面に職工の姓名又は番號勞働時間及賃銀額を記載すること等に留意すべきである。

受取書　賃銀支拂に對する職工の受取書は一般建築會社で徵取して居ない樣である。之は主として煩瑣な點からであらうが受取書を取つて置くことは將來職工から苦情の出ることを防止し且會計監査上の補助ともならうから實行を希望するものである。殊に現場が遠隔の地

第三圖　賃銀受取書

金額　　年　月　日

何々建築會社殿

自何年何月何日至同何日ノ

給料金何程領収仕リ候也

姓名

にある場合は本店で賃銀を支拂ふことが出來ない關係上受取書を取らないと如何なる紛議を現場で起さないとも限らない。受取書の種類も澤山ある。パンチカードが受取書に代用せられることは前章にも一寸述べた通りである。又賃銀袋に受取書を貼付することがある。この受取書には裏面にゴム糊を引き貼り付け易くし表面に職工の姓名を記入する。從つて賃銀袋の表の記入を省略することが出來る。賃銀支拂の際は之に職工の署名を求め勞働時間及賃銀受領の證明とする。場合によりペーロールの右端に職工署名欄を設けるものがある。併し之は各職工に各他の賃率を知悉せしむる欠點がある。

保險會社に對する報告　現在米國加州に於て殆んど强制的に職工の傷害保險（Workmen's Compensation or Employyers Liability Insurance）を附することを命じて居る。この保險料は仕事の種類によつて異るもので保險證券面に其一覽表が記載されて居る。又保險會社へ報告する爲めペーロールは保險料計算に便利なる樣仕事の種類別に配列せねばならぬ。

賃銀支拂の方法　職工に對する賃銀支拂の方法は工事の狀況により非常に異るものである。小工事では本店から人を派して賃銀を現場に持參せしめ職工に支拂つて居る。又別に支拂ふ者を定め本店員は之に立會ふことがある。相當大きい工事でも現場が本店に近接する所では此方法による。

工事が遠隔の地にある場合には現場よりペーロールを本店に送附せしめ之に對して賃銀袋を拵え現場に送附するか又は工事主任をして其地方の銀行に準備金の預金をなさしめ賃銀支拂に充當するか何れかに

第四圖　保險會社への報告書

何々建築會社

週末　年　月　日

合計の 3/5

材料

支拂金合計

現場主任

せねばならぬ後者にありては預金引出の證明こしてペーロールを本店に送附せしむ。之は同時に引出金補充の要求こなり本店では現場所在の銀行へ引出額に相當する金額を振込む。前者の方法によれば工事主任は平常手許に僅かの準備金より要しないが一般に賃銀支拂が遲れ勝ちこなり易い。從つて支拂日に支拂が出來ぬ不都合を生ずる虞がある。斯る事は出合帳場に於て特に愼重の考慮をせねばならぬ。

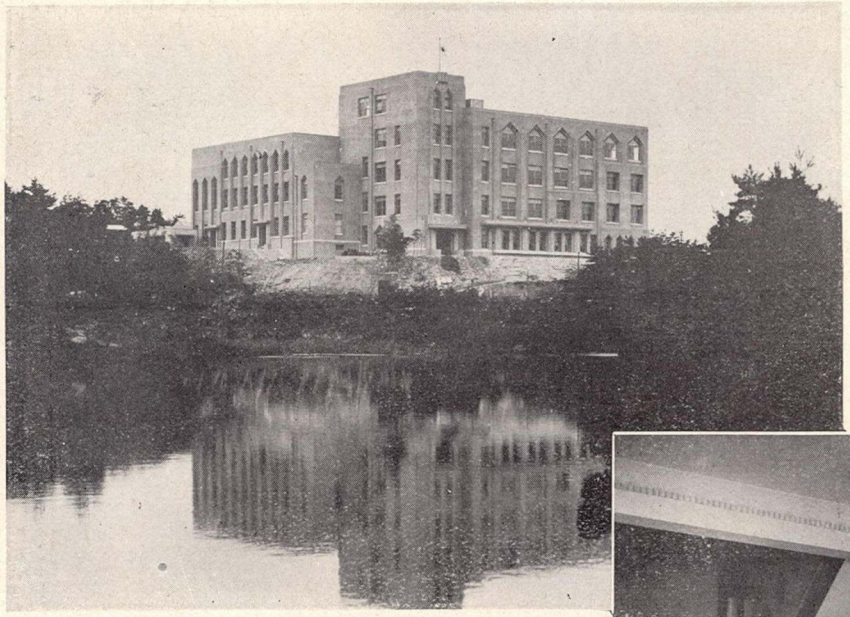
ペーロールの監査　信用ある先用人では間違が絶對にないこは言えない。況んや一般の從業員間に於ては尙更のこである。ペーロールに就ても再調を怠つたり間違つた記入をして居る事が屢々あるものである、從つて建築業者は責任者を派して現場を巡察せしめ出面其他を調査し本店への報告內容こ一致するや否やを監督せねばならぬ。

殘業は止むなく行ふ事はあるが概して經費倒れが多く推奬すべきものでない。

米國では工事總請負人が直接各職工に支拂ふからその支拂方法を本文で詳記してあるが、之は日本の所謂親方の採つて以つて學ぶべき所であらう。

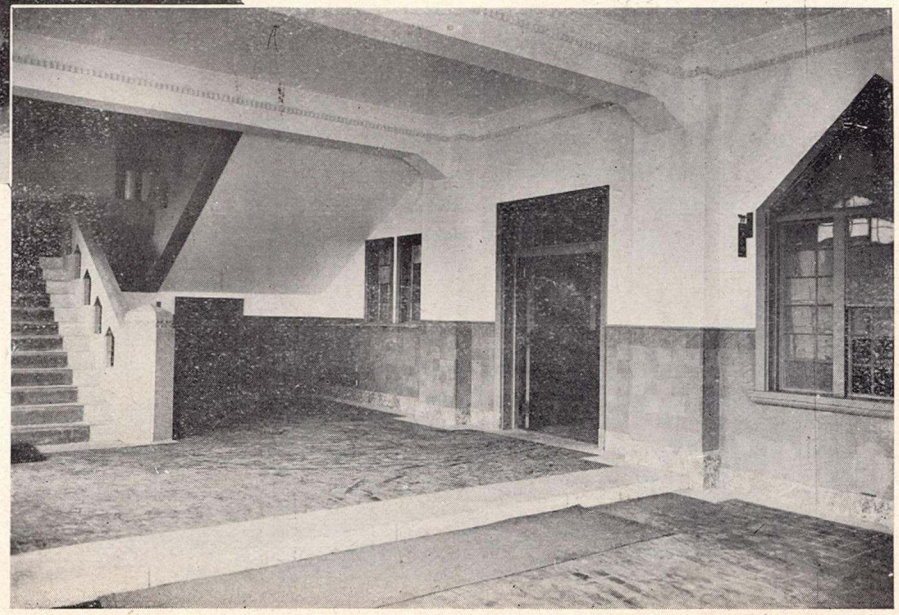
又米國は支拂日は毎週一回であつてそれ以外の日に職工が金の必要ある場合には現場が假拂してある。之も日本の月二回勘定とは大分習慣が違つてゐる。米國ではサラリーマンも週給である、之は安息日である日曜を生活の區切りとする習慣から來たものと思はれるが、日本の如く月本位の月給本位の國では職工も月末拂ひになれぬものかこ思ふ。

傷害保險は日本でも近く實施されると聞いてゐるが、工場法の適用問題と共に研究を要する事である。

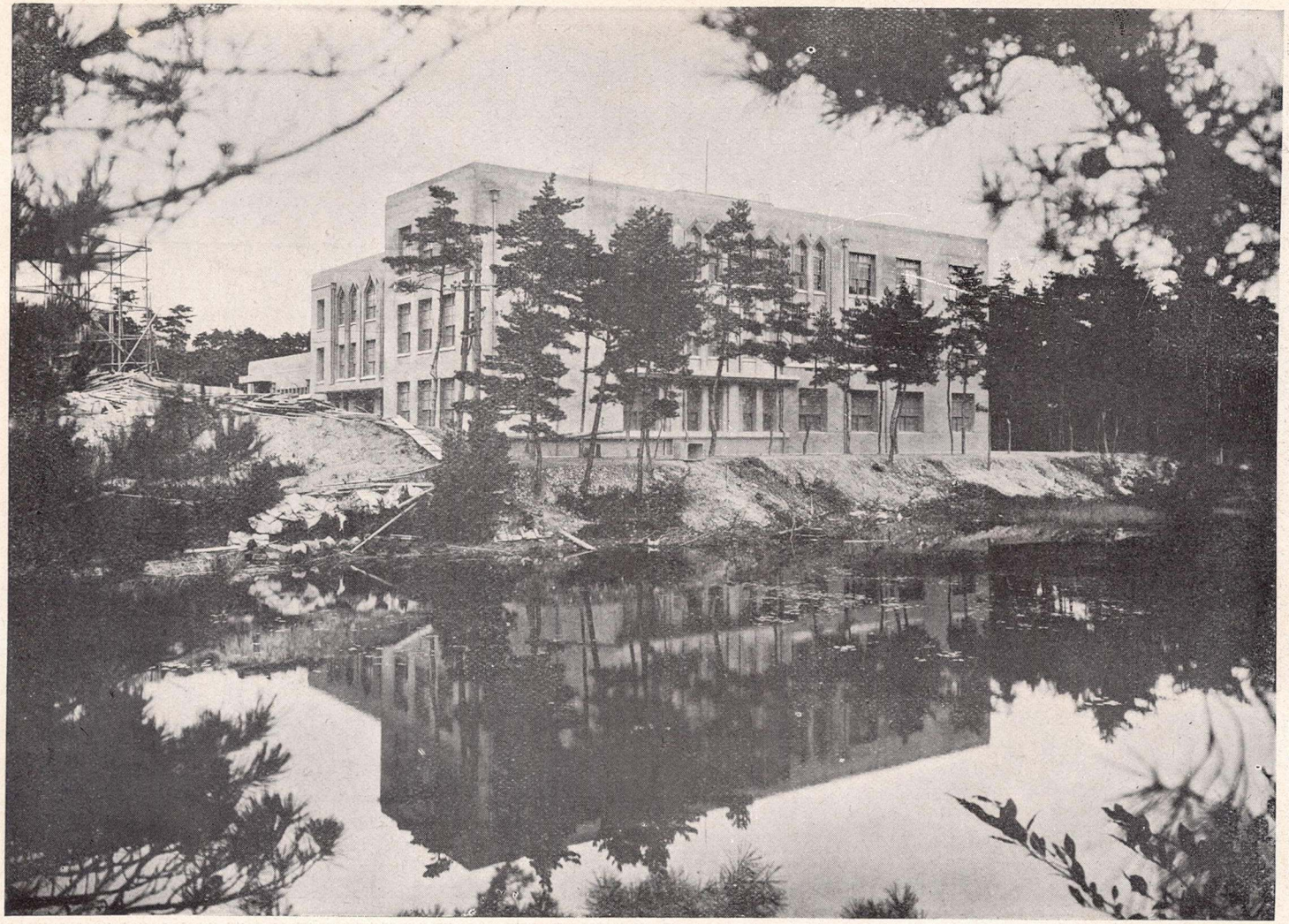


浪速高等學校

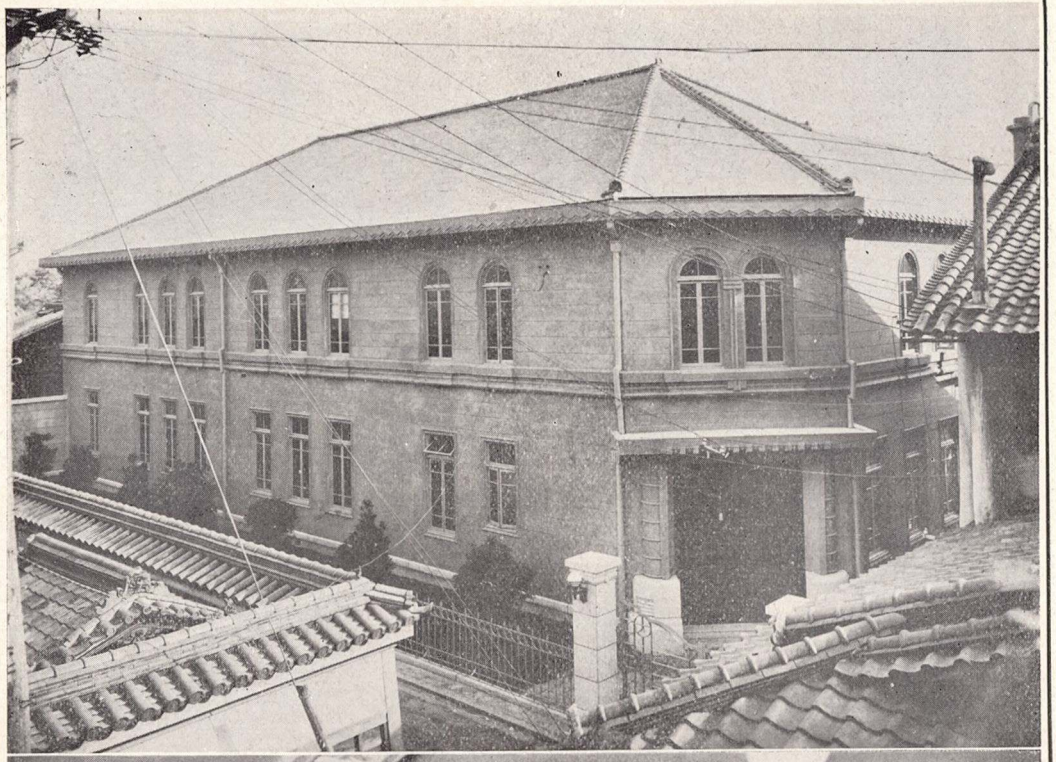
上・高　等　科
下・同　玄關ホール



設　計	大阪府營繕課
請負人	株式會社大林組
起　工	昭和二年八月
竣　工	同四年四月
工　費	七拾萬圓



浪速高等學校 尋常科





大丸寄宿舍

上・同別館正面

下・同講堂内部

設計者 建築士 岡部顯則氏



枚方菊人形館　本館鐵骨造平屋建・建築面積一千一百一坪

建築主　京阪電氣鐵道株式會社
設計者　建築士　岡部顯則氏

株式會社大丸男寄宿舍別館增築概要工事

一、位　置　大阪市天王寺區生玉寺町一二一六、一七、一八番地
一、用　途　別館　地階　下足置場、理髮室、物置、ボイラー室
　一階　玄關、ホール、教室、事務室、小使室、病室、便所
　廊下
　二階　講堂、教室、圖書室、讀書室、廊下
一、敷地面積　六百八十七坪五合六勺
一、建築面積　一百二十九坪〇合九勺
一、延面積　三百〇四坪九合七勺
　地階　五十四坪
　一階　百二十九坪〇合九勺
　二階　百二十一坪八合八勺
一、工　程　起工　昭和三年四月八日
　竣功　昭和三年九月三十日
一、建築樣式　近世式
一、軒　高　二十七尺
一、屋根勾配　六　寸
一、建物深サ　十二尺八寸五分
一、構造大要
　基礎　地階の部分は總堀其他は布堀とし割栗石地形を施しコンクリート打固めたり
　骨格　地階總體鐵筋コンクリート造一階二階は全部木造なり
　屋根　小屋は洋式登梁とし屋根は石棉盤葺なり
　外部　腰は花崗石粉末の擬石流出とし下部は花崗石の側石を廻し主壁は吉田砕石の流出塗なり
　內部　玄關及地階々段の腰は黃龍石張下足置場、便所、理髮室の腰はタイル張講堂、教室、事務室、別室、讀書室、圖書室及廊下の腰は全部羽目板張とし壁面は白色『プラスター』塗地階下足置場ボイラー室は『モルタル』塗『ペンキ』塗仕上なり
　床　玄關は『モザイックタイル』敷、地階下足置場理髮室及便所は『タイル』敷『ボイラー』室物置及小使室土間は『モルタル』塗其他は床板張小使室及火夫室は疊敷、教室を除く外總體『リノリウム』敷なり
　天井　講堂及玄關は白色『プラスター』塗石膏彫刻を加味し『ペンキ』仕上地階はモルタル塗其他は板天井『ペンキ』塗なり
　窓及出入口　外壁の窓は兩開各出入口は唐戶を嵌込み舊館との連續出入口には鋼鐵製捲上『シャッター』を取付せり
　階段　地階に至る階段は石造其他は木製『リノリウム』敷眞鍮製の扶欄を取設く
　正門及庭園　正門は鐵筋コンクリート造石張とし正面道路の境界には鐵柵を設け中央餘地高低を二段とし芝生、雜木を植込み庭石配置し風雅なる庭園となせり
　燄房裝置　アメリカ、ラヂエーター會社製アイデアルウオーターチユウブボイラーを地階『ボイラー』室に設置し同會社製ジョンソンオイルバーナーに依り重油を自働的に給油して燃燒せしめ以て『スチーム』をアイデアルクラシックラヂエーターに導く裝置とす
　煙突は獨立煙突なり
　衛生設備　便所は自働的シスタン附水洗式とし舊館南方餘地に取設たる汚水淨化槽に鑄鐵管にて導き汚水を自然淨化し清淨なる液體とし市設大下水に放流す
　電燈電力設備　配線は總て隱蔽式とし電燈八十七個『シーリングファン』七個差込『コンセント』八個活動寫眞用『コンセント』一個を設け動力用としては汽罐室に『オイルバーナー』用に半馬力を使用せり

工事關係者

設計監督　建築士　岡部顯則
　技手　宮崎王喜
工事請負　合名會社　竹中工務店
　現場員　松宮幸輝

附帶工事

給水、衛生淨化槽　藤田商會
燄房　山田文次工務店
電氣、配線器具　みよし組
庭園　珍花園

日本建築協會會報

役員會

○常務會

△日時　十月五日午後五時三十分——同八時
△會場　本協會會議室
△出席者　宗理事　野村理事
横濱主記　坪井主記　和田主記
浦主計　波江編輯　八木編輯
本間編輯　木村編輯
△報告
一、九月會計報告
二、展覽會決算報告
三、織、木材の關稅引上に對する協議會に關する件
四、建築職工講習會開催に付經過報告
△議事
一、秋季大會に關する件
各員の意嚮郊外見學と決し種々協議の結果左の通決定
1、場所　高野山見學
2、期日　十月廿七日及廿八日兩日
3、大會委員左の各位に囑託することに決定
伊東宗太郎君　池田谷久吉君
德政　金吾君　小川　久市君
呼子　正君　高木眞太郎君
久保田　厲君　白川　雄一君
二、人事に關する件
蔦田書記依願退職に付後任者決定
三、會品詮衡

委員會

○第一部(法制)第二分科會

△日時　十月九日午後五時三十分——同八時三十分
△會場　大同ビル、ライオン食堂
△出席者　高木主査
井原委員　古橋委員　佐藤松委員
三浦委員
△委議事項　一、劇場取締規則の逐條審議

○第一部(法制)第三分科會

△日時　十月十二日午後六時——八時三十分
△會場　大同ビル、ライオン食堂
△出席者　津田主査
村野委員　柳下委員　阪井委員
富士岡委員
△審議事項　改正日本建築士法案逐條審議第一條より第三條に至る

○第一部(法制)第三分科會

△日時　十月四日午後五時三十分——同八時
△會場　大同ビル、ライオン食堂
△出席者　德政主査
山脇委員　高田委員　須川委員
田中委員
△審議事項　建築工事請負規程逐條審議第八條より第十九條に至る

○第二部(教化)委員會

△日時　九月二十七日午後五時三十分—同八時三十分
△會場　大同ビル、ライオン食堂
△出席者　池田谷幹事
小川委員　松本委員　小西委員
姫野委員
△報告
建築職工講習會開催に付大阪市建築業協會、本協會聯合協議會の結果報告
△協議事項
一、建築職工講習會講師の件
二、同講師打合會日取其他の件
三、同時間割表作成の件

○第三部(資料)第三分科會

△日時　十月十八日午後五時三十分——同八時
△會場　大同ビル、ライオン食堂
△出席者　須川主査
森本委員　吉川委員
△協議事項
一、調査研究の大體方針決定し先づ次回より左の事項より調査研究開始することゝなる
1、工業品規格統一調査會に於て作成したる木材規格案に付先づ研究すること
2、市場賣品の名稱、寸法等調査すること

○第三部(資料)第四分科會

△日時　十月十五日午後五時三十分——同七時三十分
△會場　大同ビル、ライオン食堂
△出席者　下浦主査
三木委員　村山委員
松室委員長
△協議事項
一、調査上委員の增員に付協議し先づ內諾を得ることに決定
二、ペイント類調査研究の大　方針決定

○第三部(資料)第六分科會

△日時　十月九日午後五時三十分——同八時十五分
△會場　大同ビル、ライオン食堂
△出席者　阪井主査
井上委員　伴委員　城口委員
須賀委員
△協議事項
一、研究調査の大體方針を決定
一、當分科の調査研究すべき衛生器具其他を分類することに決し先づ七類に分ち尙各類を細別し表を作成の上尙次回に於て決定すること

一、衛生陶器類より調査を始め製造業者の意見を聞ふことに決定

○第三部（資料）第六分科會

△日時　十月十五日午後五時三十分——同七時三十分
△會場　大同ビル、ライオン食堂
△出席者　阪井主査　井上委員　伴　委員　城口委員　須賀委員　松室委員長
△協議事項
一、次回より衛生陶器類より調査を始むるにより當業者二名の出席を乞ふこと案文可決
二、衛生工業協會より調査報告書送附方依頼すること

○第四部（災害）委員會

△日時　十月八日午後五時三十分——同八時三十分
△會場　住友倶樂部談話室
△出席者　光安委員長　池田委員　谷田委員　鹽路委員　篠原委員
△協議事項
一、木造住宅耐震構造模型處分の件
一、地質調査參考資料蒐集の件
一、地質調査參考資料により調査研究

會合

○秋季大會委員會

△日時　十月十日午後五時三十分——同八時三十分
△會場　本協會會議室
△出席者　伊東委員　小川久委員　呼子委員　久保田廉委員　白川委員　横濱主記　坪井主記
△記事
一、横濱主記より秋季大會に付常務會の意嚮を報告夫れより協議に入り
一、先づ委員長を互選し德政金吾君當選同君は本夕缺席に付呼子委員座長となる
一、久保田、小川兩委員より宿舍、旅程、賃金等豫め調査したる事項に付報告あり之れにより通知文案作成可決
一、次で左の事項協議決定せり
1、寺其他の交涉は小川久保田兩委員に一任のこと
2、豫算の件
3、徽章の件
4、參加申込期限
5、次回委員會開催の件其他
6、寫眞撮影、後劇當等は次回決定

○建築職工講習會講師打合會

△日時　十月二日午後五時三十分——同七時四十分
△會場　大同ビル、ライオン食堂
△出席者　池田谷幹事　池田官講師　渡部講師　松井講師　下浦講師
△記事
一、池田谷幹事より講師囑託に付簡單なる挨拶を述べ今回の講習會の趣旨及今日迄の經過を報告
一、次で各講師は講義内容に付打合せをなし時間割講習科目等別表の通決定せり（別表略）

入會者

普　賛
永田鼎三君

退會者

會　員
矢田　鐵藏
富田　宗七
中村　鎭君

轉勤轉居

會　員
矢田　鐵藏　府下三島郡高槻町大字高槻四七〇
富田　宗七　京都市外深草七瀨川南一丁目五一五
南　信　兵庫縣武庫郡精道村芦屋字井ノ尻一〇六五
佐藤　節雄　兵庫縣武庫郡今津町津門字西ノ口九〇六
竹谷德治郎　兵庫縣武庫郡今津町二一五
地　會
新阜　隆次　大阪市東區神崎町二〇
坂口　正雄　兵庫縣赤穗町加里屋小學校前
石田　信夫　福岡縣小倉市古船場五丁目八四
特　賛
平尾　善保　神戸市中山手通六丁目二七
普　賛
小林市太郎　東京市小石川區原町三一日進館
大野　竹一　東京府下大森入新井町不入斗一九九
北村　久男　兵庫縣武庫郡精道村打出字一本松二〇ノ一
松山　愛三　廣島市八丁堀福德生命支部建築場竹中工務店出張所
八木　盛二　西區靱下通一ノ二三
宮崎　加平　住吉區天王寺町　宮崎建築事務所

寄贈雑誌

電氣評論 每號 其 社
都 人 每號 其 社
學士會月報 每號 學 士 會
建築世界 每號 其 社
朝鮮と建築 每號 朝鮮建築會
セメント界彙報 每號 日本ポートランドセメント同業會
住宅 每號 住宅改良會
建築雜誌 每號 建築學會
工 政 每號 其 會
經濟資料 每號 東亞經濟調査局
土木建築 每號 其 社
建築新潮 每號 洪 洋 社
大阪工業俱樂部 每號 其 部
通俗衛生 每號 大阪府衛生會
帝國鐵道協會報 每號 其 會
工業評論 每號 其 社
電氣學會雜誌 每號 其 會
鐵道軌道經營資料 每號 鐵道同志會
趣味ノ園藝 每號 關西園藝會
土木建築之日本 每號 其 社
工業ト社會 每號 東京工業會
工 業 每號 大阪工業會
滿州建築協會雜誌 每號 其 協 會
庭園と風景 每號 日本庭園協會
圖書室月報 每號 東京市政調査會
大阪工業俱樂部 每號 其 部
エンヂニヤリング 每號 其 社
工業要錄 每號 其發行所 同
名古屋工業會々報 每號 其 會
大 大 阪 每號 大阪都市協會
都市問題 每號 東京市政調査會
新 建 築 每號 其 社
京都の實業 每號 京都商工會議所
都市創作 每號 其 會
木材彙報 每號 同
建築學研究 每號 大阪木材協會
大阪土木建築業組合報 每號 其 組 合
木材新聞 每號 關西木材商報社
工業新聞 每號 其 社
日本建材新聞 每號 其 社
日本建築士 每號 其 會
東洋建材時報 每號 其 社
朝鮮鐵道協會會誌 每號 其 協 會
超科學 每號 其研究社
建築業協會々報 每號 其 協 會
建築畫報 每號 其 社
土木建築工事畫報 每號 其 社
工業之大日本 每號 其 社
動力之節約 每號 工場能率增進研究會

役員

會長 理事 評議員 片岡安
副會長 理事 評議員 宗兵藏
理事 評議員 野村一郎
副會長 理事 評議員 池田實
監事 評議員 松本禹象
主記 常務 評議員 坪井誠一
同 主計 常務 評議員 岡部顯則
同 常務 評議員 吉井長七
同 常務 評議員 浦英之助
編輯 常務 評議員 本間乙彥
常務 評議員 波江悌夫
常務 評議員 八木幸次郎
常務 評議員 木村寛一
評議員 池田谷久吉
評議員 大原芳知
評議員 小笠原錦
評議員 大澤幸平
評議員 大野直平
評議員 渡部圭告
幹事 評議員 谷民藏
評議員 高田利一郎
評議員 竹内綠
評議員 中島智喜
評議員 村上徹一
評議員 野呂長四郎
評議員 能村知二
評議員 久保田肇雄
評議員 熊澤榮太郎
評議員 松室重光
評議員 前田文二郎
評議員 小西一良
評議員 古宇田實
評議員 酒井勇三郎
評議員 境正一
評議員 佐藤彰美
評議員 阪井米吉
評議員 光安梶之助
評議員 樋口辰太郎
評議員 須川廉太郎

本誌定價表

冊數	定價	郵稅
一冊	七拾五錢	貳錢
十二冊	九圓	貳拾四錢

昭和三年十月廿九日印刷（每月壹回）
昭和三年十一月一日發行（一日發行）

兵庫縣武庫郡本山村字北畑
發行兼編輯人 薦田夏治郎
大阪市東區內淡路町一丁目七番地
印刷所 大阪活版所
大阪市西區土佐堀通一ノ一
大同ビルヂング
發行所 社團法人 日本建築協會
電話土四二六五番
振替口座大阪三九、九七五
大阪市西區京町堀羽子板橋北
特約販賣店 柳々堂書店
電話土佐堀二四四〇番
振替口座二二〇八四番

御購讀の向は本會直接又は特約店へ
振替又は爲替にて前金御拂込被下度
候

"ACME" UL TRAVIT-GLAS

"アクメ"ウルトラヴイット

(理想的紫外線透過窓硝子)

凡ゆる生物の生活に可驚活力を與ふる太陽光線中の紫外光線を多量に透過する理想的窓硝子



紫外線透過率試驗% (獨逸伯林國立物理工業試驗所)

波長	340	320	310	300	297	295	290	280	uu
ウルトラヴイット硝子	85	83	77	63	58	53	42	22	%
普通硝子	43	1	0	—	—	—	—	—	—

歐米諸國に於ては既に多數の病院結核療養所、養老院、保育院、動物園、農園、畜産場等に使用し更に進んで積極的に發育助長健康增進等の一般衛生的設備として家庭、學校を初め會社銀行等に盛んに利用され夫ぞれ驚くべき好成績を擧げて居ます折角御使用あらんことを

(御照會次第明細型錄送呈可致候)

株式會社

島津製作所貿易部

京都市河原町二條南

東京、福岡、大阪、大連、伯林、

建築事務所案内

（次第不同）

池田建築事務所

所長

建築士 工學士 池田實

所＝大阪市西區西道頓堀住友ビル
電話櫻川1144・3724
宅＝大阪市住吉區上住吉町174

建築設計竝監督

大阪建築所

大阪市北區中之島七丁目十七番地
河野ビルデング
電話土佐堀（特長二二八〇番）六一〇三番

パナエロアー・オフ・サイエンス カリホルニヤ州公認建築士
建築士 伊藤文四郎
建築士 熊澤榮太郎

大阪市西區土佐堀通一丁目
大同生命ビルディング第八階

橋本建築事務所

建築士 工學士 橋本勉

電話土佐堀九三八番

大阪市北區曾根崎中二丁目
第一曾根崎ビルディング第四十一號

建築設計監督 小笠原建築事務所

電話北二一五五、二一五六番

建築士 小笠原銖

住所 大阪市此花區西島町北濱住宅二一〇號
電話土佐堀三二〇四番

建築事務所案内

（次第不同）

大阪市西區靱南通二丁目
ユタカビルデイング三階K室

岡部建築事務所

建築士 岡部顯則（アキノリ）

電話土佐堀五三二三番

大阪市北區中之島宗是町一〇
中之島ビルデイング

和田建築事務所

建築士 和田貞治郎

電話土佐堀七三二三番

東京市丸ノ内郵船ビルヂング六階
電話丸ノ内23二九八一番
大阪市北區堂島大毎ビルヂング五階
電話北四〇六四番

片岡石本建築事務所

工學博士 片岡安
工學士 石本喜久治

大阪市東區高麗橋三丁目二八
千代田生命保險建物三階
電話本局二九六四番

横河工務所

工學博士 横河民輔
工學士 松井貴太郎
田中綱

建築事務所案内

（次第不同）

大阪市東區北濱四丁目五〇
電話本局三一三一番

宗建築事務所

建築士 工學士 宗 兵藏
建築士 須川廉太郎
工學士 大倉三郎

大阪市西區本田町通り一丁目四九ノ七
住友銀行川口ビルヂング四階十六號室
電話長西三四三三番

國枝工務所

工學士 國・枝 博

大阪市東區高麗橋筋二丁目
高麗橋野村ビルヂング六階

安井建築事務所

電話本局二〇七二番

建築士 工學士 安井武雄

建築事務所案内

（次第不同）

鐵筋コンクリート建築

設計監督計算

大阪市東區瓦町山口ビルヂング

増田建築事務所

工學士 増田清

電話本局 2673 3176

東京市本郷區本郷三丁目八番地

建築土木
設計監督

眞水工務所

電話小石川三九六三番

建築士 工學士 眞水英夫

工學士 野田六次

大阪市北區眞砂町四十一番地

眞水三橋建築事務所

電話北二〇四一番

早大工學士 松下由藏

太田正之

神戸市下山手通六丁目七六

電話元町二六七一番

設樂建築事務所

建築士 設樂貞雄

工學士 設樂貞三

支配人 木村梅次郎

西原式 汚水淨化裝置

專賣特許 第四二五九二號 新案特許 第四三二一號 第六一三五四號 第六一四二三號 第六〇七二號

弊所が本邦に於ける斯業の先驅者として大小數百ケ所に施工したる多年の經驗と研究の結果漸次改良を加へたもので構造の堅牢、工費の低廉、成績の良好、地積を要する尠なきこと等あらゆる特色を具備せるものであります。

國產優良品

パイロット衛生器具



C W 50 — A

洗面器、手洗器、流し類、和洋大小便器、浴槽等各種、

（御申越次第カタログ進呈）

我國にて始めて發賣せる組合せ衛生器具にて『持ち送り』『木捻』の類に至るまで全部取揃へ一組になつて居りますが金具類はすべて

合資會社ヤンソン製作所

また陶器類は

東洋陶器株式會社

の特製品で兩々相まつて外國製に劣らぬ優良品を皆樣に御奬め致します、續々御愛用のほど願ひ上げます。

本店 東京

西原衛生工業所

大阪市北區中之島五丁目三十番地

大阪支店

電話土佐堀三七一五八一番

京都市下京區萬壽寺通不明門東入

京都出張店

電話下一三四五番

營業所 名古屋

建築請負業者案内

（次第不同）

池田勘藏

大阪市北區曾根崎新地
三丁目拾三番
電話 長北一一五七番

大阪市東區農人橋二丁目十二番地
合名會社 **大阪橋本組**
代表社員 橋本政吉
電話 東一五八〇番 長一五八一番 東一七五三番

東京市麹町區八重州町一ノ一八重州ビル四階
東京支店
電話丸ノ内(23)四七八〇番 四七八一番

小倉市大阪町十丁目百廿二番地
九州支店
電話 長四三〇番

大阪市東區釣鐘町二丁目廿九番地
大倉土木株式會社
大阪出張所
電話東長 自三二一 至三二五 一三一二・六二五〇

建築請負業者案内

（次第不同）

ペンキ塗請負業

龜谷開作

大阪市北區鶴之町三十六番地
電話北六五四五番

足代（假設）
材料損料
鳶方（手傳）
工事負請業

中新

中川辰藏

大阪市北區曾根崎上一丁目
電話北㊦一五三番
東京市神田區猿樂町
貳丁目壹番地
電話神田(25)三〇五番
東京出張所

合名會社

竹中工務店

本店　大阪區堂島、堂ビル　北長八一〇
支店　東京市丸ノ內郵船ビル　丸ノ內(23)長一二五〇
神戶市熊內町六丁目　葺合　八〇六
名古屋市西區幾原町二丁目　長一八四二
京都市坊城通三條下ル　中二三八六
橫濱市花咲町十一丁目　一八八九
長者町關巷(三)

製作所　大阪市港區南境川町　西長　八〇四
東京市深川區西平井町　大手二〇四六

上西組

上西磯之丞

大阪市東區內本町一丁目一八
電話長東一八八番

建築請負業者案内

（次第不同）

株式會社

佐伯組

本店　大阪市港區市岡町夕凪橋畔
電話特長西一〇九〇番

出張所
福岡市外馬出上町　電話長二二四二番
大分市南新地　電話長三七〇番
熊本市相撲町　電話長三九四番
小倉市中島町　電話長六一〇番
宮崎市宮田町　電話長四〇六番
東京市京橋區木挽町九丁目三地

諸石材販賣彫刻請負業

（黃龍石（人造石用）石粉各種
幷ニ
一手販賣
（高島産鋳色（人造石用）石粉各種
（黃龍石材各種

通名石佐事

熊取谷熊次郎

本店　大阪市東區材木町七九
電話長東一六二六番
出張所　東京市下谷區上根岸四九
電話下谷一三二九番

白陽工務店

藤田辰三

大阪市北區曾根崎上三丁目三〇番地
電話北一一五六二三

久保田組

久保田種吉

大阪市東區神崎町五〇
電話東長三一八七番
三八五三番

建築請負業者案内

（次第不同）

株式會社 **松村組**

大阪市東區大手通一丁目二十六番地
電話東（長）二一七二番 二一七三番 二三五三番

東京本社
東京市丸ノ内仲十四號館十二號
電話丸の内（代表）二五五一番 二五五二番 二五五三番 二五五四番

藤木工務店

藤木正一

大阪市西區小林町七十五番地
電話局櫻川一五五八番

合資會社 **清水組大阪支店**

大阪市西區土佐報通二丁目二番地
電話局土佐堀（一六六六番 一六六七番）

（本店）東京
（支店）横濱、名古屋、京都、博多、京城、大連

特許ＯＲＣ式
鐵筋混凝土煙突 水槽 工事 設計 施工

合名會社 **大阪鐵筋混凝土工務所**

大阪市港區小林町一六三
電話櫻川局一〇八六・二六二二
神戸出張所 電兵庫一四六九
名古屋出張所 電南局一五九八

建築請負業者案内

（次第不同）

鑿井工事請負業

日本鑿泉合資會社

大阪出張所　大阪市北區曾根崎町太平ビルヂング
電話北三七七八番

本社　東京市丸ノ内中通三號
電話丸ノ内（二三）長一八六三番

名古屋代理店　名古屋市東區東新町萬歲生命ビルヂング四三號
電話東一四七一番

大阪市西區土佐堀通三丁目二四

合資會社 **錢高組**

電話土佐堀（長三四一七／三四一八）

東京市京橋區木挽町四丁目四

東京支店
電話銀座（四二九二番／長四二九三番／長二三四七番）

名古屋市中區新榮町三丁目二九

名古屋出張所
電話東三五一八番

横濱市高島町六丁目一二

横濱出張所
電話本局三〇七六番

大阪市東區京橋三丁目七十五番地

株式會社 **大林組**

支店　東京、横濱、名古屋、小倉
營業所　京都、神戸、
工作所　大阪、東京、

大阪市東區横堀四丁目四十三番地
電話本町八三四（本店）
櫻川一六七（工場）

石川屋

岡本工務店

岡本武藏
岡本新次郎
山中茂一

建築請負業者案内

有山組

大阪府東淀川區十三東之町

電話 自宅用 北二〇五〇
事務所用 北二〇五一

淺沼組

本店 奈良縣郡山町字今井 電郡山二五番
工作所 奈良縣郡山町字高田 電郡山二四一番
大阪支店 大阪市東成區東小橋町六ノ一四 電南二七九〇番
大阪出張所 大阪市港區鶴町四丁目一八二 電櫻川二九〇七番
製材部 大阪市港區小林町一九五番地 電櫻川二四五六番

大理石
鐵平石
萬成磨
工事及設計請負

大阪市此花區吉野町二丁目一六

合資會社 **山田大理石製作所**

電話土佐堀四三四二番

長尾新太郎
池上喜三信

御用ノ節ハ電話ニテ御一報次第御伺仕可候

建築請負業者案内

（次第不同）

株式會社 **鴻池組**

本店 大阪市西淀川區傳法町北三丁目壱
電話土佐堀（長二六二・四二一七）二六三・四二一八）番

支店 東京市京橋區三十間堀三丁目三
電話銀座（長一九九〇番 一九九一番

製材工作場 大阪市港區池島町二丁目五五
電話西七六八・長一五二三番

鐵骨橋梁鐵塔
建築金物請負

合資會社 **駒井喜商店鐵工部**

大阪市港區泉尾町七二番地
電話櫻川（六五八番 二八八六番

安藤組大阪出張所

大阪市北區堂島濱通
一丁目八五番地
電話長北四八四番

森本建築社

大阪市南區高津三番丁二番地
電話長戎二八一〇番

東京支店
東京市芝區白金三光町二五番地
電話高輪八一六七番



（佐久間建材工業所千住工場）



（佐久間建材工業所高田工場）

佐久間式マルエス印便利瓦

製造法式　特許第七四四七七號
製造法式　特許第七五六二七號

陸屋根地下室防水材料

佐久間式マルエス印

コンパウンド
パーマネントルーフイング
重下用紙
建築用紙
C印フエルト
フエルト
ルーフイング

御用命

三菱地所部殿
東京府庁殿
大蔵省殿
文部省殿
鉄道省殿
陸軍省殿
警視庁殿

久原鑛業株式會社殿
藤田鑛業株式會社殿
帝國ホテル殿
藤倉電線株式會社殿
富士製紙株式會社殿
慶應大學殿
南滿州鐵道株式會社殿

清水組殿
大林組殿
大倉組殿
安藤組殿
高組殿

橋本組殿
戸田組殿
竹中工務所殿
藤本組殿

（其他土木建築界各方面）



國産として優秀なる

佐久間建材工業所

所主　佐久間榮吉

東京府千住町三ノ三七〇番地
營業所　電淺草五〇六番
千住工場　電千住四〇二番
東京府高田町八〇四番地
高田工場　電淺草二五六番

東京工業試験所報告

品名	抗張力 縦	抗張力 横	水壓力 氣壓	加曲試驗 丸棒直徑	加曲試驗 廻轉度	加曲試驗 龜裂	試驗時期
佐久間式マルエス印中號ルーフイング	縱 70·5	橫 42.9	1.4	0·5	180°	生ゼズ	大正十二年四月二十六日
某船來一流(イ)ブライルーフイング	縱 53.7	橫 21.8	1.2	1.3	180°	生ゼリ	同上
佐久間式マルエス印中號ルーフイング	縱 74.4	橫 55.9	1.7	0.5	180°	生ゼズ	大正十五年二月十日
某船來一流(イ)ブライルーフイング	縱 80.3	橫 39.3	1.2	1.0	180°	生ゼリ	同上

（見本カタローグは御申込み次第贈呈）

ノ社進榮

戸火防上捲　シュッサルーチス
類戸鐵種各　機降昇動手



合資會社

榮進社

營業所　東京市京橋區南紺屋町十二番地
實業ビルデング三階
電話京橋(56)一、〇六三番
二、二二九番

出張所　横濱市山下町一八四　岩井ビル
電話本局(2)二、七一四番
神戸市平野下祇園町二三一番地
電話元町二、七〇九番

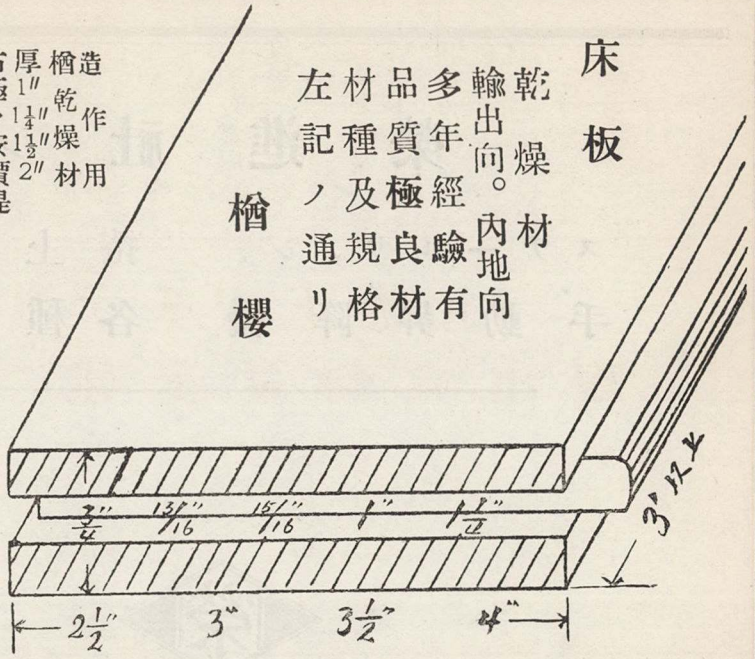
第一工場　東京府日暮里町日暮里三八番地
電話下谷(83)長一、〇二七番

第二工場　東京府日暮里町大字谷中本二五六番地

床板

乾燥材輸出向。内地向多年經驗有品質極良材材種及規格左記ノ通リ

楢　櫻



造作用
楢乾燥材
厚1″ 1¼″ 1½″ 2″
右極々安價提供是非當店へ御引合願上候

福原工場大阪販賣店

港區泉尾梅ノ町四丁目
電話櫻川一六七番

小樽市入舟町二丁目三十四番地

福原床板製造工場

電話二七二三、一二三
振口小樽二五六七

大理石工事請負

合資會社

矢橋大理石商店

本店　岐阜縣不破郡赤阪町　電話五

出張所

東京市麹町區八重洲町一丁目九ノ内十號館五號　電話丸ノ内四六三九番

大阪市東區北濱四丁目二十二番地　電話本局㊄五三一九

京城府光化門通一九〇

御挨拶

弊所は元ソリデチット工業所として製品は日本化學産業會社より三井物産會社に一手販賣を托し居候處今回都合により前社と解約し淺野物産株式會社に直接一手販賣を托し同時に製品の改善を期し價格を低廉に一般御需用家の御滿足を得申度舊に倍し御引立御愛用之程希上候　敬白

尚所名を淺野化學工業所と改稱仕候

國産ソリデチット應用
建築材料の出現

「型錄進呈」

アサノソリデチットタイル（一名アサノ、タイル）
陶器ノ追從シ得ザル色彩ト雅味ヲ有シ頗ル堅牢ニシテ而モ價格低廉ナリ
用途、室内及外裝用

アサノソリデチット安全壁（一名アサノ、安全壁）
日本壁及西洋壁ノ上塗料トシテ吸水尠ク頗ル强靱、色彩自由ナリ
用途、外裝及室内水場用

アサノソリデチットスタイン（一名アサノ、スタイン）
外裝用トシテ獨逸「リシン」ニ比シ吸水絕無體裁佳良、價格亦極メテ低廉ナリ

アサノリユーム（舊名ヒノデリユーム）
鋪床料
床張用トシテ「リノリユーム」ニ比シ低廉、品質在來品ト異ナリ絕體ニ龜裂無ク且ツ濕分ヲ生ゼズ
用途應接室廊下及一般床敷用

「特約販賣店募集」

内外一手販賣元

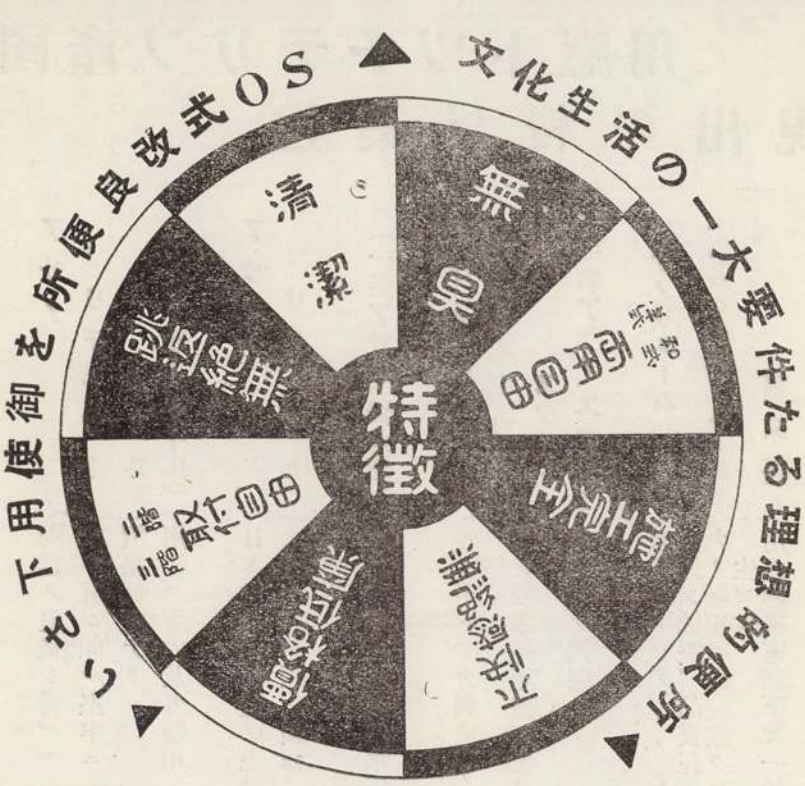
淺野物産株式會社

製造元

淺野理化學工業所

大阪市港區三先町四丁目五〇番
電話西長四〇六一番

改良 特許 便所



大阪市東區高麗橋五丁目
株式會社 須賀商會内

OS商會

電話本局 三四五番 九九八 八九一

建築衛生設備設計施工

營業種目

▼水道▲ 公私水道・ポンプ、屋外給水裝置。
▼防火▲ 防火栓裝置、スプリンクラーシステム、消防用器具、サイヤーミンスコンネクシヨン、ミニマツクス消火器。
▼衛生▲ 洋和風浴室、洗面場、臺所、便所、下水道、汚水淨化裝置、塵埃處理裝置。
▼暖房▲ 蒸汽暖房裝置、溫水暖房裝置、熱氣暖房裝置。
▼換氣▲ 自然換氣、機械換氣、冷風換氣、空氣洗滌裝置。
▼冷藏▲ リフリゼレーター。
▼眞空式掃除裝置▲ セントラル、バキユーム、クリーニングシステム。
▼右設計工事請負及同機械器具材料製造並ニ輸入販賣

米國スタンダード衛生器具製造會社
米國スローンバルブ製造會社日本總代理店
米國シカゴポンプ製造會社

米國スペンサークリーナー會社
米國ベージボイラー製造會社日本總代理店
獨國ミニマツクス消火器會社

〔創業明治三十四年〕

宮内省御用達

株式會社 須賀商會

大阪東區高麗橋五丁目
電話本局(一一八九三番 一一八九四番 一一八九五番)

支店
東京
名古屋
京都

支店
住吉
神戸
博多

鋼製建具

シヤッター
サッシュ
ドアー

元大阪鐵扉製作所

日本鋼製建具株式會社

大阪支店

大阪市西淀川區傳法町南二丁目

電話土佐歯五九二〇番

本　社　東京市丸ノ内丸ノ内ビルヂング八階　**電話丸ノ内3627**

東京工場　川崎市大師河原　**電話川崎973**

大阪工場　大阪市西淀川區傳法町南二丁目　**電話土5920**

◀工施ニ並賣販▶

耐火リノリウム
セメントプロツク
ドロマイト
㊊プラスター
特許ストンプロツク
特許ポーラスライ
マグネシヤセメント

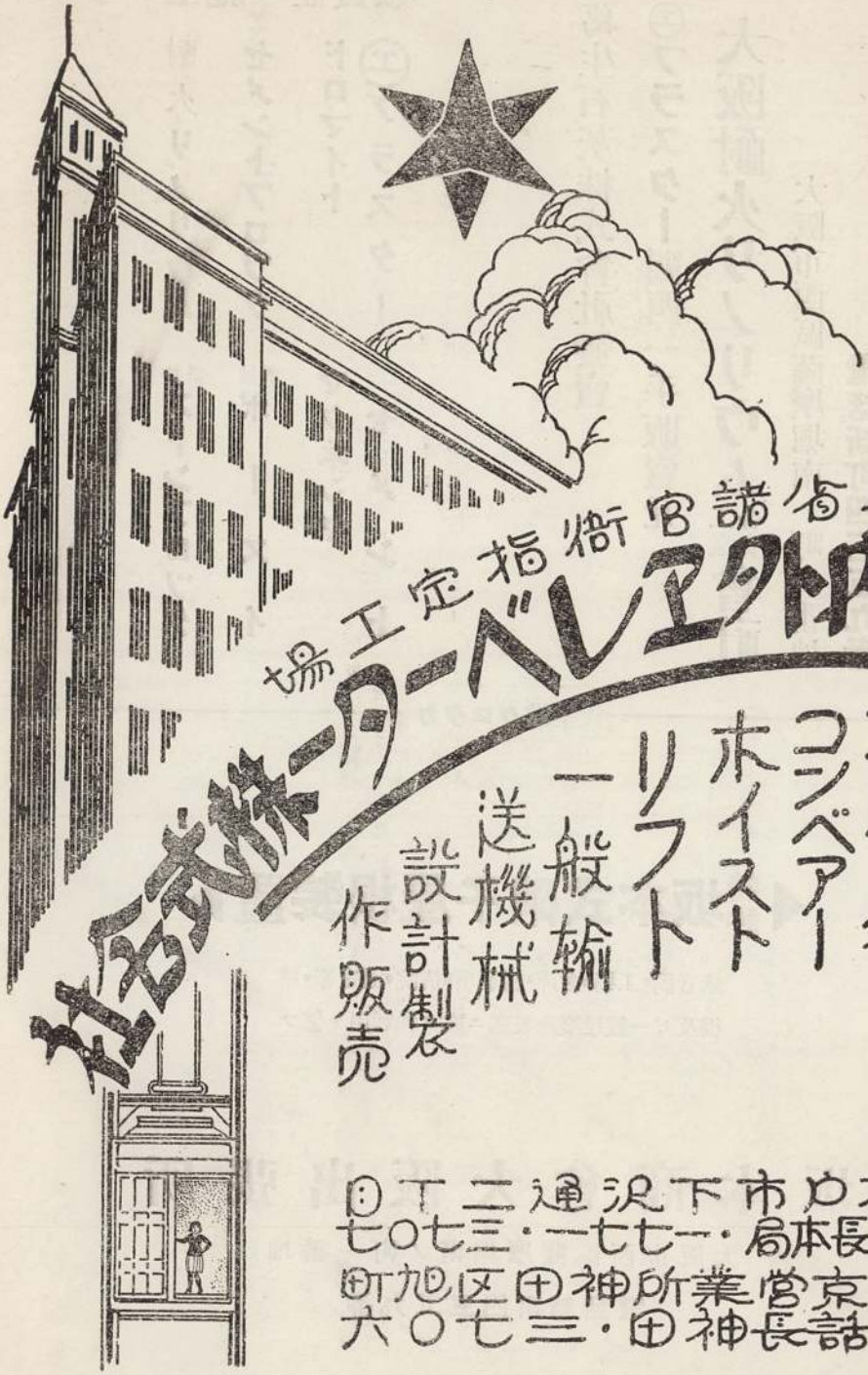
葛生石灰株式會社發賣
㊊プラスター關西一手販賣元
大阪耐火リノリウム工業合資會社
大阪市西區薩摩堀南ノ町一番地
電話新町四三五九番

カタログ進呈

◀特許坂本式硝子屋根裝置▶

諸官衙・工場・倉庫・撮影所・病院・溫室等・屋根及ビ一般建築物天窓ニ廣ク御利用ヲ乞フ

坂本商會大阪出張所
大阪市西區薩摩堀南ノ町一番地
電話新町四三五九番

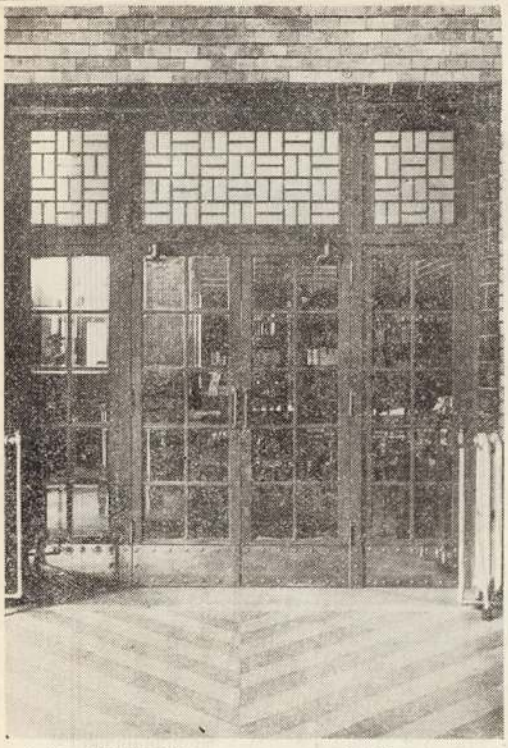


各省諸官衙指定工場

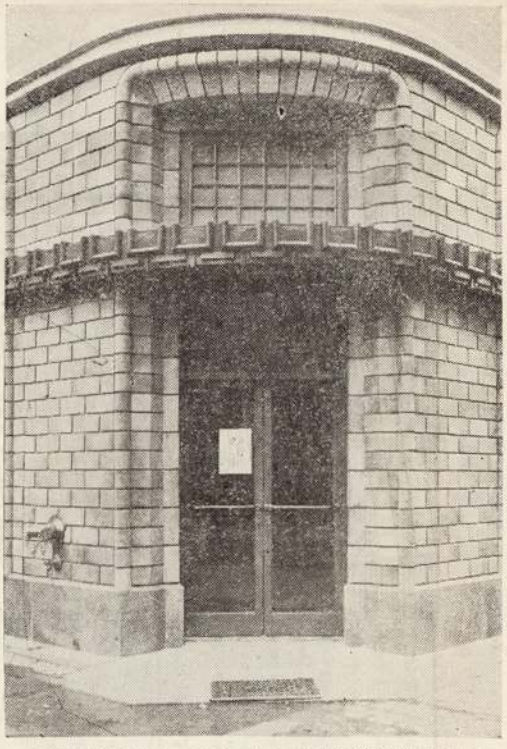
日本エレベーター株式会社

エレベーター
コンベアー
ホイスト
リフト
一般輸送機械
設計製作販売

神戸市下沢通二丁目
電話長田局・一七七一・一七〇三
東京営業所神田区旭町
電話長田神・三七〇六



大阪高麗橋野村ビルディング　玄關内スクリーン　弊製作所施工



大阪高麗橋ビルディング　南丸隅資生堂出入口　弊製作所施工

安井建築事務所御設計
株式會社大林組本店請負

◉建築ノ進歩ト防火ノ設備◉

請負

特許壽崎式**スチール、シヤツター**
特許壽崎式**スチールドウワー**
特許壽崎式上ケ下ケ**スチールサツシユ**
鋼鐵製書架類
鋼鐵製**シヨーウインドー**
鋼鐵製**スクリーン**並ニ造作
鋼鐵製**コンクリートドウワー**作
一般建築製飾金物製作

設計

◉東京横濱大阪ヲ主トシテ全國都市百卅數個所ニ御使用先ヲ有ス◉

東京鋼鐵扉製作所

本社　東京府下南千住町南千住433. 434番地

全關西營業所

大阪市東區上本町一丁目六番地
電話東1309. 1310番

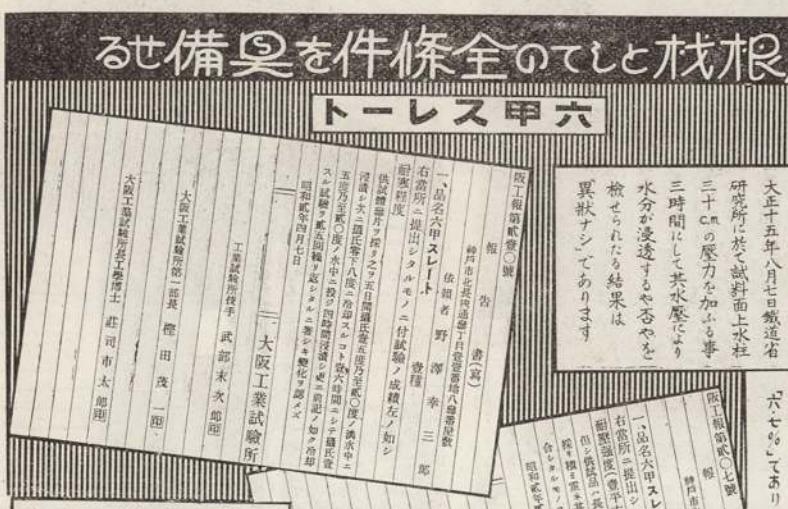
營業代表者　米山淺治
工場代表者　壽崎源太郎

屋根材としての条件を具備せる

トーレス甲六

六甲スレートの浸透程度
大正十五年八月七日鐵道省
研究所に於て試料面上水柱
三十cmの壓力を加ふる事
三時間にして其水壓により
水分が浸透するや否やを
檢せられたる結果は
「異狀ナシ」であります

六甲スレートの吸水率
大正十五年八月七日鐵道省の
試驗成績報告書によれば
「六七%」であります



六甲スレートの色合

現在於ける主なる色は赤黒及緑の六種でありますが此内赤黒色を使用致して居ります

茲に六甲スレートは風雪に強く分子組織でありますから鮮麗な復久性ある事不可能であります表面のみの染色は決して致さないであります

六甲スレートの導熱

石綿盤はコルク次ぐ不良導體であることは世間周知の事實であります六甲スレートは石綿盤と同等であり厚さ約三倍ありますから二層造就の効あり事申迄もなく存じます

英國アスベストシメント會社の發表する處に依れば左通りであります

Iron	100
Asphalt Tile	58.2
Natural Slate	44.4
Fibre Cement	13.9
Cork	0

六甲スレートの伸縮

膨張収縮は0.0002四位にして一萬分の三強の伸縮あるのみであります

道具屋

軒先ケラバ用各壹個は勿論棟半棟鬼板「巴」縋り等各種取揃居り各「其甲」とも製作致して居ります

維持費不要

耐壓力の強大と凍結試驗をパスせる六甲スレートは自然維持費を要せず永久の御利益勝少でありません

六甲スレート
特長より体裁は
美麗荘重の如くであります
又雨ゆりを防ぎ氷柱を落がさゞるなど最も新しき形狀の特長を持つて居ります

錆型 愛吉入美水 卵沙汰

弊社の特許權

專賣特許	No. 29305	四十二年八月十
〃	No. 30344	五ヶ年
〃	No. 67558	大正ヶ年
〃	No. 68522	〃
〃	No. 68644	〃
實用新案	No. 99921	〃
〃	No. 101526	〃

製造 日本石綿盤製造株式會社
發売 野澤幸三郎商店

神戸 元長狭ニTD 電 2830 2831
東京 丸内 丸内3670
大阪 綿業所 大江ビル内
福岡 銀行通ニ六 北 5994
振替 大阪 1945

優良國產屋根材の權威



見本進呈

九州帝國大學教授 岩岡博士考案



實用新案 **岩岡式木工錐** （型錄進呈）
能率增進 國產隨一

實用新案 **岩岡式自在製圖机** 高低角度自在
特許既願 **岩岡式萬能製圖機** 用法擴大
特許既願 **岩岡式簡易腰掛** 高下自在
【型錄送呈】



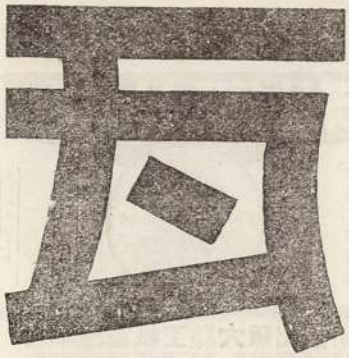
高級機械工具商
福岡市下店屋町十五番地
株式會社 **谷商店**
（電話一九〇六特長一四四四番）

新案

平安瓦發賣元

品目
各國屋根瓦
各種色瓦
北國瓦
日本洋瓦

營業
土管各種
甍、便器類
葺上及販賣
淺野煙突



佐村木勝吉

大阪市東區材木町一番地
（入ヘ北詰東橋寺寶久）
電話東三六一〇番

檜實剝繼手付

櫻 床板

同上羽目板

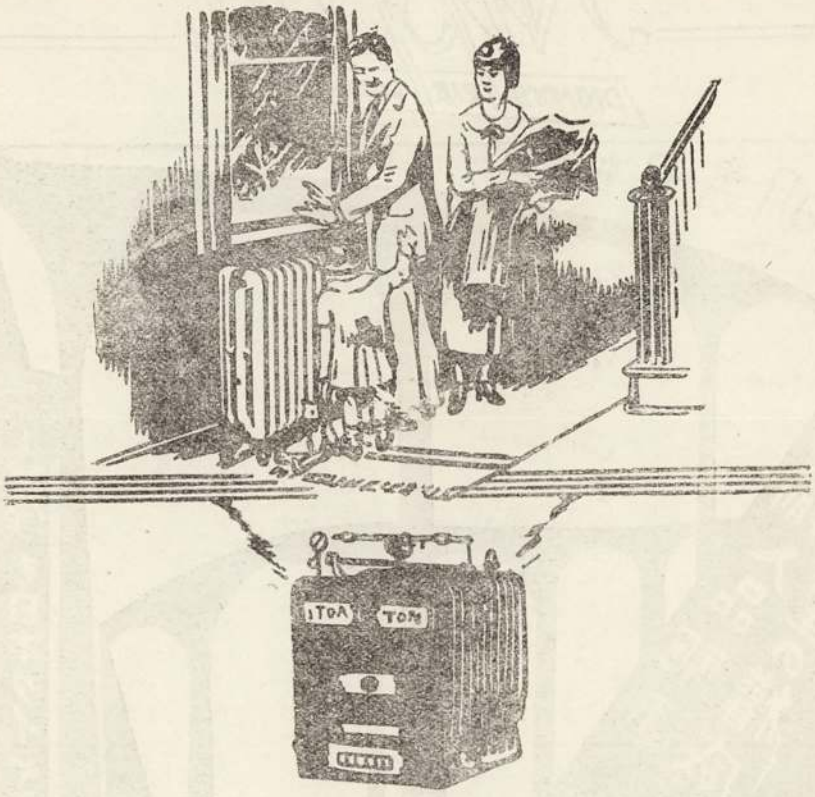
同上本寄木

特許第六六〇八九號
伊丹式パーケットリー（簡易寄木）
特許第六五八九一號
伊丹式フローリングブロック
（コンクリート床板上直接張込床材）
三菱合資會社營業課製
南洋產セラヤ材天井板
青森特產櫸材根太土臺其他

大阪 伊丹商店

大阪營業所
大阪市西區靭中通一丁目二〇番地（市電信濃橋停留場北へ一丁東側）
電話長土佐堀二四一七番

名古屋營業所
名古屋市西區南外堀町四丁目一番地
電話長本局四五九六番



營業案內

煖房部
煖房、換氣
温濕氣調整
水道、衛生
設計、施工

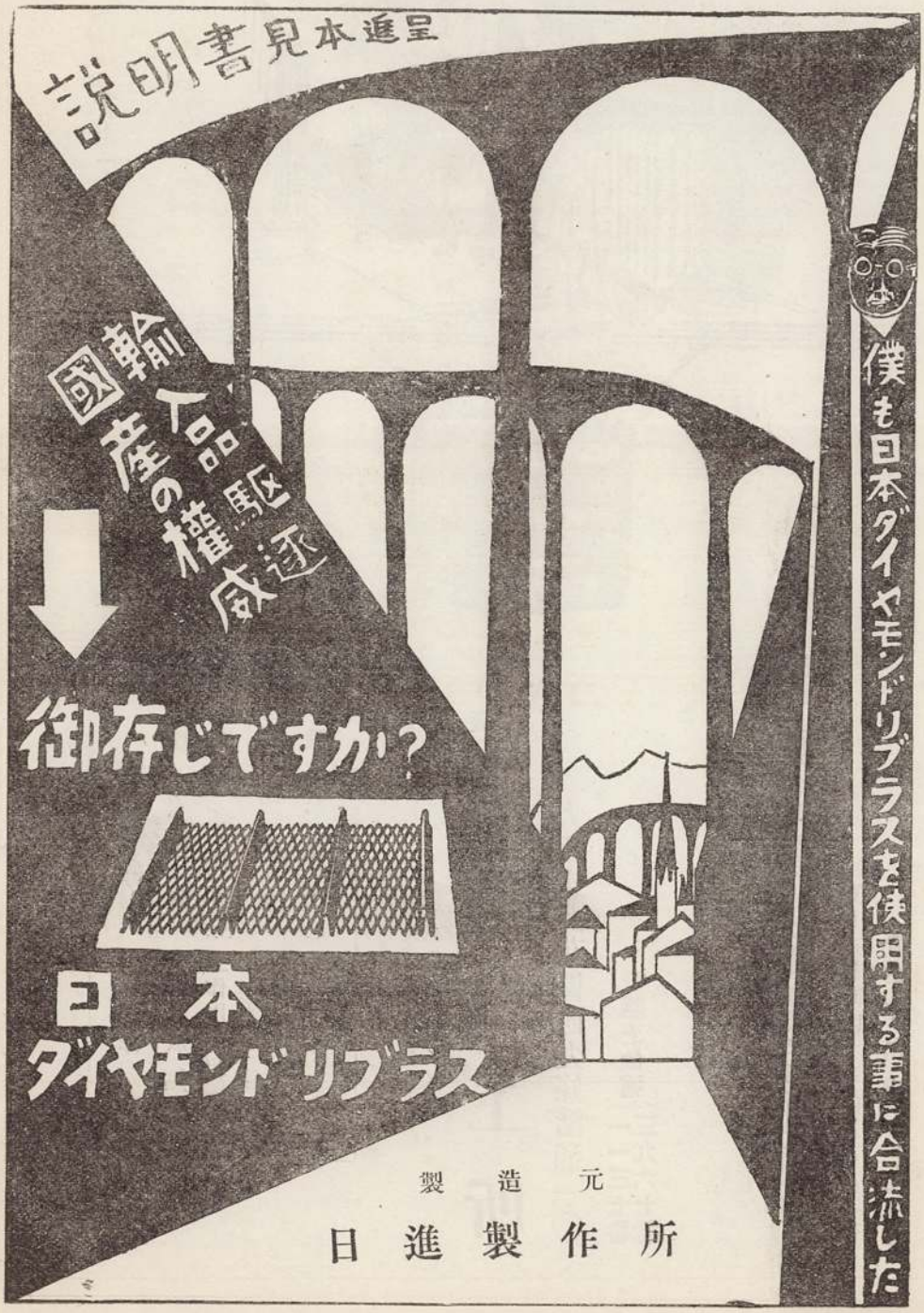
製作部
各種放熱器
工作用高級機械
汽罐、鑄鐵品
コンベーヤー、リフト、ケーブルカー

合資會社
東亞鐵工所
大阪市此花區西九條濱通一〇
電話土佐堀(一一三七番
(三九六七番

合資會社
東亞鐵工所東京出張所
東京市麹町區丸ノ内ビル八七五
電話丸ノ内(23)一七九六番

Nippon

DIAMOND RIB LATH.



全國一手販賣店

東京市日本橋區元四日市町二
三共貿易株式會社
電話日本橋二四八六・二四八七
三九九一番

大阪市北區中之島六丁目
關西代理店 奥村重兵衛商店
電話 土佐堀四六一番

最も進歩せる使い易いプラスター

スタッコ、マンチュリヤ

主なる特長

一、布海苔を要せず、其儘水にて練り塗工す
一、硬度適當なれば音響を反射せず
一、輕くして剝落、龜裂の憂なし
一、純白美麗、顏料にて着色任意、褪色せず
一、施行後水洗ひしても表面を損傷せず
一、價格低廉、御試用を乞ふ

耐火床張リグノイド
工場床張リグコッタ
美術床張マグコルク床
防火防水壁ロックスタッコ
水硬性防火防水壁リソイド
水硬性防音內壁ヱラスコ
マグネシアセメント

型錄進呈

一手販賣店元 三井物産株式會社

製造元 南滿鑛業株式會社

大阪市港區北境川町二丁目三十五番地

大阪出張所

電話長西三四八九番

玲光社

ステインドグラス
模細工
プリヅム
各種色硝子

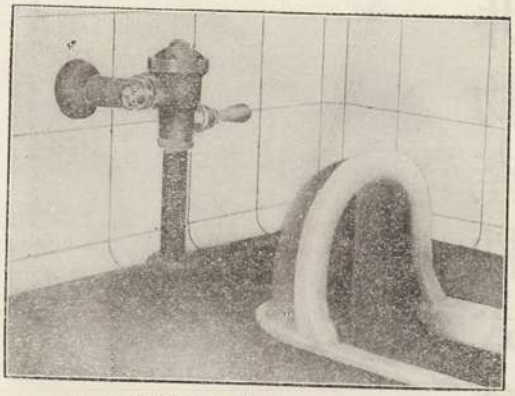
大阪市天王寺區南河堀町
電話 天王寺 七九四

東京澁谷青山南町七ノ二
電話 青山 一八八〇

鈴木三太郎
鈴木太郎兵衛
鈴木内崎
鈴木木三廣

辨滌洗所便洗水

ヨネ.フラッシュ.バルブ



定指御課繕營學大國帝京東
可認御所役市都京・阪大・京東

製造發賣元 米本商店

大阪市幸町三丁目二番地
電話櫻川三八八〇番

重なる納入先

東京帝國大學　京町堀ビルデング
正金銀行東京支店　太平ビルデング
日本大學　大阪市電氣局
大阪ビルデング　大軌電鐵會社
船場ビルデング　新京阪電鐵會社

大阪造幣局　大寶小學校
灘萬食料品店　八幡屋劇場
三越呉服店別館　兵庫縣立女學校
大阪府知事官舍　名古屋共濟ビル
大阪商船紅丸　京都明治ビル
芦原小學校　滿鐵病院

◉防火宣傳◉

阿部式スティールサッシュ製作
阿部式スティールドーアー製作
自働捲上防火シヤッター製作

鐵骨建築及附屬金物一式
鐵塔橋梁其他構造物一式
エレベーターリフテイング一式
鐵扉鐵柵類一式

合資會社 **阿部鐵工所**

大阪市西淀川區浦江上二丁目五九
電話土佐堀（長一八一四番 三一一一番 八〇〇八一四番）
振替口座大阪四八〇五一番
受信略電（オウサカアヘテツ）



淺野理化學工業所製

アサノソリヂットタイル
アサノソリヂット安全壁
アサノソリヂットスタイル
アサノリノリユーム鋪床料

ユニオンアスファルト
小倉アスファルト
内外各種ルーフ井ングス
大連ドロマイト
大明式スカイライト
米國ミシシッピ會社製ガラス一切
網入波形グラス
米國GF會社各種ラス
セロテックス
内外各種ペンキ
其他橋梁材料並ニ請負

（型錄進呈）

一手販賣元

淺野物産株式會社大阪支店

建築材料部

理想的耐久的不燃スレート板



浅野スレート
日本石綿盤
朝日スレート
金剛スレート

品質堅牢
体裁優美

日本スレート販賣株式會社大阪支店

大阪市西區江戸堀南通一丁目廿一番地
電話土佐堀㊦3468番・3469番
本社 東京市京橋區三十間堀三丁目
電話銀座㊦684・841(專用)1860・1861・1862番(接續)
支店 横濱市常盤町5丁目81番地電話本長者町(3)5207番
門司市東本町四丁目 電話㊦548番
出張所 名古屋・仙臺・京城

飛行機印



アスファルトフエルト
便利瓦
アスファルト各種
電氣絶緣材料

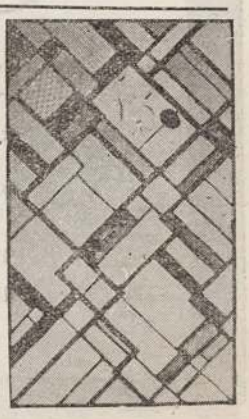
大阪市此花區大開町三丁目九番地

梶田豊治

電話長土佐堀五六〇一番

ステインドグラス
グラスモザイク

VENUS STUDIO



大阪市東區谷町二丁目五　電東四二二〇

出張所　東京　　代理店　京城

ベニス工房

電力ト電燈

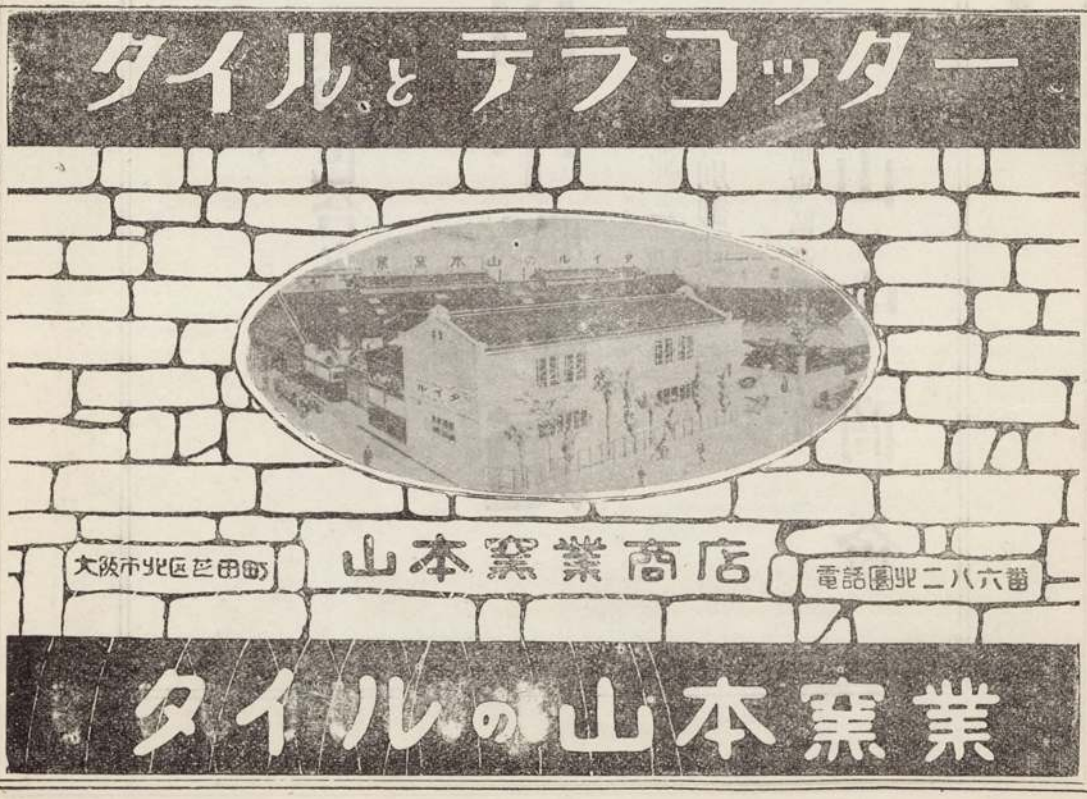
美術裝飾電燈器具製作
電燈電熱避雷針電話工事
設計監督工事請負

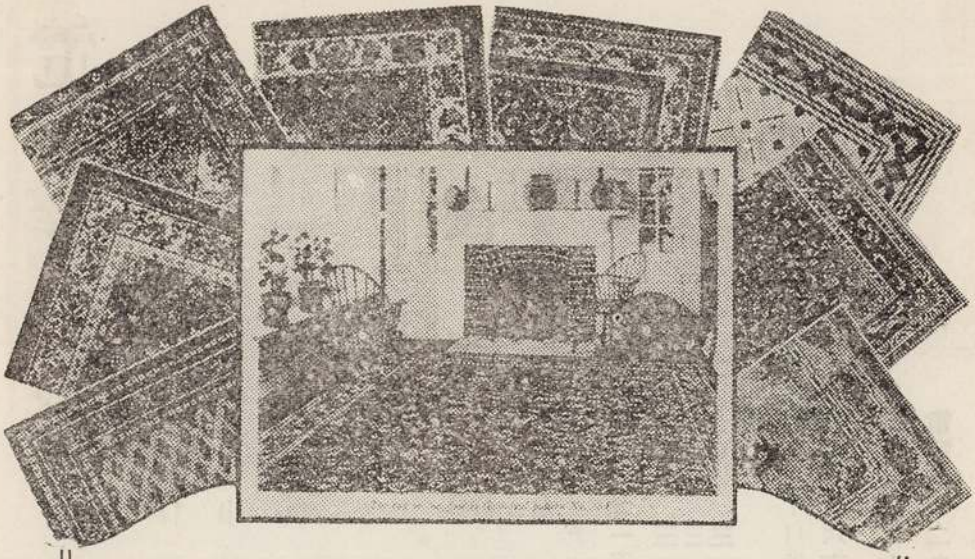
淺海商店

營業所　大阪市北區絹笠町九番地
　　大江ビルヂング三階
電話直通　北一五七六番
交換北一二一五番　三一九六番
　　二六二〇番　三一九五番
　　三一九七番

工事部　大阪市北區曾根崎上三丁目卅六番地
　　北六六四二番

東京支店　東京市芝區田村町七番地
　　電話芝(43)二九七〇番





大小色々

模様色合各種

山中支那緞通

寸法並ニ模様
特別御註文ニ應ズ

大阪市東區高麗橋一丁目

山中商會

家具と室内装飾

笹岡家具装飾店

弊店は 眞面目がモットー
皆様方の使用人

營業所 大阪市西淀川區海老町
工場 一四八五番地
電話土佐堀 二九六九番
振替口座 大阪七九七三三番
福ﾌｸﾛｸﾞ祿

S.S 品川タイル

品質優良
技術精巧

各種タイル製造販賣

品川白煉瓦株式會社大阪支店

タイル販賣所

大阪市西區靭北通二丁目二六
電話土佐堀七一一番

陸屋根地下室用防水布

専賣特許 富士印 クロースルーフ井ング



本品は純麻織物を主要材料とし無酸乾燥性天然アスファルトを應用し强度仲度滲透壓に於て同種品中最高の記錄を有する合理的にして最も進歩せる

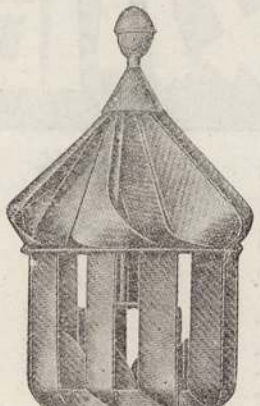
クロースルーフ井ング製造所

工場 大阪住吉

大阪市東區平野町四丁目五八番地 電話本局五四〇七番

!! 除風器界の權威 !!

！學理と實際に基き製作したる最新式除風吸揚器！



田中式ベンチレーター

保健！衛生！ 田中式除風吸揚器

實用新案（新案特許第一一四四八六號）

營業科目

- ◉和洋式建築金物
- ◉ブロンズ眞鍮製建具裝飾金具
- ◉窓金手摺鐵柵鐵扉類
- ◉釘針金平浪板諸材料
- ◉鋼鐵自働防火シャッター

＝製作＝請負＝直輸入＝

ユニオン印 建築金物製作發賣元

合名會社 西孫南店 建築金物部

電話北二八五〇番

大阪市北區南森町五四番地

南森町交叉點二筋南ノ辻西入天神小橋筋

直輸出入部 大阪市南區順慶町二丁目 電話船一九六・一九七番 三〇二九番

便所之改善

専賣特許第三二七九八號

大正便所

特長

臭氣、蛆、蠅の發生
跳返、盜難の憂　絶對皆無
現在汲取式の理想的便所

専賣特許第三六七一五號

株式會社 城口研究所大阪支店

城口式汚水自然淨化裝置

水洗便所必須清潔、完全、簡易の下水に放流裝置

一般給水衛生工事

大阪市北區曾根崎中壹丁目五十七番地

電話北 特長三一九一八番

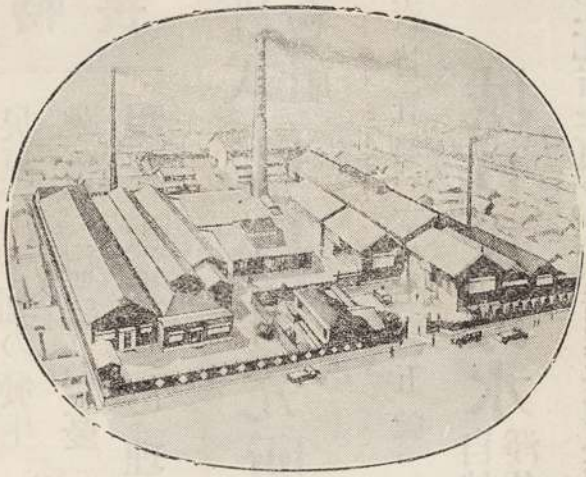
本店　東京市神田區千代田町十八番地　電話神田 特長二五二二番 二五二三番
出張所　名古屋市西區本町三丁目五番地　電話東 二三七〇番
同　京都市大和大路前佛町　電話下 四七二四番
同　神戸市三宮町一丁目百七十番地　電話三宮 一六一八九番
同　横濱市常盤町五丁目八十一番地
同　廣島市竹屋町百三十五番地　電話 二八〇八番

辨柄

登録商標

誇るべき弊社製品の特長

成分含有量の的確　分子微細にして一定不變
色澤鮮麗にして純新　大量製産にして安價提供



用途

塗料用　製紙用
ペイント用　リノリユーム用
染色用　燐寸用
陶磁器用　ゴム製造配合用
漆器用　電線被覆用
建築用　印刷インキ用
皮革用　印刷製版用
防水布用　スレート用

製品種目

富士印	金鳳印	白鳳印	朱雀印	金鵄印	丹頂印	四十鳥印	隼印	鴫印	椋鳥印	鵙印

（見本進呈）

發賣元　合資會社　**大平工業所**

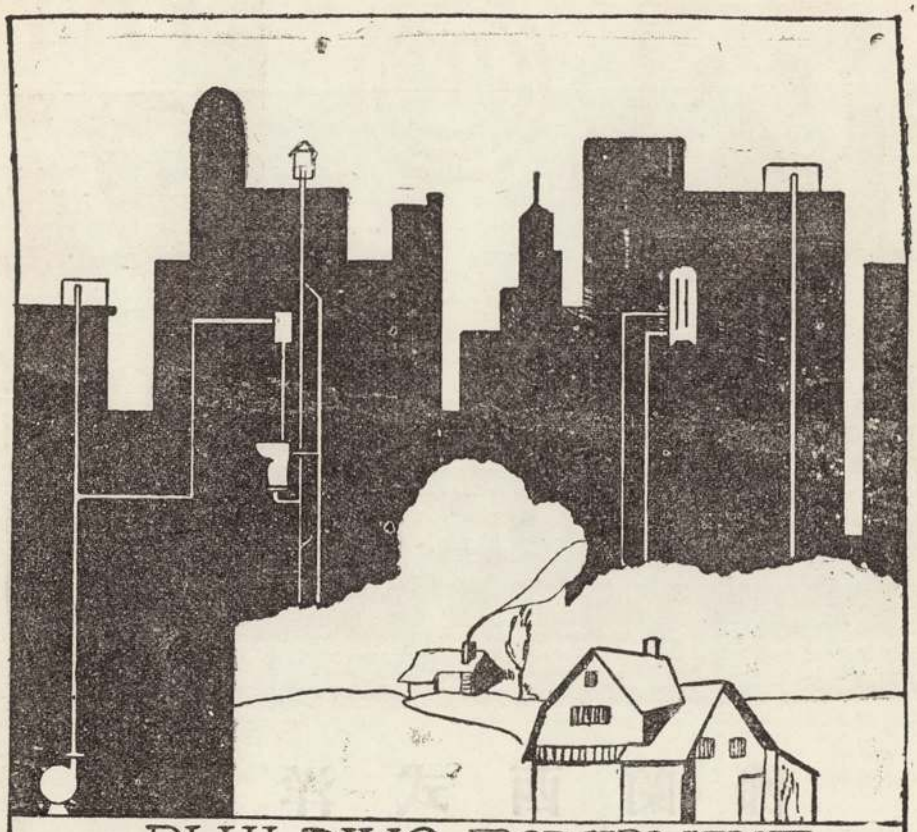
大阪市西成區長橋通四丁目

電話櫻川二六三八番
振替大阪六三九二五番
發信略號（オヒラ）又ハ（オ）

大阪市東區道修町二丁目

代理店　**藤澤友吉商店**

支店　東京市日本橋區本町
支店　京城府西小門町四二



都市水道
衞生給水
煖房換氣
防火裝置
特許汚水處理
病院設備

桐田商會

大阪市北區木幡町八二
電話北二七五一番

東京市芝區田村町十五
電話青山五三七五番



佛蘭西式洋瓦

◎綠色洋瓦　◎黑褐色洋瓦
◎赤色洋瓦　◎各種日本瓦

各種洋瓦の製造販賣
屋根工事の請負

十大特長

實質堅牢　形態合理
色彩優美　重量最輕
葺土無用　凍害絕無
葺方簡易　吸水殆無
製品統一　雪止不要

セメント製瓦にあらず
申込次第カタログ進呈

日本洋瓦株式會社大阪出張所

大阪市北區曾根崎中二丁目
第一曾根崎ビルヂング内
電話北(二一一五五六)番

TRADE  MARK

高級藥掛タイル
專門工場

名古屋市東區中市場町三丁目

㊎ 佐治タイル合資會社

電話長東 二二三四 二二三四 六三四四 四五二一〇番

工場電話東 三四一一 四一二二番



塗裝工事請負
設計並ニ
材料販賣

松本商店

主店 松本壽美

大阪市北區宗是町十番地中島ビルヂング内
電話土佐堀二九一・二一二五・三五〇九番

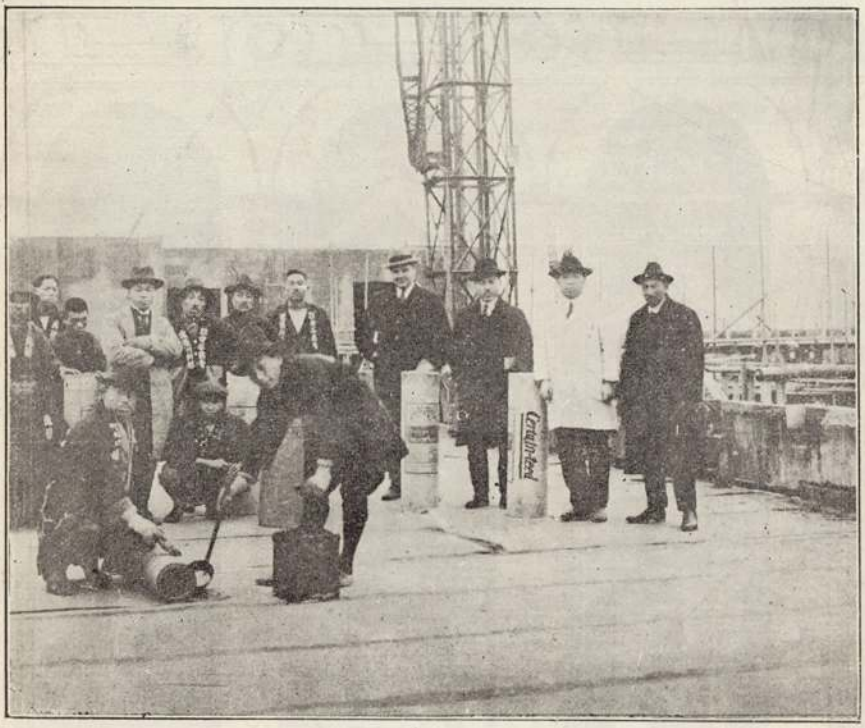
Certain-teed

世界建築大家指定品

サーテンティード便利瓦（ルーフイング）

サーテンテイード　ルーフイグにて施工の屋根

品質優秀
價格至廉



東京　帝國大學工學部屋上



主なる御使用先

丸之内ビルヂング	三菱鑛業會社
日本郵船ビルヂング	久原鑛業會社
有樂館	横濱ユーナイテッドクラブ
東京帝國大學	横濱スタンダード會社
東北帝國大學	横濱ライジングサン會社
早稻田大學講座	清水組
三越吳服店	大林組
上野松坂屋本館	竹中工務店
アメリカンスクール	安藤組
東京女子大學	大倉土木會社
三菱地所部	戸田組

サーデンテイード
リノリーユーム

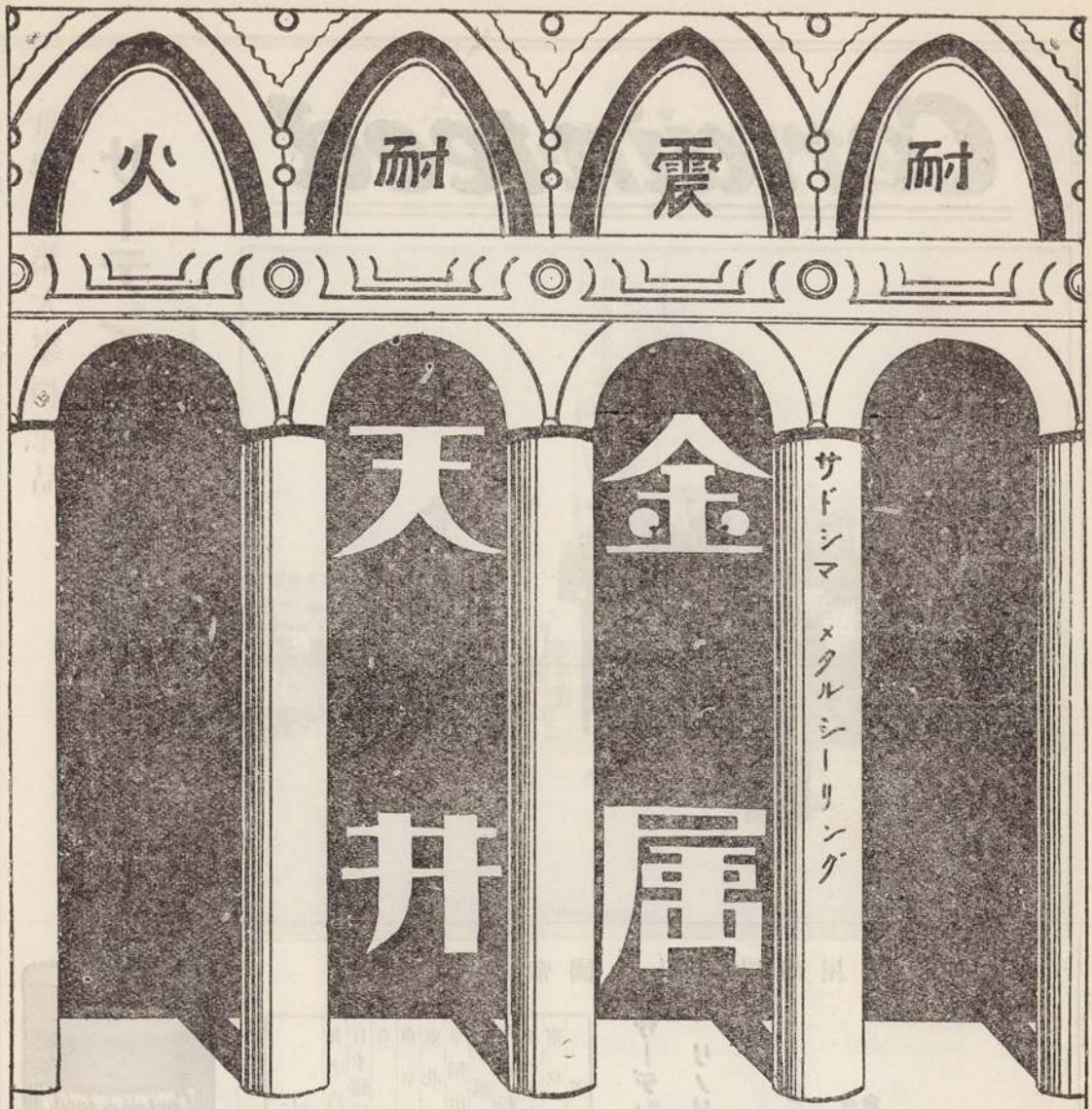
本品は質に於て和製品を凌駕すること數等價又た至て廉なり

日本直輸入代理店

合資會社 **デゥエット商會**

東京市麹町區内幸町一丁目大阪ビル
電話銀座一〇八一番

大阪市東區今橋一丁目帝國ビル
電話本局三七四四番



御希望により亞鉛引平板。銅板。亞鉛板にても御用命に應じます。
尚又特殊御希望模様製作にも御相談に預ります。

營業品目

金屬天井板
亞鉛引平板
亞鉛引浪板
亞鉛引鐵線
鋲　力　板
洋　釘
泪目浪板
薄　鐵　板
セラー釘

型錄贈呈

金屬天井板）
羽目浪板）製造發賣元

大阪市南區安堂寺橋通り三丁目

佐渡島西店
金屬天井部

電話船場 九二二番 九三二番 九三三番

蔭摩堀倉庫用新町九五七番
振替口座大阪三二七三八番

セメントを早くかたまらせる
ケーテーオー



セメント急硬防水劑
ケーテーオー
◎衛生的家屋に必要下水
◎セメントにまぜて素人でも使ひ
五分より十分間で自由に固ります
◎ふく水も水なく水完全にとります
◎どんな寒さでも凍る中に固ります
◎堤防、水道、發電所水路、貯水池、船渠、隧道、水槽、壁、家根、倉庫、風呂場、流場、其他どんな所にも必要です
專賣特許
登録商標
KTO
說明書進呈

東京市芝區愛宕下町一ノ四　電話芝一五一二番

製産高東洋一

優秀タイル窯元

DK

淡陶株式會社

本社　兵庫縣三原郡北阿萬村　電話本社一〇

福良工場　同縣三原郡福良町　電話福良一九

大阪支店　大阪市西區阿波座中通一丁目　電話〔新町長四五二〕〔新町二四八三〕

東京支店　東京市日本橋區濱町二丁目　電話長浪花六三〇五

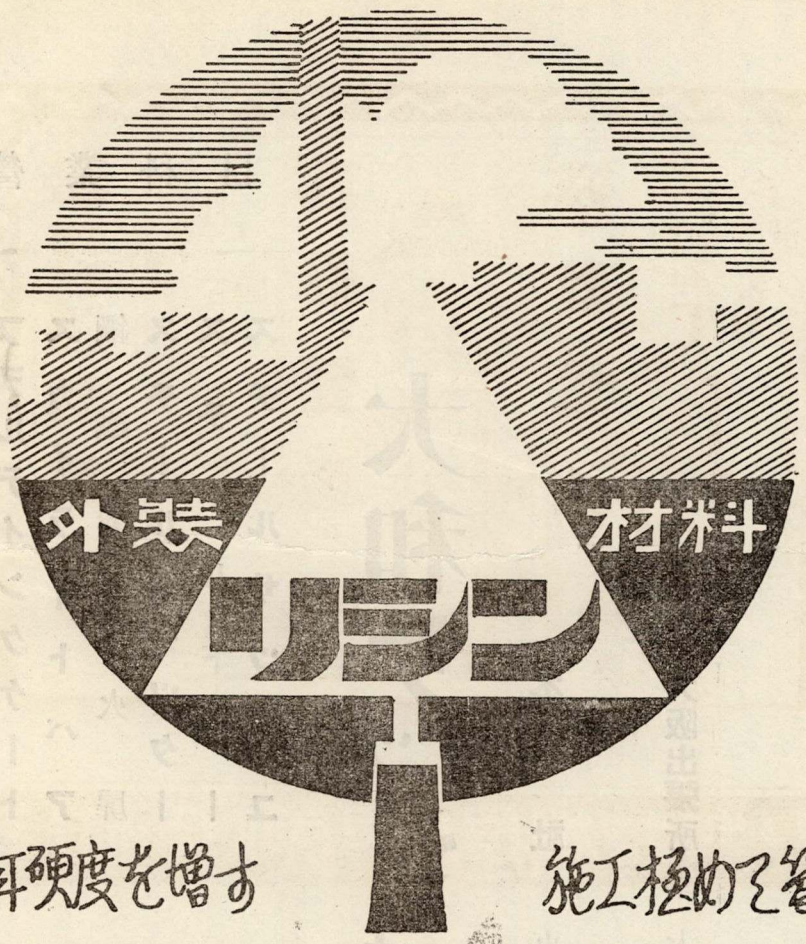
大和サッシュ株式會社

営業科目

鋼鐵製家具類
フヲルディングゲート
スカイライトバア
鋼鐵製防火扉
スチールシヤツター
スチールドアー
スチールサッシュ

本社　東京市外品川袖ケ崎四九三番地
電話御殿高輪 二一〇八番

大阪出張所　大阪市東成區東小橋町十四番地
電話南二三三一番



塗料硬度を増す　施工極めて容易

亀裂褪色の憂なし　價額亦頗る低廉

感じよき色と肌

合資 建材社 會社

本　社　東京市日本橋区檜物町十弐　電話日本橋(24) 3501-3502-3503
出張所　大阪市西区江戸堀上通壱の廿五(江戸堀ビル内)　電話 土佐堀 2786



淺野波形板

母屋が木質でも鐵骨でも
野地板がなくも勾配が緩
くも取付られる
天下無敵の屋根材



淺野壁板

强靱の石綿セメント製ゆ
ゑ下見・内壁・天井・間仕
切壁等に用ひて
比類なき最適品



淺野煙突

燒けない・錆びない・
腐らない・火の用心
に
淺野煙突

社會式株トースレ野淺

市京東	市阪大	市司門	市屋古名	市幌札
三十開國三	三地等綿石東北	白水綿	三町通銀南區中	ノ一四東條三北
1860 1861	5081	1228	1097	598
1862	5082	1931		

建築ノ耐久ト美觀ハ屋根材料ノ撰定

KS式陸屋根地下室防水工事
太陽印アスファルトルーフキング
マルソイドルーフキング
テキサスルーフキング
各種アスファルトフエルト
耐酸性アスファルト工事
セメント防水劑マノール

見本型錄呈上

本店 大阪市西區江戸堀南通五丁目
電話土佐堀(二一)六六番
～(二一)七一五四番

木下謹三商店

支店 東京市日本橋區濱町三丁目三番地
電話浪花二二五二番

石綿スレート（石綿盤）
天然スレート（石盤葺）
獨逸式セメント瓦
エキスパンデットメタルラス
淺野波形スレート
其他各種建築材料
販賣並ニ工事請負

三熊疊製所

創業明治四十四年　神戸市東尻池町五丁目　電話兵庫一四六九番

▲當所の疊製品は現に我國屈指の建築技師及技術家を始め別莊住宅各官廳及重要會社の設計指定疊として多大の御用命を蒙りつゝあり

特長
製品優秀　技術超絶
納期正確　在庫豊富
價格至廉　確實叮嚀
疊内部防水防塵衛生裝置

新疊
院寺　校用
堂殿　學等
莊別　社會　宅住
席茶　館洋　官省

負請事工般一疊

賣販地布綠及表疊
全國

販路―關西關東ヲ始メ全國各地一圓現場納入

▼御設計又は御見積の上に於て疊一切の事に付御不審の點は御相談下され候はば委細御説明申上候

價格表御一報次第送呈仕候

出張所々在地　大阪　京都

建築用鐵材

丸鐵、鐵板
角鐵、アングル鋼
平鐵、ジヨイスト鋼
チヤンネル鋼

大阪市西區立賣堀北通二丁目

山本東作商店

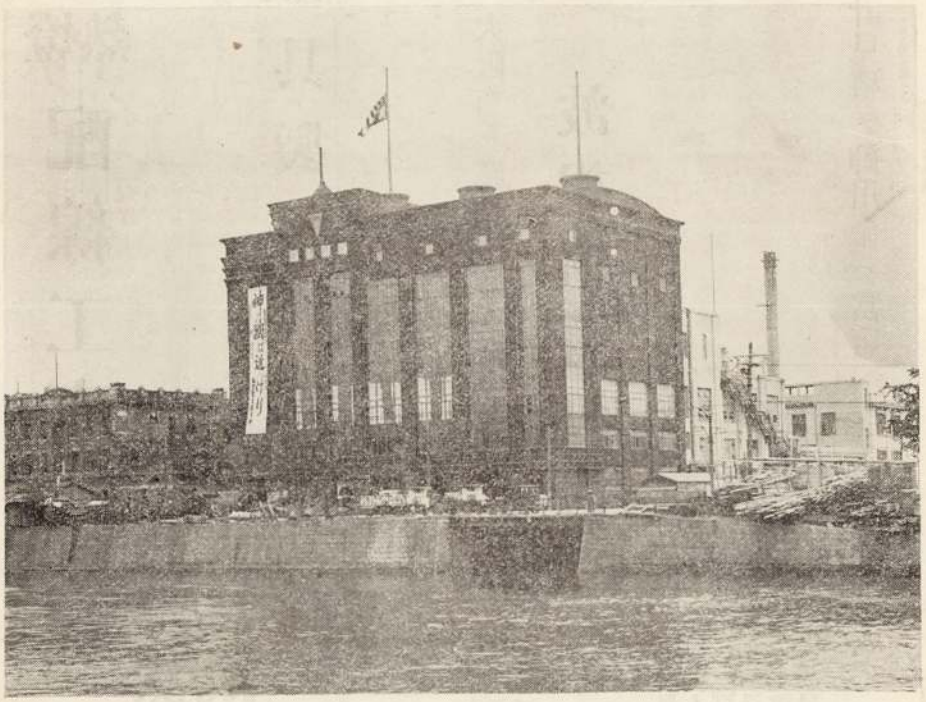
電話（同）新町七四番
（同）七五番
（同）七六番

受電略號オザカ、ナニワヅ

鐵筋用丸鐵

在庫豊富見積書御一報次第提出可仕候

江東サツシ御採用の大阪朝日會館



江東サッシ

東京・龜戸

電話墨田3138番

電電
熱燈 配線工事
器具製作請負

大阪市北區相生町一〇一番地
波根田電氣商會
電話東一六九五番
（設計見積ノ御用命ハ當店ヘ）

TRADE MARK NKS M.F.G.CO.

材料卸販賣
便利瓦
アスファルトタールフエルト
スタンダートルーフイング
パーマネントルーフイング
アスファルトクロッス
アスファルトヘッシヤンクロッス
防蟲防濕疊下用
ナフタリンペーパー
トリンダートアスファルト
及内外各種アスファルト

日建式
防水、耐酸、アスファルト工事請負
ダイヤモンド印ルーフイング製造發賣元
日本建材社
大阪市西區南堀江通三ノ二七
電話櫻川二五九九番
振替口座大阪五三〇〇五番
倉庫 大阪市西區南堀江通二ノ二二
電話櫻川三一二一番

見本型錄贈呈

アサヒ便利瓦及アスファルト製品關西販賣店

HEATING. VENTILATION AND PLUMBING.

大和工業株式會社

營業科目

各種煖房裝置　換氣裝置
給水給湯裝置　衛生工事
汚水淨化裝置　蒸氣諸裝置
宮崎式ペーチカ

溫濕度調整裝置　冷房裝置
製氷及び冷藏裝置　除塵裝置
空氣輸送裝置　眞空掃除裝置

以上の設計、監督、工事請負竝ニ材料販賣

本社　大阪北區曾根崎上四丁目三三番地　電話北一〇七八・六二九一番　略受語電（ワイダカサオ）
支店　東京市京橋區南傳馬町三丁目五（第一相互館二〇八）　電話京橋三二三七番　略受語電（ワイダイケウト）

電燈と電力
照明器具
水道と暖房
機械と汽罐

設計製作
据付諸工事

特約 インターナショナル石油發動機
おのくち式A1型渦巻ポンプ

深井戸用各種ポンプ・ベリル
グライング・マグネット・チール

..TRADE MARK..

資本金 大阪東区平橋貳十四番地

大キナ商店

代表社員 小川繁太郎

電話本局 一三八九
五九三一番
振替大阪 一〇六一一番

汎建製「シヤツター」の特長

二、力、時間其他の節約。 沼島式完全「バランス」は扉が降りる時軸心に起る力を捲胴内に裝備した螺條撥條に貯へ置き、捲上げる際充分に是れを利用する裝置であります。毎朝汗水たらして、少なからぬ時間を費して捲上げた「シヤツター」を、其夕べ閉めるとき態々調速機や「ブレーキ」などで、勿體なくも折角の潜勢力を無用な熱に變へて放散させて、其れで濟ましてゐるとは、何と可笑な話ではありませぬか。沼島式完全「バランス」「シヤツター」は特許平衡裝置により、此の馬鹿々々しい無駄を省き又其機構の簡單と特に吟味した精良な撥條とは、永年に亘り、故障を起しませぬから、修理の費用と面倒とを除きます。

此裝置を大きな扉に使へば電動機の必要はなく一日數分だけの運轉に一ケ所一個の電動機を付ける無駄も見なくて濟みます。

大阪市此花區恩貴島北之町十一番地（電話土佐堀四〇二〇番）

合名會社 **汎建製作所**

代理店 三井物産株式會社

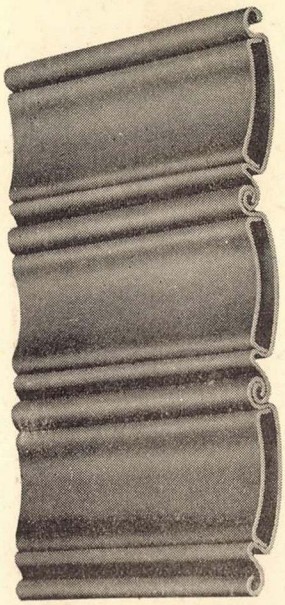
SUDZKI'S PAT. **HOLLOW SHUTTER** PAT. AP'L'D TO THE U.S.A.

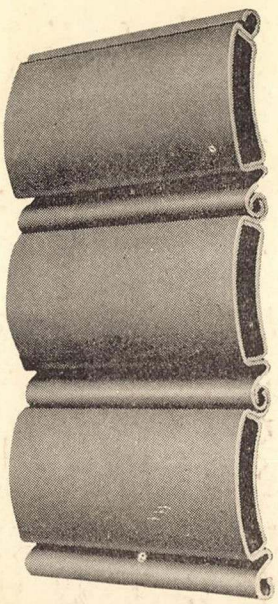
米國特許出願

日特
英許

鈴木式ホロー・シヤター

（最新式シヤッター）





大正十五年英國政府へ特許出願中の處昭和二年二月十七日第二六五八七三號を以て特許々可せらる

ホロー式の特徴

1 ホロー式は權威ある火熱注水試驗の結果熟の傳導の遲いのか著しい特徴であつた。

2 ホロー式は高尚優美、堅牢無比、强盜、暴漢をして意氣銷沈せしむ。

3 ホロー式を DREADNOUGHT SHUTTERと英國人は評した。

4 ホロー式は卷徑が少さく素直に繹れて下ろ。

5 講鐵は特許鈴木式二重底レールを附屬せしむ。

6 錆止ペンキは浸漬式を用ゆ。

7 機械は精巧、函蓋は、美麗周圍と調和す。

ホロー式取付實例

◉取付場所及時日

◉名古屋市御器所町 南消防署

◉昭和貳年參月廿日

1 ホローシヤター三號型鎖引

2 巾 二十二尺 高十二尺出來上り寸法

3 シヤター重量二百貫、シヤフト壹百貫 合計三百貫

4 錆止ペンキ浸漬式を用ゆ

5 上下時間 輕く手繰て廿秒

◉取付けの結果◉

丈夫で、輕くて、工合のよいので皆な驚歎してゐる

東京 巢鴨町宮下一五四五—一五五五

建築金物商會

支店 京都市東山通月見町二